

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日

ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りが無いことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

M306NKT-EPB

ユーザーズマニュアル

M16C/6Nグループ M16C/6N4, 6N5, 6NK, 6NL, 6NM, 6NN用
エミュレーションプローブ

安全設計に関するお願い

1. 弊社は品質、信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品は故障が発生したり、誤動作する場合があります。弊社の半導体製品の故障又は誤動作によって結果として、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないような安全性を考慮した冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計などの安全設計に十分ご留意ください。

本資料ご利用に際しての留意事項

1. 本資料は、お客様が用途に応じた適切なルネサス テクノロジ製品をご購入いただくための参考資料であり、本資料中に記載の技術情報についてルネサス テクノロジが所有する知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾するものではありません。
2. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム その他応用回路例の使用に起因する損害、第三者所有の権利に対する侵害に関し、ルネサス テクノロジは責任を負いません。
3. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサス テクノロジは、予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。ルネサス テクノロジ半導体製品のご購入に当たりましては、事前にルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店へ最新の情報をご確認頂きますとともに、ルネサス テクノロジホームページ (<http://www.renesas.com>) などを通じて公開される情報に常にご注意ください。
4. 本資料に記載した情報は、正確を期すため、慎重に制作したのですが万一本資料の記述誤りに起因する損害がお客様に生じた場合には、ルネサス テクノロジはその責任を負いません。
5. 本資料に記載の製品データ、図、表に示す技術的な内容、プログラム及びアルゴリズムを流用する場合は、技術内容、プログラム、アルゴリズム単位で評価するだけでなく、システム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。ルネサス テクノロジは、適用可否に対する責任を負いません。
6. 本資料に記載された製品は、人命にかかわるような状況の下で使用される機器あるいはシステムに用いられることを目的として設計、製造されたものではありません。本資料に記載の製品を運輸、移動体用、医療用、航空宇宙用、原子力制御用、海底中継用機器あるいはシステムなど、特殊用途へのご利用をご検討の際には、ルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店へご照会ください。
7. 本資料の転載、複製については、文書によるルネサス テクノロジの事前の承諾が必要です。
8. 本資料に関し詳細についてのお問い合わせ、その他お気づきの点がございましたらルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店までご照会ください。

はじめに

この度は、株式会社ルネサス テクノロジ製エミュレーションプローブM306NKT-EPBをご購入いただき、誠にありがとうございます。M306NKT-EPBは、エミュレータ本体PC7501と接続して使用するM16C/6NグループM16C/6N4, M16C/6N5, M16C/6NK, M16C/6NL, M16C/6NM, M16C/6NN用のエミュレーションプローブです。

本ユーザーズマニュアルは、M306NKT-EPBの仕様とセットアップ方法を中心に説明するものです。エミュレータ本体、エミュレータデバッグに関しては、各製品に付属のユーザーズマニュアルを参照してください。

本製品の梱包内容は、本資料の1.1節「梱包内容」(13ページ)に記載していますので確認してください。なお、本製品についてお気付きの点がございましたら、最寄りの株式会社ルネサス テクノロジ、株式会社ルネサス ソリューションズ、株式会社ルネサス販売または特約店へお問い合わせください。

本製品を使用する上で、関連するユーザーズマニュアルを下表に示します。関連ユーザーズマニュアルの最新版は、弊社 開発環境ホームページ (<http://japan.renesas.com/tools>) で入手可能です。

関連マニュアル

項目	マニュアル名
エミュレータ本体	PC7501ユーザーズマニュアル
統合開発環境	High-performance Embedded Workshop ユーザーズマニュアル
エミュレータデバッグ	M16C R8C PC7501エミュレータデバッグ ユーザーズマニュアル
	M3T-PD30F ユーザーズマニュアル
Cコンパイラ	R8C/Tiny, M16C/60, 30, Tiny, 20, 10シリーズ用Cコンパイラパッケージ Cコンパイラ ユーザーズマニュアル
アセンブラ	R8C/Tiny, M16C/60, 30, Tiny, 20, 10シリーズ用アセンブラパッケージ アセンブラ ユーザーズマニュアル

重要事項

本エミュレータをご使用になる前に、必ずユーザーズマニュアルをよく読んで理解してください。
ユーザーズマニュアルは、必ず保管し、使用上不明な点がある場合は再読してください。

エミュレータとは：

本資料においてエミュレータとは、株式会社ルネサス テクノロジーが製作した次の製品を指します。

(1)PC7501本体、(2)エミュレーションプローブ、(3)ユーザシステム接続用パッケージ変換基板

お客様のユーザシステムおよびホストマシンは含みません。

エミュレータの使用目的：

本エミュレータは、ルネサス16ビットシングルチップマイクロコンピュータ M16Cファミリ/M16C/60シリーズ/M16C/6Nグループ/M16C/6N4, M16C/6N5, M16C/6NK, M16C/6NL, M16C/6NM, M16C/6NNを使用したシステムの開発を支援する装置です。ソフトウェアとハードウェアの両面から、システム開発を支援します。

この使用目的に従って、本エミュレータを正しく使用してください。本目的以外の使用を堅くお断りします。

エミュレータを使用する人は：

本エミュレータは、ユーザーズマニュアルをよく読み、理解した人のみをご使用ください。

本エミュレータを使用する上で、電気回路、論理回路およびマイクロコンピュータの基本的な知識が必要です。

エミュレータご利用に際して：

- (1)本エミュレータは、プログラムの開発、評価段階に使用する開発支援装置です。開発の完了したプログラムを量産される場合には、必ず事前に実装評価、試験などにより、お客様の責任において適用可否を判断してください。
- (2)本エミュレータを使用したことによるお客様での開発結果については、一切の責任を負いません。
- (3)弊社は、本製品不具合に対する回避策の提示または、不具合改修などについて、有償もしくは無償の対応に努めます。ただし、いかなる場合でも回避策の提示または不具合改修を保証するものではありません。
- (4)本エミュレータは、プログラムの開発、評価用に実験室での使用を想定して準備された製品です。国内の使用に際し、電気用品安全法および電磁波障害対策の適用を受けておりません。
- (5)弊社は、潜在的な危険が存在するおそれのあるすべての起こりうる諸状況や誤使用を予見できません。
したがって、このユーザーズマニュアルと本エミュレータに貼付されている警告がすべてではありません。
お客様の責任で、本エミュレータを正しく安全に使用してください。
- (6)本エミュレータは、ULなどの安全規格、IECなどの規格を取得しておりません。したがって、日本国内から海外に持ち出される場合は、この点をご承知おきください。

使用制限：

本エミュレータは、開発支援用として開発したものです。したがって、機器組み込み用として使用しないでください。また、以下に示す開発用途に対しても使用しないでください。

- (1) 運輸、移動体用
- (2) 医療用（人命にかかわる装置用）
- (3) 航空宇宙用
- (4) 原子力制御用
- (5) 海底中継用

このような目的で本エミュレータの採用をお考えのお客様は、株式会社ルネサス テクノロジ、株式会社ルネサス ソリューションズ、株式会社ルネサス販売または特約店へご連絡頂きますようお願い致します。

製品の変更について：

弊社は、本エミュレータのデザイン、性能を絶えず改良する方針をとっています。したがって、予告なく仕様、デザイン、およびユーザーズマニュアルを変更することがあります。

権利について：

- (1) 本資料に記載された情報、製品または回路の使用に起因する損害または特許権その他権利の侵害に関しては、弊社は一切その責任を負いません。
- (2) 本資料によって第三者または弊社の特許権その他権利の実施権を許諾するものではありません。
- (3) このユーザーズマニュアルおよび本エミュレータは著作権で保護されており、すべての権利は弊社に帰属しています。このユーザーズマニュアルの一部であろうと全部であろうといかなる箇所も、弊社の書面による事前の承諾なしに、複写、複製、転載することはできません。

図について：

このユーザーズマニュアルの一部の図は、実物と違っていることがあります。

安全事項

シグナルワードの定義

ユーザーズマニュアルおよびエミュレータへの表示では、エミュレータを正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。

安全事項では、その絵表示と意味を示し、本エミュレータを安全に正しくご使用されるための注意事項を説明します。

ここに記載している内容をよく理解してからお使いください。



これは、安全警告記号です。潜在的に、人に危害を与える危険に対し注意を喚起するために用います。起こり得る危害または死を回避するためにこの記号の後に続くすべての安全メッセージに従ってください。



危険は、回避しないと、死亡または重傷を招く差し迫った危険な状況を示します。ただし、本製品では該当するものではありません。



警告は、回避しないと、死亡または重傷を招く可能性がある潜在的に危険な状況を示します。



注意は、回避しないと、軽傷または中程度の傷害を招く可能性がある潜在的に危険な状況を示します。

注意

安全警告記号の付かない注意は、回避しないと財物傷害を引き起こすことがある潜在的に危険な状況を示します。

重要

例外的な条件や注意を操作手順や説明記述の中で、ユーザに伝達する場合に使用しています。

上の5表示に加えて、適宜以下の表示を同時に示します。

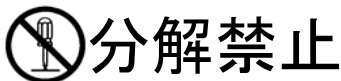
△表示は、警告・注意を示します。

例：



⊘表示は、禁止を示します。

例：



●表示は、強制・指示する内容を示します。

例：



⚠ 警告

電源に関して：



- AC電源ケーブルがコンセントの形状に合わない場合、AC電源ケーブルを改造したり、無理に入れるなどの行為は絶対に行なわないでください。感電事故または火災の原因となります。
- 日本国外で使用する時は、その国の安全規格に適合しているAC電源ケーブルを使用してください。
- 濡れた手でAC電源ケーブルのプラグに触れないでください。感電の原因となります。
- 本エミュレータはシグナルグランドとフレームグランドを接続しています。本エミュレータを用いて開発する製品がトランスレス(AC電源に絶縁トランスを使用していない)製品である場合、感電する危険があります。また、本エミュレータと開発対象製品に修復不可能な損害を与える場合があります。
開発中はこれらの危険性を回避するために開発対象製品のAC電源は絶縁トランスを経由して商用電源に接続してください。
- 本エミュレータと同じコンセントに他の装置を接続する場合は、電源電圧および電源電流が過負荷にならないようにしてください。



- AC電源ケーブルの接地端子は、必ずしっかりした接地接続を行なってください。



- 使用中に異臭・異音がしたり煙が出る場合は、直ちに電源を切りAC電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
また、感電事故または火災の原因になりますので、そのまま使用しないで、株式会社ルネサス テクノロジー、株式会社ルネサス ソリューションズ、株式会社ルネサス販売または特約店までご連絡ください。
- 本エミュレータの設置や他の装置との接続時には、AC電源をOFFするかAC電源ケーブルを抜いて怪我や故障を防いでください。

本エミュレータの取り扱いに関して：



- 本エミュレータを分解または改造しないでください。分解または改造された場合、感電などにより傷害を負う可能性があります。また、分解または改造による故障については、修理を受け付けることができません。
- 通風口から水・金属片・可燃物などの異物を入れないでください。

設置に関して：



- 湿度が高いところおよび水などで濡れるところには設置しないでください。水などが内部にこぼれた場合、修理不能な故障の原因となります。

使用環境に関して：



- 本製品の使用における周辺温度の上限(最高定格周辺温度)は35℃です。この最高定格周辺温度を越えないように注意してください。

⚠ 注意

電源の投入順序に関して：



- 電源をONする場合は、エミュレータとユーザシステムの電源を可能な限り同時にONしてください。電源をOFFする場合も、エミュレータとユーザシステムの電源を可能な限り同時にOFFしてください。
- エミュレータまたはユーザシステムの電源を片方のみONしないでください。リーク電流により内部回路を破壊する恐れがあります。
- 電源をOFFした後は、10秒程度待ってから電源をONしてください。

本製品の取り扱いに関して：



- 本エミュレータは慎重に扱い、落下・倒れなどによる強い衝撃を与えないでください。
- エミュレータ本体部コネクタの端子およびユーザシステム接続部コネクタの端子は、直接手で触らないでください。静電気により内部回路を破壊する恐れがあります。
- 通信インタフェースケーブルやフレキシブルケーブルで本エミュレータを引っ張らないでください。また過度な曲げ方をしないでください。ケーブルが断線する恐れがあります。
- エミュレータ本体部とエミュレーションプローブ部接続フレキシブルケーブルは、過度な曲げ方をしないでください。ケーブルが断線する恐れがあります。
- 本製品にインチサイズのネジを使用しないでください。本製品に使用しているネジはすべてISOタイプ(メートルサイズ)のネジです。ネジを交換される場合は、前に使われていたものと同じタイプのネジをご使用ください。

異常動作に関して：



- 外来ノイズなどの妨害が原因でエミュレータの動作が異常になった場合、次の手順で処置してください。
 - ①PC7501本体パネル前面にあるシステムリセットスイッチを押してください。
 - ②上記①の処置を実施しても正常に復帰しない場合は、エミュレータの電源を切り、再度電源を投入してください。

外部トリガ入力電圧に関して：



- エミュレータ本体の外部トリガ入力電圧は、Vcc2電圧を越えないようにしてください。過電圧により内部回路が破壊される恐れがあります。

目次

	ページ
はじめに.....	3
重要事項.....	4
安全事項.....	6
目次.....	9
ユーザ登録.....	11
用語説明.....	12
1. 製品概要.....	13
1.1 梱包内容.....	13
1.2 その他開発に必要なもの.....	14
1.3 システム構成.....	15
1.3.1 システム構成.....	15
1.3.2 PC7501 上面パネルの名称と機能.....	16
1.4 仕様一覧.....	18
1.5 使用環境条件.....	20
2. セットアップ.....	21
2.1 エミュレータ使用までのフローチャート.....	21
2.2 エミュレータデバッグ(M16C R8C PC7501エミュレータデバッグ)のインストール.....	22
2.2.1 エミュレータデバッグのインストール.....	22
2.3 ホストマシンとの接続.....	23
2.4 PC7501への接続.....	24
2.5 エミュレータ用電源.....	25
2.6 電源の投入.....	26
2.6.1 エミュレータシステムの接続確認.....	26
2.6.2 電源の ON/OFF.....	26
2.6.3 エミュレータ正常起動時の LED 表示.....	27
2.7 ファームウェアのダウンロード.....	28
2.7.1 ファームウェアのダウンロードが必要な場合.....	28
2.7.2 メンテナンスモードでのファームウェアダウンロード.....	28
2.8 セルフチェック.....	29
2.8.1 セルフチェックの手順.....	29
2.8.2 セルフチェックエラーになった場合.....	30
2.9 ユーザシステムとの接続.....	31
2.9.1 100 ピン LCC ソケットへの接続.....	33
2.9.2 100 ピン 0.65mm ピッチフットパターンへの接続(1).....	34
2.9.3 100 ピン 0.65mm ピッチフットパターンへの接続(2).....	35
2.9.4 100 ピン 0.65mm ピッチフットパターンへの接続(3).....	36
2.9.5 100 ピン 0.5mm ピッチフットパターンへの接続(1).....	37
2.9.6 100 ピン 0.5mm ピッチフットパターンへの接続(2).....	38
2.9.7 128 ピン 0.5mm ピッチフットパターンへの接続.....	39
2.10 設定の変更.....	40
2.10.1 A/D コンバータ用バイパスコンデンサ.....	40
2.10.2 エミュレーションポートのプルアップ.....	41
2.11 供給クロックの選択.....	42
2.11.1 供給可能なクロックの種類.....	42
2.11.2 内部発振回路基板の使用.....	42
2.11.3 ユーザシステム上発振回路の使用.....	46
2.11.4 内部生成発振回路の使用.....	46

	ページ
3. 使用方法(エミュレータデバッガの使い方).....	47
3.1 エミュレータデバッガ起動.....	47
3.1.1 Init ダイアログの設定.....	47
3.1.2 MCU Setting ダイアログの設定.....	53
3.1.3 エミュレータへの接続確認.....	56
3.2 エディタ(ソース)ウィンドウ.....	57
3.3 プログラム実行.....	58
3.4 H/Wブレークポイント設定ウィンドウ.....	62
3.5 トレースウィンドウ.....	66
3.6 RAMモニタウィンドウ.....	70
4. ハードウェア仕様.....	71
4.1 ターゲットMCU仕様.....	71
4.2 アクセスタイミング.....	72
4.2.1 メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード動作タイミング(Vcc=5V 時).....	72
4.2.2 メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード動作タイミング(Vcc=3V 時).....	77
4.3 ターゲットMCUとの相違点.....	82
4.4 接続図.....	85
4.5 寸法図.....	87
4.5.1 エミュレーションプローブ全体寸法図.....	87
4.5.2 M30800T-PTC ユーザシステム接続部の寸法図.....	88
4.5.3 変換基板(M3T-F160-100NRB)寸法図.....	89
4.5.4 変換基板(M3T-F160-100NSD)寸法図.....	89
4.5.5 変換基板(M3T-F160-128NRD)寸法図.....	90
4.6 使用上の注意事項.....	91
5. トラブルシューティング.....	96
5.1 トラブル時の解決フロー.....	96
5.2 エミュレータデバッガが起動しない.....	97
5.3 サポート依頼方法.....	100
6. 保守と保証.....	101
6.1 ユーザ登録.....	101
6.2 保守.....	101
6.3 保証内容.....	101
6.4 修理規定.....	101
6.5 修理依頼方法.....	102

ユーザー登録

ご購入頂いた際には、必ずユーザー登録をお願いします。ユーザー登録方法は、以下に示す2種類の方法があります。登録内容は、アフターサービスの情報としてのみ利用させていただきます。なお、ご登録なき場合は、フィールドチェンジ、不具合情報の連絡等の保守サービスが受けられなくなりますので、必ず登録頂きますようお願い致します。

(1) WEBでの登録方法

以下のルネサスツールユーザー登録サイトにアクセスして「ルネサスツール製品に登録します」ボタンをクリックしてください。以降の画面で、お客様の連絡先および製品情報を登録してください。

[ルネサスツールユーザー登録サイト]

<http://japan.renesas.com/registertool>

(2) 電子メールによる登録方法

エミュレータデバッガなどのソフトウェア製品インストール時にユーザー登録用のテキストフォーマットが以下フォルダに作成されています。必要事項をご記入の上、ツールユーザー登録窓口に送信ください。

[ユーザー登録用のテキストフォーマット]

C:\Program Files\Renesas\Hew\Support

[ツールユーザー登録窓口]

regist_tool@renesas.com

用語説明

本書で使用する用語は、以下に示すように定義して使用します。

- **エミュレータシステム**
エミュレータ本体PC7501を中心とした、エミュレータのシステムを指します。最小構成のエミュレータシステムは、エミュレータ本体、エミュレーションプロンプ、ホストマシン、統合開発環境High-performance Embedded Workshopで構成されます。
- **エミュレータ本体PC7501(以下、PC7501と呼ぶ)**
M16Cファミリ用エミュレータ本体を指します。
- **エミュレーションプロンプ**
M16C/6NグループM16C/6N4, M16C/6N5, M16C/6NK, M16C/6NL, M16C/6NM, M16C/6NN用エミュレーションプロンプである、本製品を指します。
- **エミュレータデバッガ(M16C R8C PC7501エミュレータデバッガ)**
統合開発環境High-performance Embedded Workshopから起動され、PC7501および本製品を制御してデバッグを可能とするソフトウェアツール機能を指します。
- **ルネサス統合開発環境(High-performance Embedded Workshop)**
ルネサスマイクロコンピュータの組み込み用アプリケーションの開発を強力にサポートするツールです。ホストマシンからインタフェースを介してPC7501およびエミュレーションプロンプを制御するエミュレータデバッガ機能を有しています。また、同一アプリケーション内でプロジェクトのエディットからビルドおよびデバッグまでを可能にし、またバージョン管理をサポートしています。
- **ファームウェア**
エミュレータデバッガとの通信内容を解析して、PC7501のハードウェアを制御するためのプログラムです。PC7501内のフラッシュメモリに格納されています。ファームウェアのバージョンアップや他のMCUに対応させるときには、エミュレータデバッガ上からダウンロードすることができます。
- **ホストマシン**
PC7501およびエミュレーションプロンプを制御するためのパーソナルコンピュータを指します。
- **S/Wブレーク**
S/Wブレークとは、指定アドレスの命令を実行する手前でブレークする機能のことです。設定したアドレスの命令は実行されません。
- **H/Wブレーク**
H/Wブレークとは、メモリのデータ書き込み/読み込みを検出したとき、もしくは外部トレースケーブルから入力された信号の立ち上がり/立ち下がりエッジを検出したときにブレークする機能のことです。前者をアドレスブレーク、後者をトリガブレークといいます。S/Wブレークが設定されたアドレスの命令が実行されないのに対して、H/Wブレークは命令が実行された後にブレークします。
- **ターゲットMCU**
デバッグ対象のMCUを指します。
- **ユーザシステム**
デバッグ対象のMCUを使用した、お客様のアプリケーションシステムを指します。
- **ユーザプログラム**
デバッグ対象のアプリケーションプログラムを指します。
- **エバリュエーションMCU**
エミュレーションプロンプに実装し、エミュレータ専用のモードで動作させるMCUを指します。
- **信号名の最後につく“#”の意味**
本書では、“L”アクティブの信号を表記するため信号名の末尾に“#”を付加しています(例：RESET#)。

1. 製品概要

この章では、本製品の梱包内容、システム構成、エミュレータ機能等の仕様および使用環境条件について説明しています。

1.1 梱包内容

本製品は、以下の基板および部品によって構成されます。開封されたときにすべて揃っているかを確認してください。

表1.1 梱包内容一覧

型名	説明	数量
M306NKT-EPB	エミュレーションプローブ	1
M30800T-PTC	100ピン0.65mmピッチLCC対応変換基板(装着済)	1
IC61-1004-051	山一電機製100ピン0.65mmピッチLCCソケット	1
OSC-3 (16MHz)	発振回路基板	1
OSC-2	発振回路基板ペアボード	1
ネットワーク抵抗器	ポートP0～P5プルアップ用抵抗アレイ(51kΩ×8)	6
ハードウェアツールユーザ登録用紙	ユーザ登録用紙(和文)	1
H/W Tool Customer Registration Sheet	ユーザ登録用紙(英文)	1
修理依頼書	修理依頼書(和文)	1
Repair Request Sheet	修理依頼書(英文)	1
M306NKT-EPBユーザーズマニュアル	和文ユーザーズマニュアル(本資料)	1
M306NKT-EPB User's Manual	英文ユーザーズマニュアル	1
補足資料	補足資料(和文)	1
Supplementary Document	補足資料(英文)	1

※M306NKT-EPBの梱包箱とクッション材は、故障時の修理やその他の輸送用として保管してください。

また、輸送される場合は、精密機器扱いで輸送してください。やむをえず他の手段で輸送する場合は、精密機器として厳重に梱包してください。

※梱包製品についてお気付きの点がございましたら、最寄りの株式会社ルネサス テクノロジ、株式会社ルネサス ソリューションズ、株式会社ルネサス販売または特約店へお問い合わせください。

※IC61-1004-051のご購入および技術的なご質問については、山一電機株式会社へお問い合わせください。

1.2 その他開発に必要なもの

M16C/6NグループM16C/6N4, M16C/6N5, M16C/6NK, M16C/6NL, M16C/6NM, M16C/6NNのプログラム開発を行われる際には本製品の他に、以下のツール製品が必要となります。これらは別途ご用意ください。

表1.2 他のツール製品一覧

内容		形名	備考	
エミュレータ本体		PC7501	—	
エミュレータデバッグ		M16C R8C PC7501エミュレータ デバッグ	PC7501に付属	
		M3T-PD30F		
変換 基板	M16C/6N4 M16C/6N5	100ピン0.65mmピッチQFP (PRQP0100JB-A 旧名:100P6S-A)	M3T-F160-100NRB	ユーザシステムのフットパターン に応じた製品が必要 2.9節「ユーザシステムとの接続」 (31ページ)参照
			M3T-100LCC-DMS +M3T-DIRECT100S	
		M3T-100LCC-DMS +M3T-DUMMY100S		
	100ピン0.5mmピッチLQFP (PLQP0100KB-A 旧名:100P6Q-A)	M3T-F160-100NSD		
		M3T-100LCC-QSD		
	M16C/6NK M16C/6NL	100ピン0.5mmピッチLQFP (PLQP0100KB-A 旧名:100P6Q-A)	M3T-F160-100NSD	
		M3T-100LCC-QSD		
M16C/6NM M16C/6NN	128ピン0.5mmピッチLQFP (PLQP0128KB-A 旧名:128P6Q-A)	M3T-F160-128NRD		

※これらツール製品のご購入については、最寄りの株式会社ルネサス テクノロジ、株式会社ルネサス ソリューションズ、株式会社ルネサス販売または特約店へお問い合わせください。

1.3 システム構成

1.3.1 システム構成

図1.1に、本製品をご使用になる場合のシステム構成図を示します。

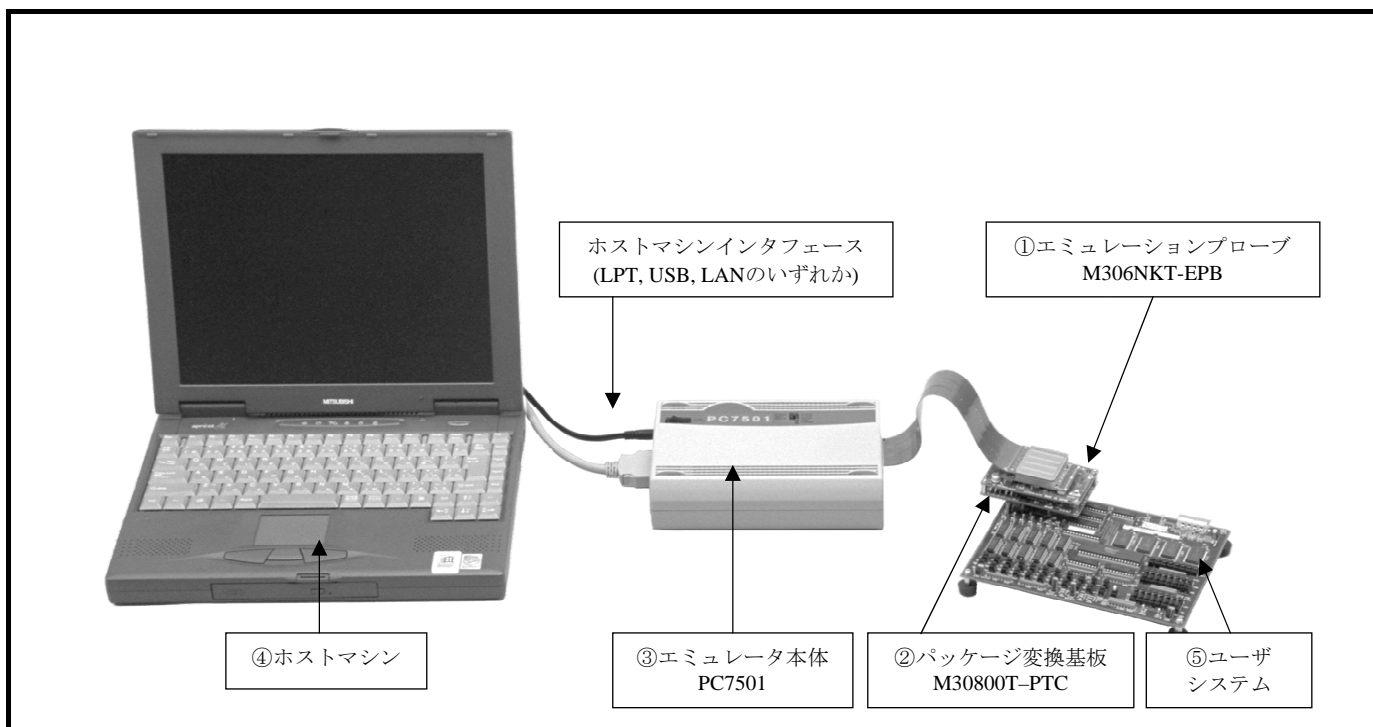


図1.1 システム構成図

① エミュレーションプローブM306NKT-EPB【本製品】

M16C/6NグループM16C/6N4, M16C/6N5, M16C/6NK, M16C/6NL, M16C/6NM, M16C/6NN用のエミュレーションプローブです。エバリュエーションMCUを実装しています。

② ユーザシステム接続用変換基板M30800T-PTC【本製品に付属】

ユーザシステム上の100ピン0.65mmピッチLCCソケットIC61-1004-051に接続するためのパッケージ変換基板です。

ユーザシステムへの接続についての詳細は、デバッグ対象のMCUに合わせて2.9節「ユーザシステムとの接続」(31ページ)を参照してください。

③ エミュレータ本体 PC7501

M16Cファミリ用のエミュレータ本体です。本製品と組み合わせて使用します。

④ ホストマシン

エミュレータを制御するパーソナルコンピュータです。

⑤ ユーザシステム

お客様のアプリケーションシステムです。

本製品にはユーザシステムへの電源供給機能はありませんので、ユーザシステム用電源を別途ご用意ください。

1.3.2 PC7501上面パネルの名称と機能

図1.2に、PC7501上面パネルLEDの名称を示します。

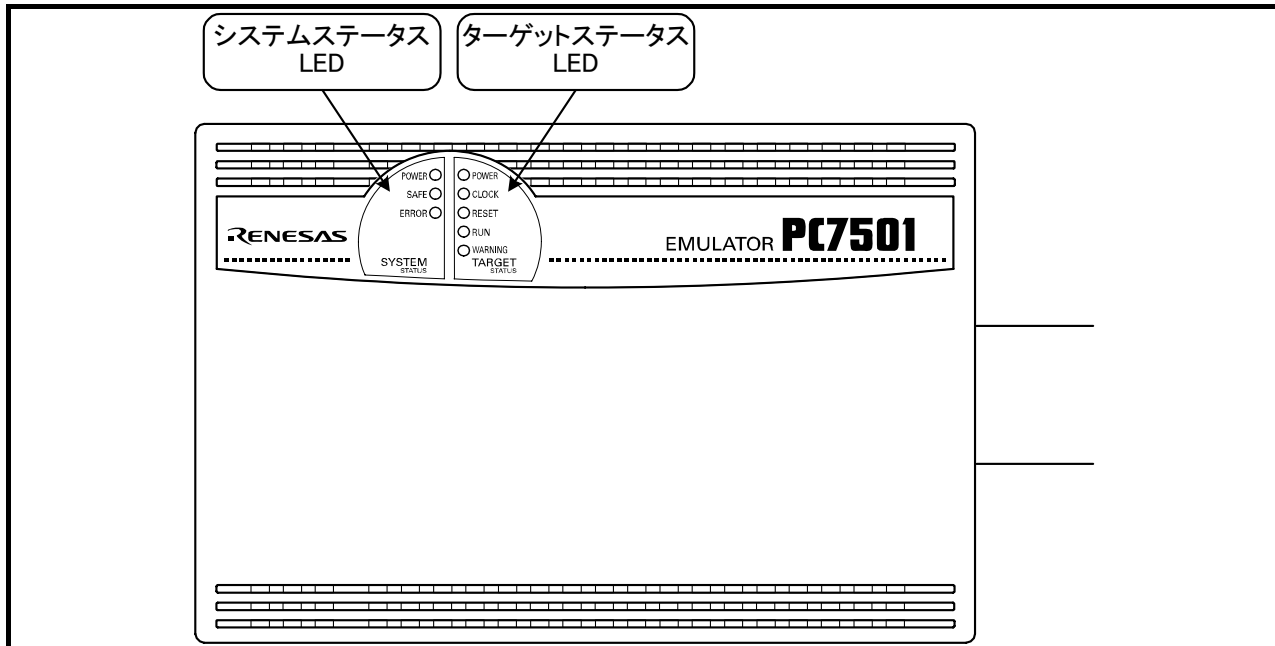


図1.2 PC7501上面パネルLEDの名称

(1) システムステータスLED

システムステータスLEDは、PC7501の電源、ファームウェアの動作状態などを表示します。表1.3にシステムステータスLEDの表示内容を示します。

表1.3 システムステータスLEDの表示内容

名称	状態	表示内容
POWER	点灯	エミュレータシステムの電源がONの状態であることを示します。
	消灯	エミュレータシステムの電源がOFFの状態であることを示します。
SAFE	点灯	エミュレータシステムが正常であることを示します。
	点滅	①セルフチェック中であることを示します。 ②ダウンロードしたファームウェアを書き込み中であることを示します。 ③ERROR LEDと同時または交互に点滅する場合、セルフチェックエラーが発生したことを示します。
	消灯	エミュレータシステムが正常に起動していないことを示します。
ERROR	点灯	エミュレータシステムが異常(システムステータスエラー)であることを示します。
	点滅	①ファームウェアのダウンロード中であることを示します。 ②SAFE LEDと同時または交互に点滅する場合、セルフチェックエラーが発生したことを示します。
	消灯	エミュレータシステムが正常であることを示します。

(2) ターゲットステータスLED

ターゲットステータスLEDは、ターゲットMCUの電源・動作状態などを表示します。表1.4に、ターゲットステータスLEDの表示内容を示します。

表1.4 ターゲットステータスLEDの表示内容

名称	状態	表示内容
POWER	点灯	ユーザシステムに電源が供給されていることを示します。
	消灯	ユーザシステムに電源が供給されていないことを示します。
CLOCK	点灯	ターゲットMCUへクロックが供給されていることを示します。
	消灯	ターゲットMCUへクロックが供給されていないことを示します。
RESET	点灯	ターゲットMCUがリセット中またはユーザシステムのリセット信号が“L”レベルであることを示します。
	消灯	ターゲットMCUがリセット解除の状態であることを示します。
RUN	点灯	ユーザプログラムが実行中であることを示します。
	消灯	ユーザプログラムが停止していることを示します。
WARNING	点灯	00000h, 00001h番地が不正にリードされたことを示します。
	消灯	00000h, 00001h番地が不正にリードされていないことを示します。

重要

メモリ拡張およびマイクロプロセッサモードでのご使用に関して：

- メモリ拡張およびマイクロプロセッサモードで使用される場合は、起動時に必ずRDY#端子、HOLD#端子が“L”にならないよう端子処理してください。RDY#端子、HOLD#端子が“L”の場合は正常に起動できません。

ターゲットステータスPOWER LEDに関して：

- MCUに電源端子(Vcc)が複数本ある場合、全ての電源端子に電源が供給されていなければLEDは点灯しません。

ターゲットステータスCLOCK LEDに関して：

- CLOCK LEDはメインクロックとサブクロックの両方の発振が停止している場合に消灯します。何れか片方のクロックが発振している場合は、点灯します。
- LEDが点灯していない場合、以下について確認してください。
 - ①PC7501電源投入後(エミュレータデバッグの起動前)
PC7501内部の発振回路基板が正しく装着され、正常に発振しているかを確認してください。
 - ②エミュレータデバッグ起動後(Initダイアログ設定後)
Initダイアログにて選択した発振回路が正常に発振しているかを確認してください。

00000h, 00001h番地へのアクセスに関して：

- M16C/60シリーズのMCUは、マスカブル割り込みの要求が発生した場合、その情報(割り込み番号と割り込み要求レベル)が格納されている00000h, 00001h番地をリードし、これによって割り込み要求ビットをクリアする仕様となっています。
したがって、(意図的でなくても) 00000hまたは00001h番地をリードすると、許可されている中で最も優先度の高い割り込み要因の要求ビットがクリアされ、『割り込み要求が発生しても割り込み処理が行われない』という誤動作が発生します。
本製品は、割り込み処理以外で00000hまたは00001h番地がリードされたことを検出し、PC7501上面のWARNING LED (黄色)を点灯させます。このLEDが点灯した場合は、ユーザプログラム中に00000h, 00001h番地への不正なリードアクセスがないかを確認してください。

表1.6 M306NKT-EPBの仕様2

項目	内容		
ホストマシンとのインタフェース	LPTパラレル (ECP, EPP, バイト互換, ニブル互換モード) USB (USB1.1, フルスピード) *1 LAN (10BASE-T)		
エミュレータ用電源	付属のACアダプタから供給 (電源電圧 100~240V, 50/60Hz)		
動作周囲温度	5~35°C(結露なきこと)		
保管時温度範囲	-10~60°C(結露なきこと)		
電源の供給	エミュレータ本体のDC電源から供給		
ユーザシステムとの接続 2.9節「ユーザシステムとの接続」 (31ページ)	M16C/6N4 M16C/6N5	100ピン0.65mmピッチLCC	①M30800T-PTC (付属)
		100ピン0.65mmピッチQFP (PRQP0100JB-A)	①M3T-F160-100NRB (別売) ②M30800T-PTC (付属) +M3T-100LCC-DMS (別売) +M3T-DIRECT100S (別売) ③M30800T-PTC (付属) +M3T-100LCC-DMS (別売) +M3T-DUMMY100S (別売)
	M16C/6NK M16C/6NL M16C/6NM M16C/6NN	100ピン0.5mmピッチLQFP (PLQP0100KB-A)	①M3T-F160-100NSD (別売) ②M30800T-PTC (付属) +M3T-100LCC-QSD (別売)
		128ピン0.5mmピッチLQFP (PLQP0128KB-A)	①M3T-F160-128NRD (別売)

*1: USB2.0対応のホストマシンにも接続できます。

USBインタフェースは、すべてのホストマシン、USBデバイス、USBハブの組み合わせでの動作を保証するものではありません。

1.5 使用環境条件

本エミュレータを使用する場合、表1.7、表1.8に示す使用環境条件、ホストマシン動作環境を必ず守って使用ください。

表1.7 使用環境条件

項目	内容
動作周辺温度	5～35℃(結露なきこと)
非動作時温度範囲	-10～60℃(結露なきこと)

表1.8 ホストマシン動作環境

項目	内容
ホストマシン	IBM PC /AT互換機
OS	Windows 98SE ※ Windows Me Windows XP Windows 2000
CPU	Pentium III 600MHz 以上を推奨
メモリ	128M バイト以上を推奨
マウスなどのポインティングデバイス	ホストマシン本体に接続可能で上記OSに対応している、マウスなどのポインティングデバイス
CDドライブ	エミュレータデバッガをインストールするため、またはユーザーズマニュアルを参照するために必要

※ Windowsは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

2. セットアップ

この章では、本製品をご使用になる場合の準備、エミュレータ起動までの手順、設定の変更方法について説明しています。

2.1 エミュレータ使用までのフローチャート

図2.1に、エミュレータ使用までの流れを示します。詳細については、本ページ以降の各節を参照してください。また、正常に起動しない場合は、5章「トラブルシューティング」(96ページ)を参照してください。

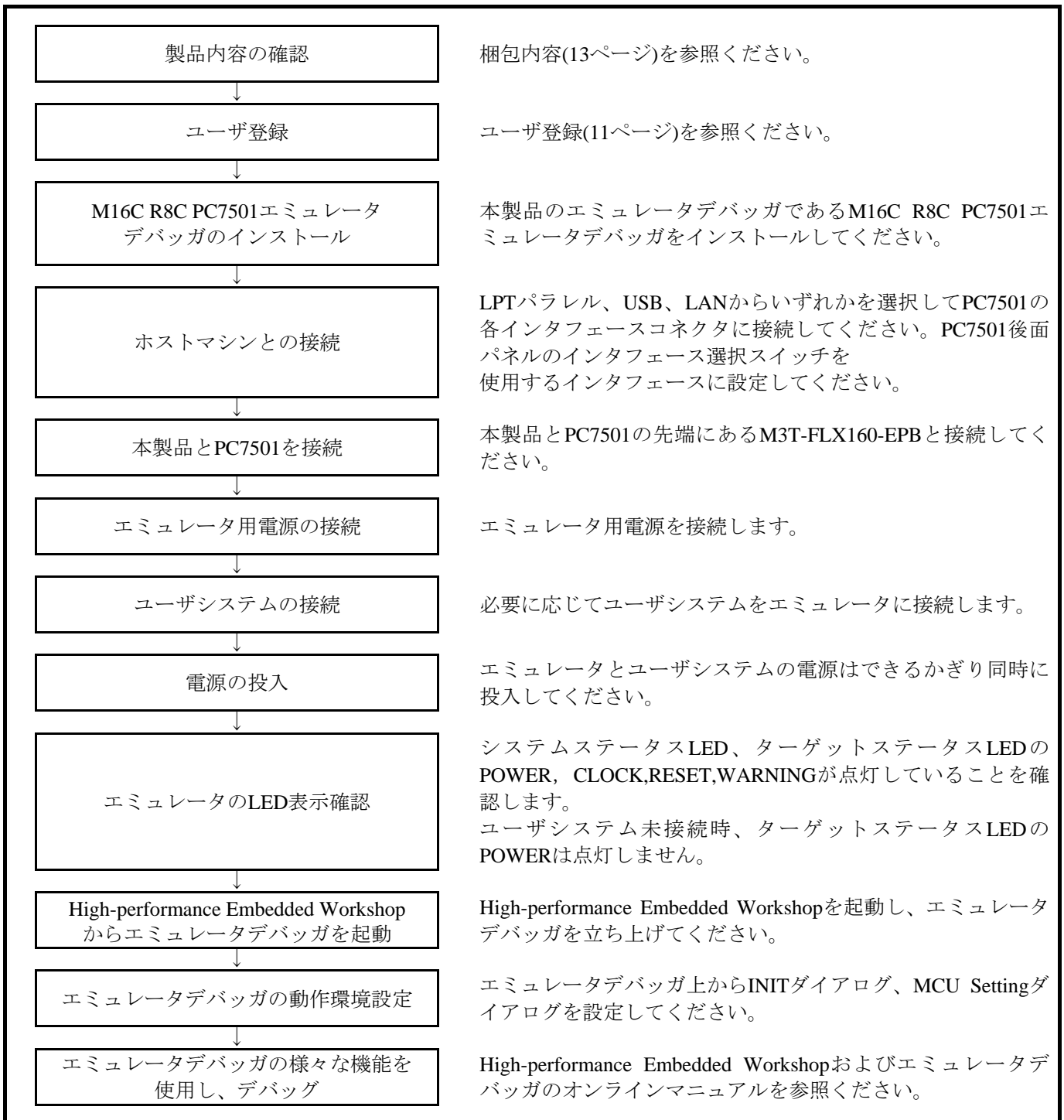


図2.1 エミュレータ使用までの手順

2.2 エミュレータデバッガ(M16C R8C PC7501エミュレータデバッガ)のインストール

ホストマシンのOSにWindows XP/2000をご使用の場合は、administratorの権限を持つユーザが実行してください。administratorの権限を持たないユーザでは、インストールを完了することができませんので、ご注意ください。

M16C R8C PC7501エミュレータデバッガを以下の手順でインストールしてください。

2.2.1 エミュレータデバッガのインストール

(1) ダウンロード

以下のホームページからM16C R8C PC7501エミュレータデバッガの最新版をダウンロードしてください。

<http://japan.renesas.com/download>

(2) インストーラの起動

“setup.exe” 起動してください。

(3) ユーザ情報の入力

“ユーザ情報ダイアログ”において、ユーザ情報(ご契約者、所属、連絡先、インストール先)を入力してください。入力された情報は、メールによるユーザ登録用紙のフォーマットとなります。

(4) インストールの終了

セットアップが終了したことを知らせるダイアログが表示されましたら、インストールは終了です。

2.3 ホストマシンとの接続

PC7501とホストマシンとの接続にはLPTパラレルインタフェース、USBインタフェースおよびLANインタフェースを選択することができます。これらの通信インタフェースは、PC7501後面パネルのインタフェース選択スイッチで指定します。図2.2に各通信インタフェースケーブル接続の概略を示します。

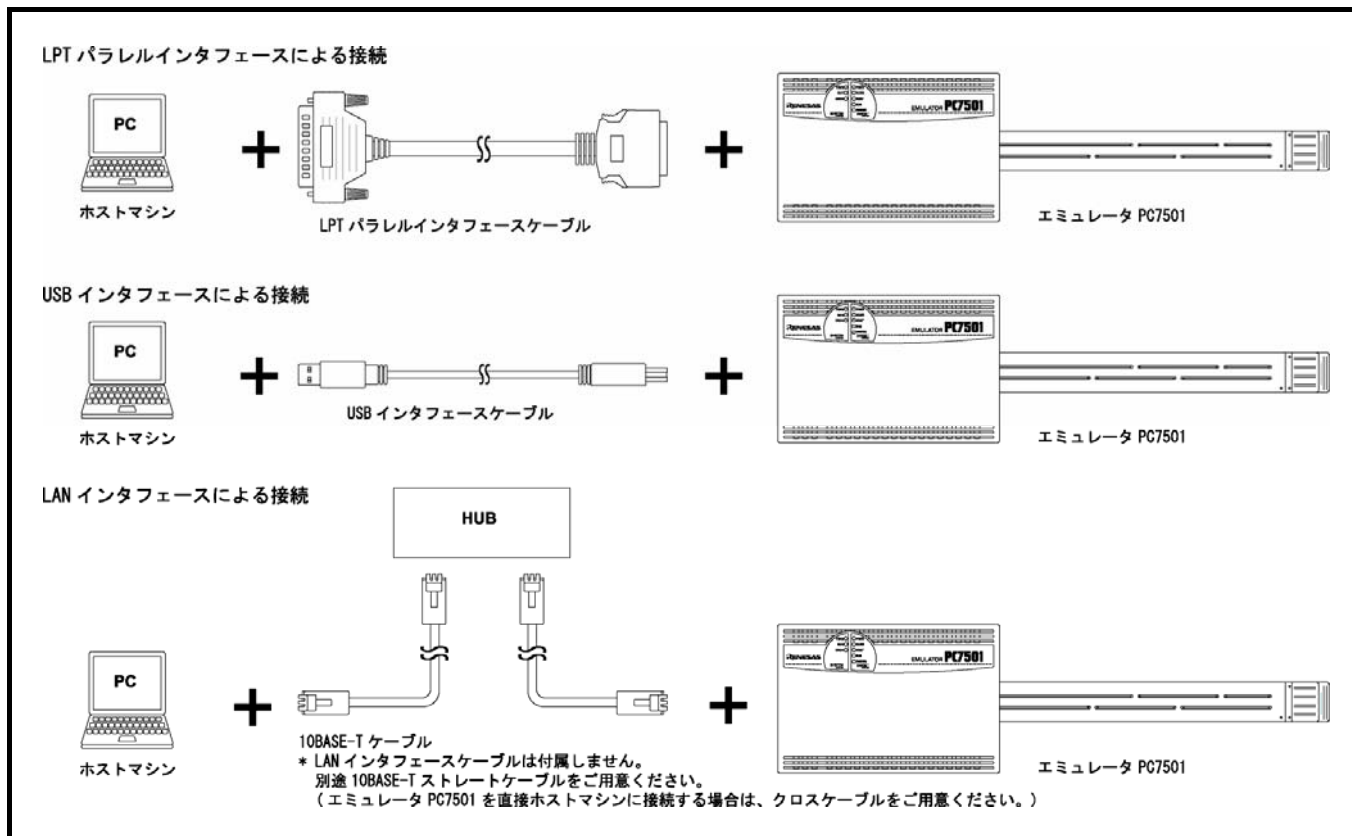


図2.2 通信インタフェースケーブルの接続概要

2. 4 PC7501への接続

図2.3に、PC7501とエミュレーションプローブの接続方法を示します。

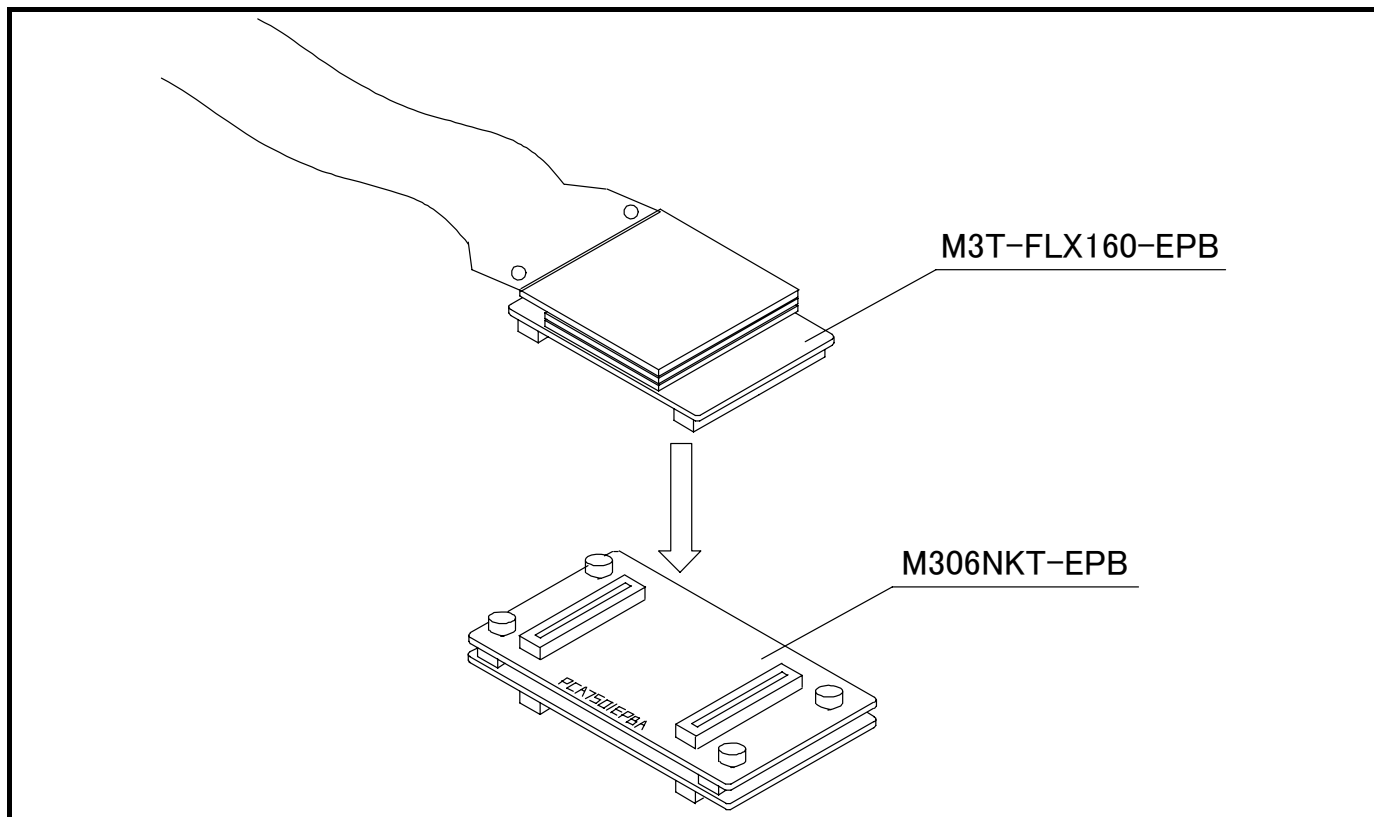


図2.3 PC7501とエミュレーションプローブの接続

⚠ 注意

PC7501への接続に関して：



- エミュレーションプローブの接続は、必ず電源を切った状態で行ってください。内部回路を破壊する恐れがあります。

重要

PC7501への接続に関して：

- PC7501とエミュレーションプローブを接続するときは、エミュレーションプローブの両端を持ってまっすぐに装着してください。
- M306NKT-EPBに使用しているコネクタの挿抜保証回数は50回です。

2.5 エミュレータ用電源

PC7501の電源供給は、付属のACアダプタから供給します。以下にACアダプタ接続手順を示します。

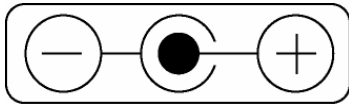
- (1) PC7501の電源スイッチをOFFにします。
- (2) PC7501にACアダプタDCケーブルを接続します。
- (3) ACアダプタにAC電源ケーブルを接続します。
- (4) AC電源ケーブルをコンセントに差し込みます。

⚠ 注意

ACアダプタに関して：



- PC7501に付属のACアダプタ以外は使用しないでください。
- 付属ACアダプタはPC7501専用です、他の機器に使用しないでください。
- 本製品の設置や他の装置との接続時には、AC電源ケーブルをコンセントから抜いて、けがや事故を防いでください。
- 本製品付属のACアダプタのDCプラグ極性を以下に示します。



- 付属ACアダプタには電源スイッチがありません。ACアダプタはACケーブル接続状態では常に動作可能です。電源供給状態はACアダプタのLED点灯にてご確認ください。

2.6 電源の投入

2.6.1 エミュレータシステムの接続確認

ホストマシン、通信インタフェースケーブル、PC7501、エミュレーションプローブ、ユーザシステム間の各接続をもう一度確認してください。

2.6.2 電源のON/OFF

電源をONする場合は、エミュレータとユーザシステムの電源を可能な限り同時にONしてください。電源をOFFする場合も、エミュレータとユーザシステムの電源を可能な限り同時にOFFしてください。

またエミュレータまたはユーザシステムの電源を片方のみONしないでください。リーク電流により内部回路を破壊する恐れがあります。

電源をOFFした後は、10秒程待ってから電源をONしてください。

重要

電源供給に関して：

- エミュレータのVcc端子は、ユーザシステムの電圧を監視するためにユーザシステムと接続しています。エミュレータからはユーザシステムへの電源供給はできませんので、ユーザシステムには別途電源を供給してください。
- ユーザシステムの電源電圧は、以下の範囲内で使用してください。
 $3.0[V] \leq V_{cc} \leq 5.5[V]$
- ユーザシステムの電源電圧は、電源投入後変化させないでください。

2.6.3 エミュレータ正常起動時のLED表示

図2.4にエミュレータシステムが正常に起動した場合のPC7501上面パネルのステータスLED表示を示します。エミュレータシステム起動時に確認ください。

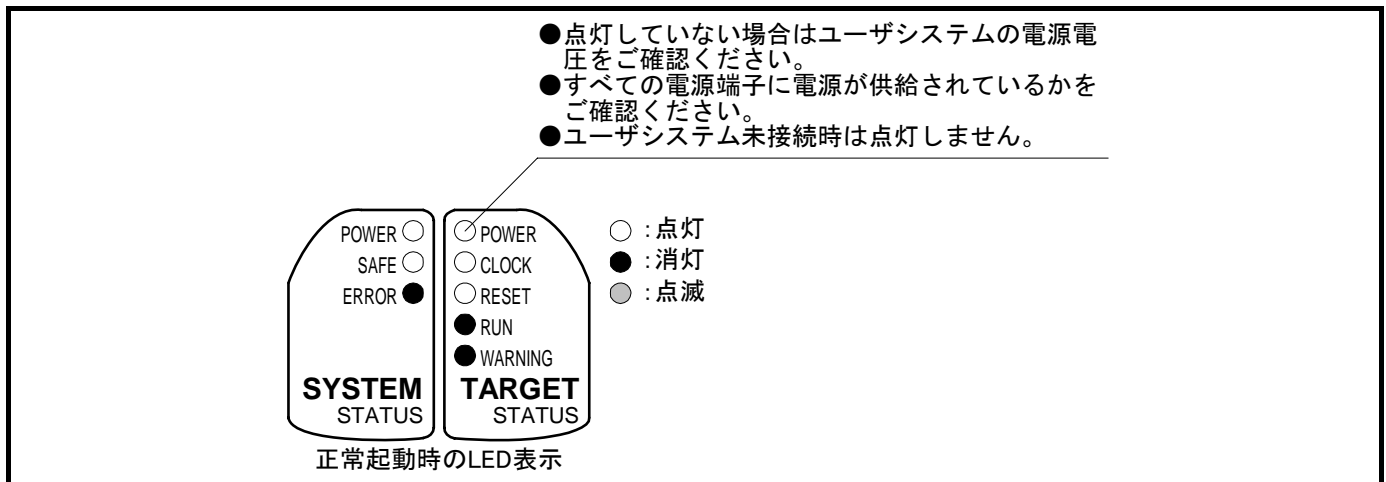


図2.4 電源投入時のPC7501 LED表示

重要

メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモードでのご使用に関して：

- メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモードで使用される場合は、起動時必ず、RDY#端子、HOLD#端子、NMI#端子が“L”にならないように端子処理してください。

ターゲットステータスPOWER LEDに関して：

- MCUに電源端子(Vcc)が複数本ある場合、全ての電源端子に電源が供給されていなければLEDは点灯しません。

ターゲットステータスCLOCK LEDに関して：

- LEDが点灯していない場合、以下について確認してください。
 - ①PC7501電源投入後(エミュレータデバッガの起動前)
PC7501内部発振回路基板が正しく装着され、正常に発振しているかを確認してください。
 - ②エミュレータデバッガ起動後(Initダイアログ設定後)
Initダイアログにて選択した発振回路が正常に発振しているかを確認してください。

2.7 ファームウェアのダウンロード

2.7.1 ファームウェアのダウンロードが必要な場合

ファームウェアは以下の場合にダウンロードが必要です。通常、エミュレータデバッガが起動時に下記事象を自動的に検出してファームウェアのダウンロードを実行します。

- ① 本製品を初めてご使用になられるとき
- ② ファームウェアがバージョンアップされたとき
- ③ エミュレータデバッガがバージョンアップされたとき
- ④ 他のエミュレーションプロンプと組み合わせて使用していたPC7501を本製品と組み合わせてご使用になられる場合

エミュレータデバッガからのダウンロード中にエミュレータシステムの電源が切れた、通信インタフェースケーブルが抜けたなどによりファームウェアのダウンロードが失敗した場合は、次に示す手順でファームウェアのダウンロードを再実行ください。

2.7.2 メンテナンスモードでのファームウェアダウンロード

下記に示す手順でエミュレータをメンテナンスモードで起動してからファームウェアをダウンロードしてください。またファームウェアのダウンロードは、ユーザシステムを接続しないで実施ください。

- ① PC7501後面パネルのインタフェース選択スイッチをLPT側に切り換え、LPTパラレルインタフェースケーブルをPC7501とホストマシンに接続します。USBインタフェースではメンテナンスモードでのファームウェアダウンロードができないことがあります。
- ② エミュレータの電源投入後、2秒以内にPC7501前面パネルのシステムリセットを押し、メンテナンスモードに切り替えます。メンテナンスモードへ切り替わると、SYSTEM STATUS LEDのSAFEが点滅します。
- ③ エミュレータデバッガを起動させます。Initダイアログ設定終了後、ファームウェアのダウンロードを促すダイアログが表示されますのでメッセージに従ってダウンロードしてください。ダウンロードの所要時間は約60秒です。

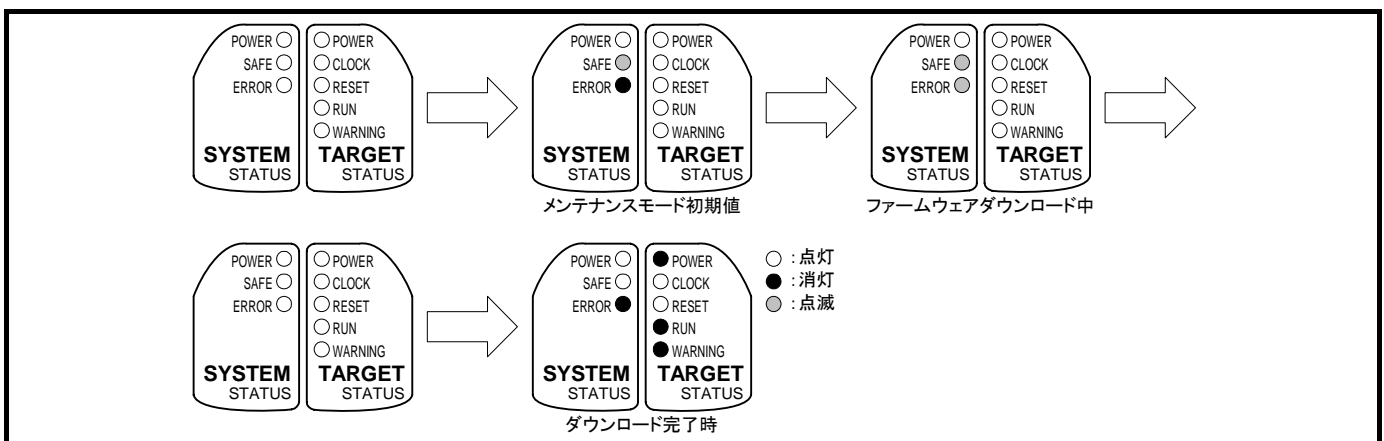


図2.5 メンテナンスモードでのファームウェアダウンロード

重要

ファームウェアに関して：

- ファームウェアのダウンロード中に電源を切らないでください。途中で電源が切れた場合、正常に起動できなくなります。予期しない状況で電源が切れた場合は、メンテナンスモードにて再度ダウンロードを行ってください。

2.8 セルフチェック

2.8.1 セルフチェックの手順

セルフチェックは、エミュレータ機能が正常に動作するかを検査します。エミュレータのセルフチェック機能を使用する場合は、下記に示す手順に沿って実行してください。図2.6に、セルフチェック時のLED表示を示します。

ERROR1~4の場合、ターゲットステータスLEDは不具合箇所によって状態が変化しますので、システムステータスLED状態で可否を判断してください。

- ① ユーザシステムが接続されている場合は、ユーザシステムを外してください。
- ② 電源投入後2秒以内にPC7501前面パネルのシステムリセットスイッチを押します。
- ③ SAFE LEDが点滅開始するのを確認後、もう一度システムリセットスイッチを押してください。
- ④ セルフチェックを開始します。約30秒で正常終了表示されれば、セルフチェック終了です。

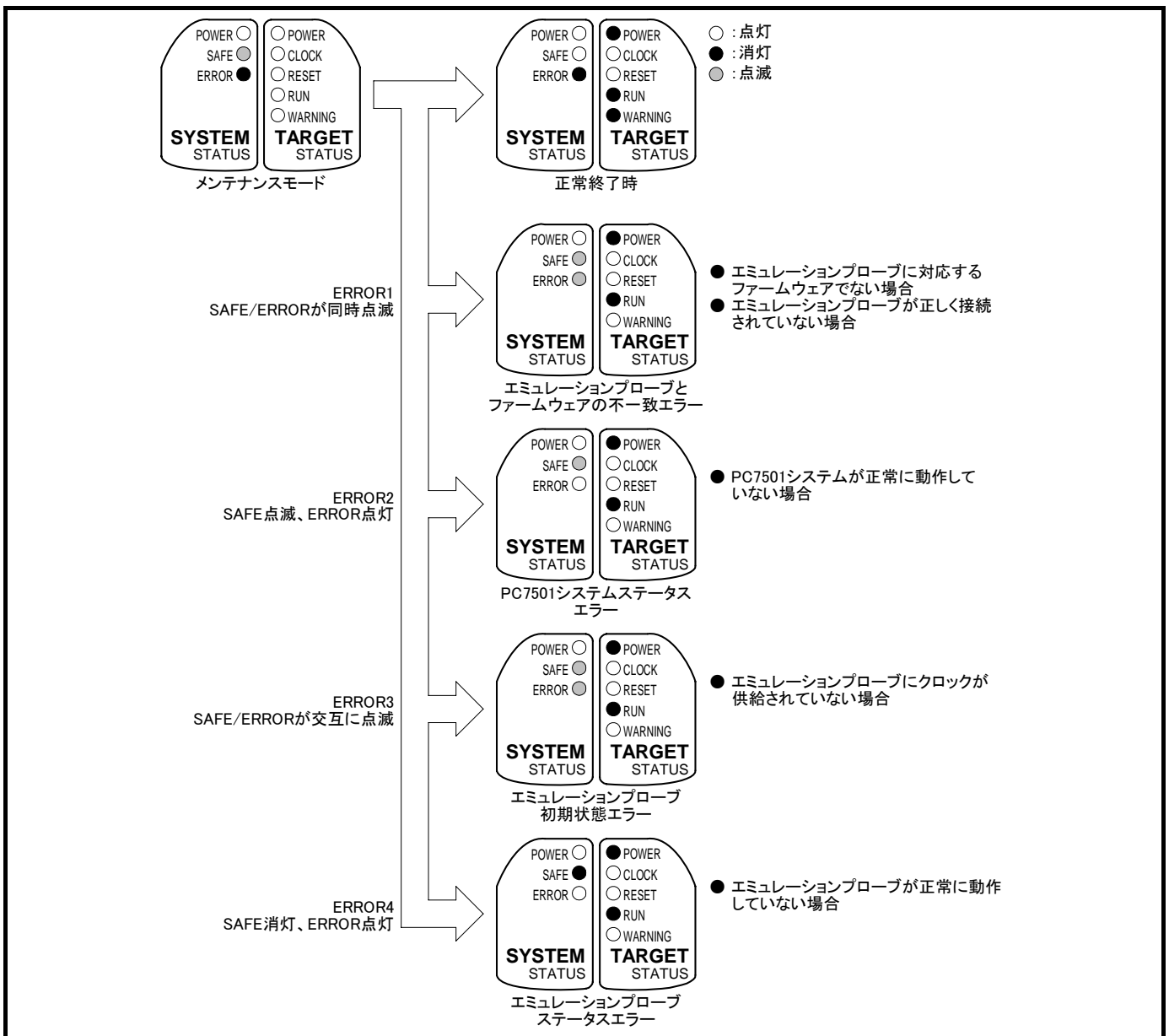


図2.6 セルフチェック時のLED表示

2.8.2 セルフチェックエラーになった場合

セルフチェックによりエラーとなった場合(図2.6のERROR1~4)は下記内容をご確認ください。

- ① エミュレーションプローブとPC7501の接続を再度ご確認ください。
- ② 正しいファームウェアを再度ダウンロードしてください。

重要

セルフチェックに関して：

- セルフチェックは必ずユーザシステムを接続しない状態で実施してください。
- セルフチェックが正常に終了しない場合(ターゲットステータスエラーを除く)は、製品が故障している可能性がありますので、購入された販売元の担当者までご連絡ください。

2.9 ユーザシステムとの接続

本製品をM16C/6N4またはM16C/6N5用として使用する場合のユーザシステムとの接続方法を図2.7に、M16C/6NK, M16C/6NL, M16C/6NM, M16C/6NN用として使用する場合のユーザシステムとの接続方法を図2.8に示します。

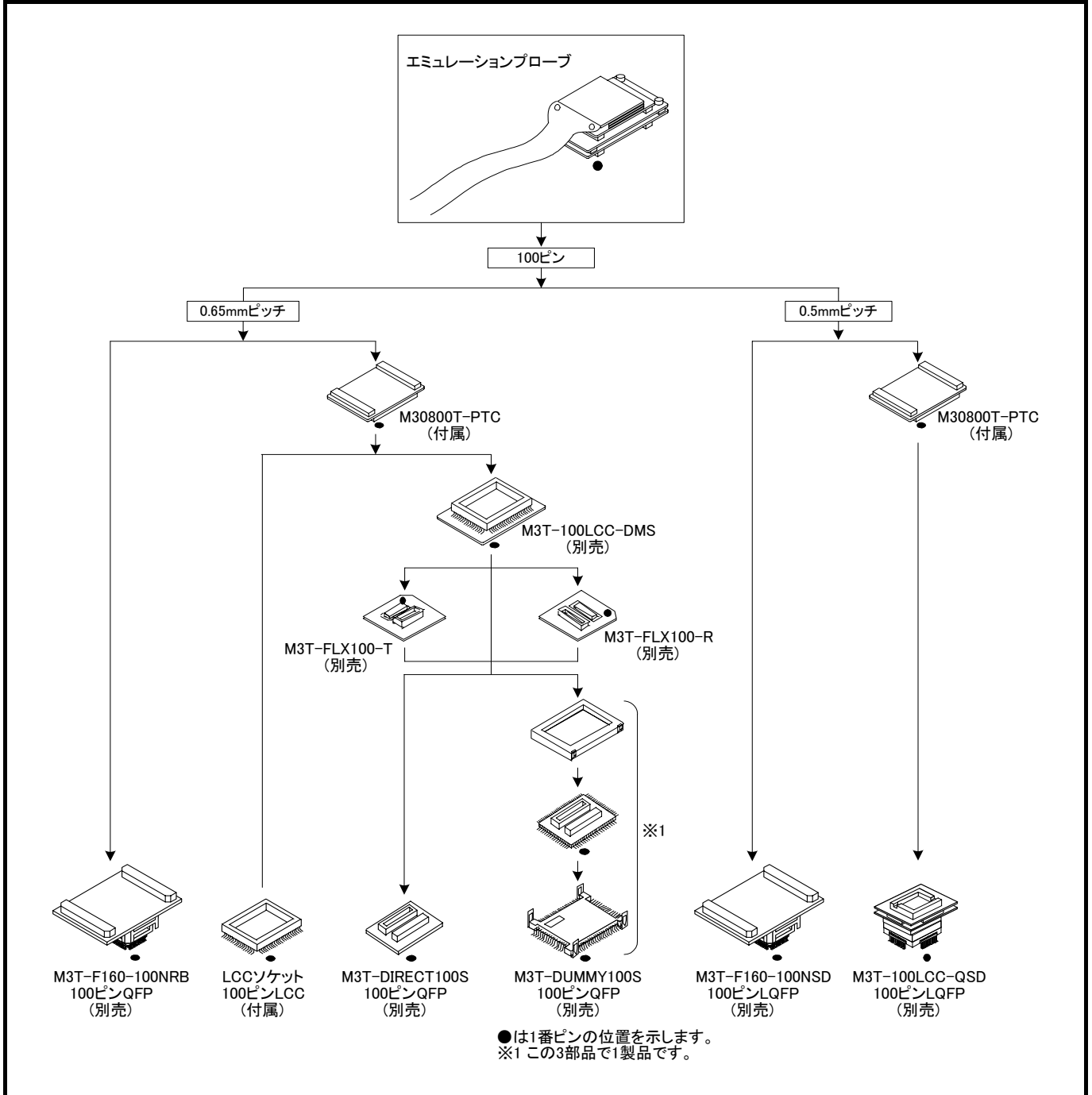


図2.7 本製品とユーザシステムとの接続(M16C/6N4, M16C/6N5用)

注意

ユーザシステムとの接続に関して：



● 変換基板の逆差しは、エミュレータやユーザシステムに致命的な破壊を引き起こしますので十分注意してください。

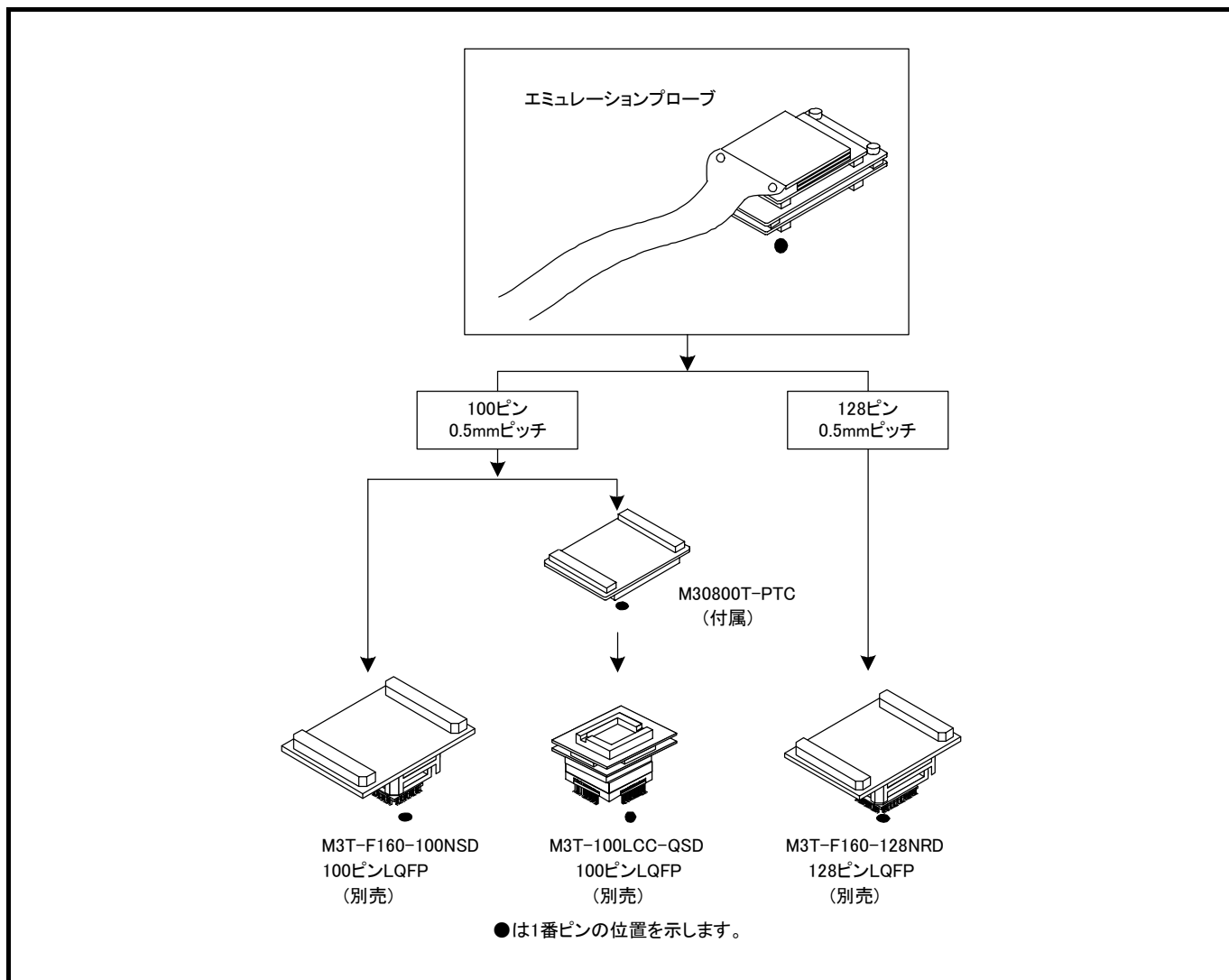


図2.8 本製品とユーザーシステムとの接続(M16C/6NK, M16C/6NL, M16C/6NM, M16C/6NN用)

⚠ 注意

ユーザーシステムとの接続に関して：



- 変換基板の逆差しは、エミュレータやユーザーシステムに致命的な破壊を引き起こしますので十分注意してください。

2.9.1 100ピンLCCソケットへの接続

ユーザシステム上に用意された100ピンLCCソケット(山一電機製 IC61-1004-051)に、M30800T-PTC(付属)を使用して接続する場合の手順を示します。

- ① M306NKT-EPBのJ4側にM30800T-PTCのCN2側を接続してください。
- ② 100ピンLCCソケットにM30800T-PTCを接続してください。

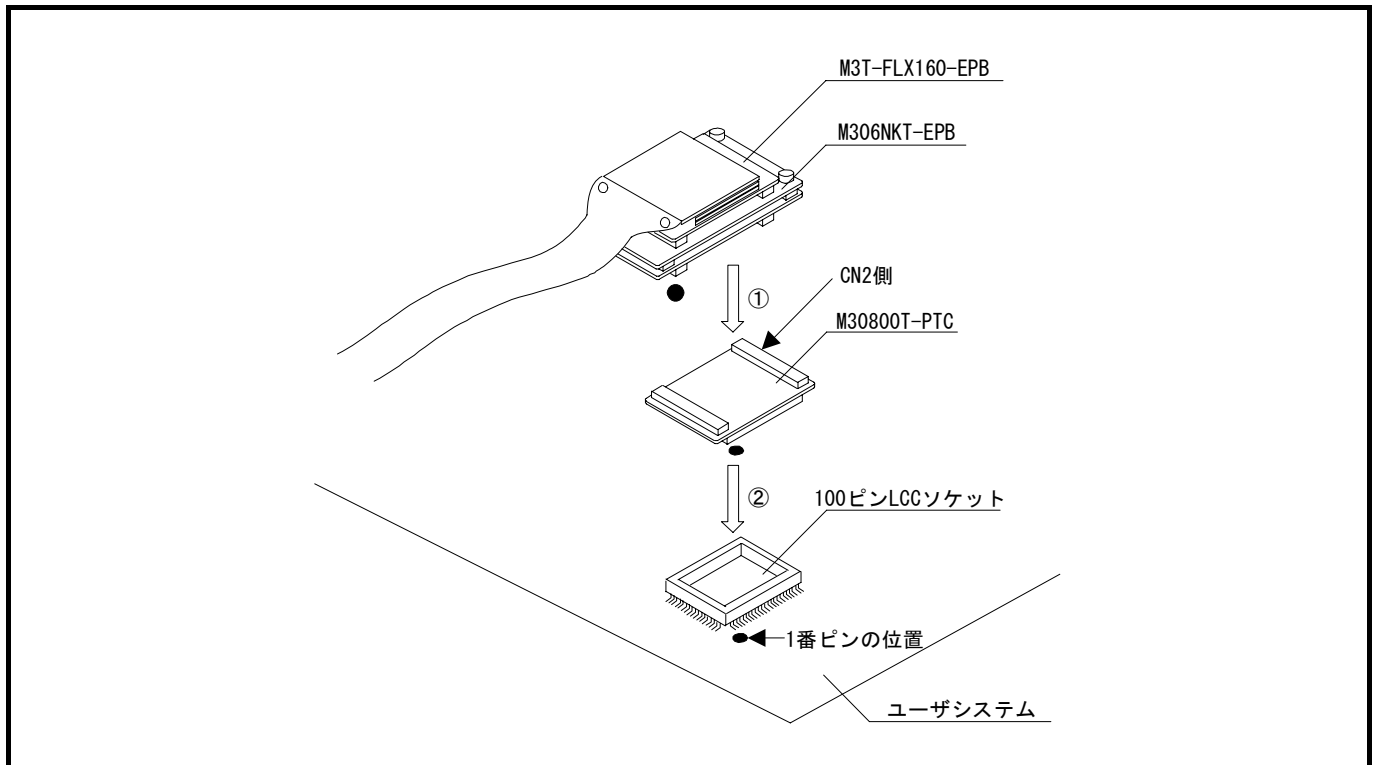


図2.9 100ピンLCCソケットへの接続

⚠ 注意

ユーザシステムとの接続に関して：



- 変換基板の逆差しは、エミュレータやユーザシステムに致命的な破壊を引き起こしますので十分注意してください。

重要

変換基板のコネクタに関して：

- M30800T-PTCに使用しているコネクタの挿抜保証回数は50回です。
- IC61-1004-051のご購入および技術的なご質問については、山一電機株式会社へお問い合わせください。

2.9.2 100ピン0.65mmピッチフットパターンへの接続(1)

ユーザシステム上の100ピン0.65mmピッチフットパターンに、M3T-F160-100NRB (別売)を使用して接続する場合の手順を示します。M3T-F160-100NRB(別売)の詳細については、ユーザーズマニュアルを参照してください。

- ① ユーザシステムにM3T-F160-100NRB付属のNQPACK100RBを実装してください。
- ② NQPACK100RBにM3T-F160-100NRB付属のYQPACK100RBを接続し、YQ-GUIDEで固定してください。
- ③ M306NKT-EPBのJ4側にM3T-F160-100NRBのCN2側を接続してください。
- ④ YQPACK100RBにM3T-F160-100NRBを接続してください。

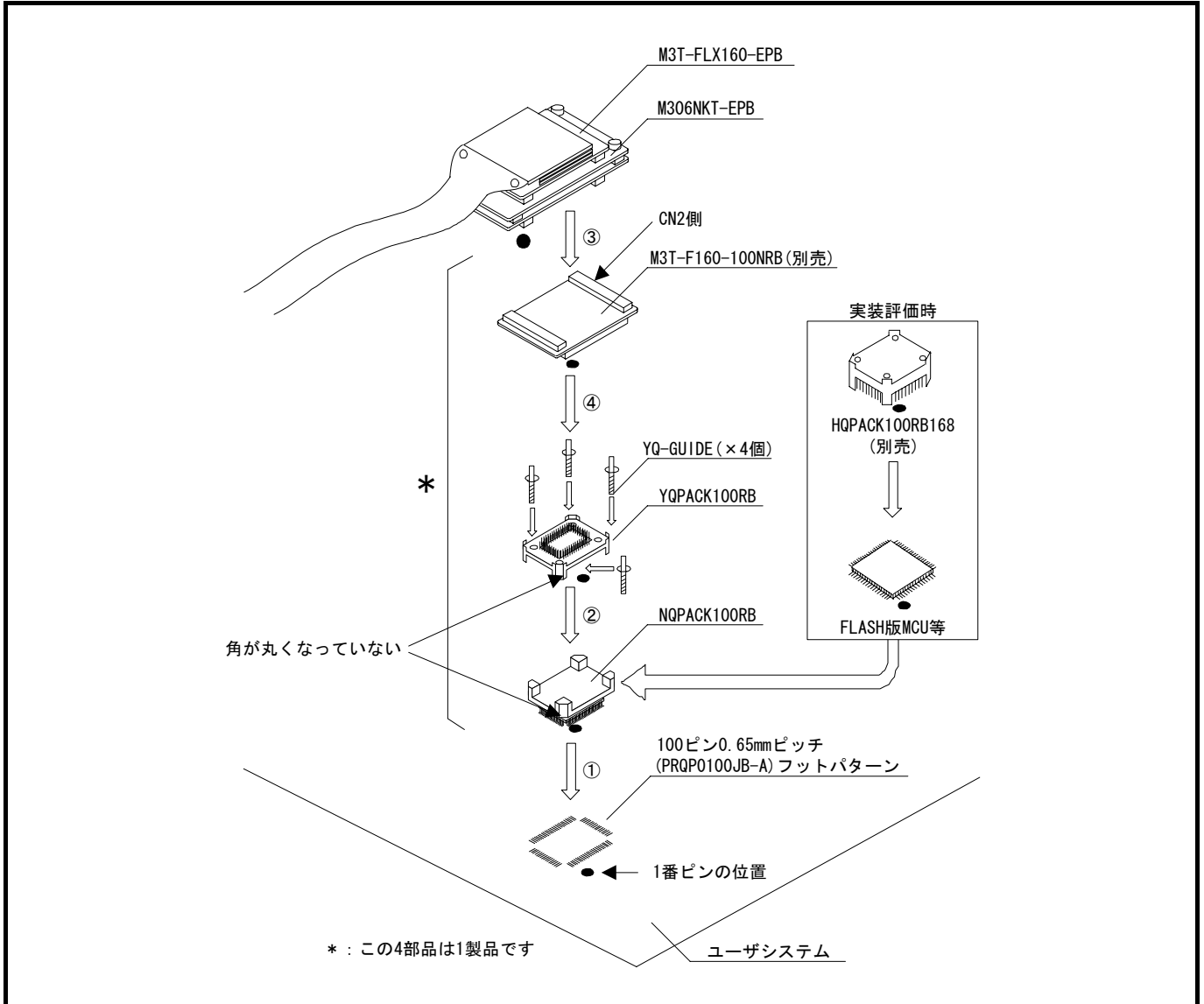


図2.10 100ピン0.65mmピッチフットパターンへの接続(1)

注意

ユーザシステムとの接続に関して：

- 変換基板の逆差しは、エミュレータやユーザシステムに致命的な破壊を引き起こしますので十分注意してください。

重要

変換基板のコネクタに関して：

- M3T-F160-100NRBに使用しているコネクタの挿抜保証回数は50回です。

2.9.3 100ピン0.65mmピッチフットパターンへの接続(2)

ユーザシステム上の100ピン0.65mmピッチフットパターンに、M3T-DIRECT100S(別売)を使用して接続する場合の手順を示します。M3T-100LCC-DMS(別売)およびM30800T-PTC(別売)の詳細については、それぞれのユーザーズマニュアルを参照してください。

- ① ユーザシステムにM3T-DIRECT100Sを実装してください。
- ② M3T-DIRECT100SにM3T-100LCC-DMSを接続してください。
- ③ M306NKT-EPBのJ4側にM30800T-PTCのCN2側を接続してください。
- ④ M3T-100LCC-DMSにM30800T-PTCを接続してください。

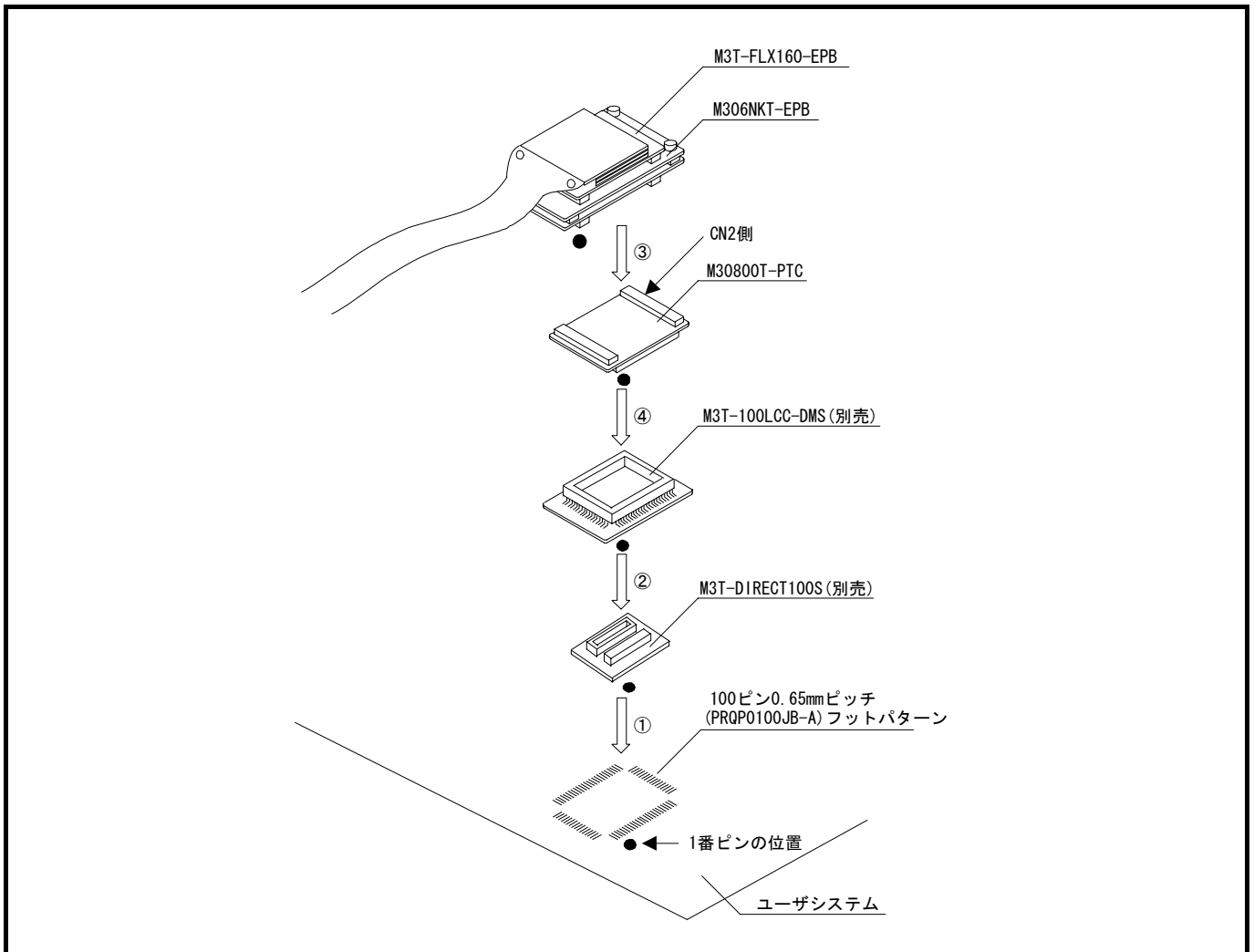


図2.11 100ピン0.65mmピッチフットパターンへの接続(2)

注意

ユーザシステムとの接続に関して：



- 変換基板の逆差しは、エミュレータやユーザシステムに致命的な破壊を引き起こしますので十分注意してください。

重要

変換基板のコネクタに関して：

- M30800T-PTCに使用しているコネクタの挿抜保証回数は50回です。
- M3T-100LCC-DMSおよびM3T-DIRECT100Sに使用しているコネクタの挿抜保証回数は20回です。

2.9.4 100ピン0.65mmピッチフットパターンへの接続(3)

ユーザシステム上の100ピン0.65mmピッチフットパターンに、M3T-DUMMY100S(別売)を使用して接続する場合の手順を示します。M3T-100LCC-DMS(別売)およびM3T-DUMMY100S(別売)の詳細については、それぞれのユーザーズマニュアルを参照してください。

- ① ユーザシステムにM3T-DUMMY100Sを接続してください。
- ② M3T-DUMMY100SにM3T-100LCC-DMSを接続してください。
- ③ M306NKT-EPBのJ4側にM30800T-PTCのCN2側を接続してください。
- ④ M3T-100LCC-DMSにM30800T-PTCを接続してください。

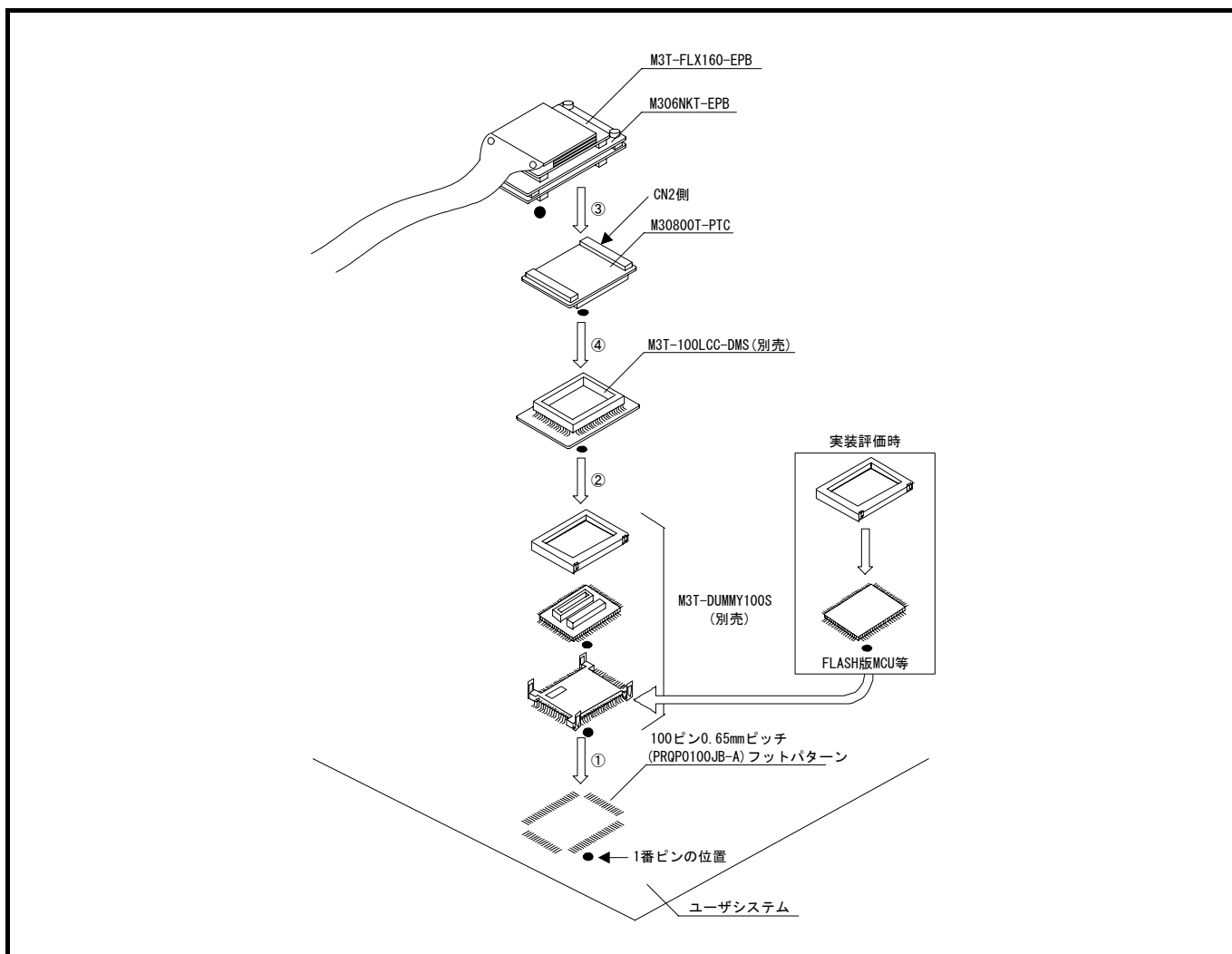


図2.12 100ピン0.65mmピッチフットパターンへの接続(3)

⚠ 注意

ユーザシステムとの接続に関して：



- 変換基板の逆差しは、エミュレータやユーザシステムに致命的な破壊を引き起こしますので十分注意してください。

重要

変換基板のコネクタに関して：

- M30800T-PTCに使用しているコネクタの挿抜保証回数は50回です。
- M3T-100LCC-DMSおよびM3T-DUMMY100Sに使用しているコネクタの挿抜保証回数は20回です。

2.9.5 100ピン0.5mmピッチフットパターンへの接続(1)

ユーザシステム上の100ピン0.5mmピッチフットパターンに、M3T-F160-100NSD(別売)を使用して接続する場合の手順を示します。M3T-F160-100NSD(別売)の詳細については、ユーザーズマニュアルを参照してください。

- ① ユーザシステムにM3T-F160-100NSD付属のNQPACK100SD-NDを実装してください。
- ② NQPACK100SD-NDにM3T-F160-100NSD付属のYQPACK100SDを接続し、YQ-GUIDEで固定してください。
- ③ M306NKT-EPBのJ4側にM3T-F160-100NSDのCN2側を接続してください。
- ④ YQPACK100SDにM3T-F160-100NSDを接続してください。

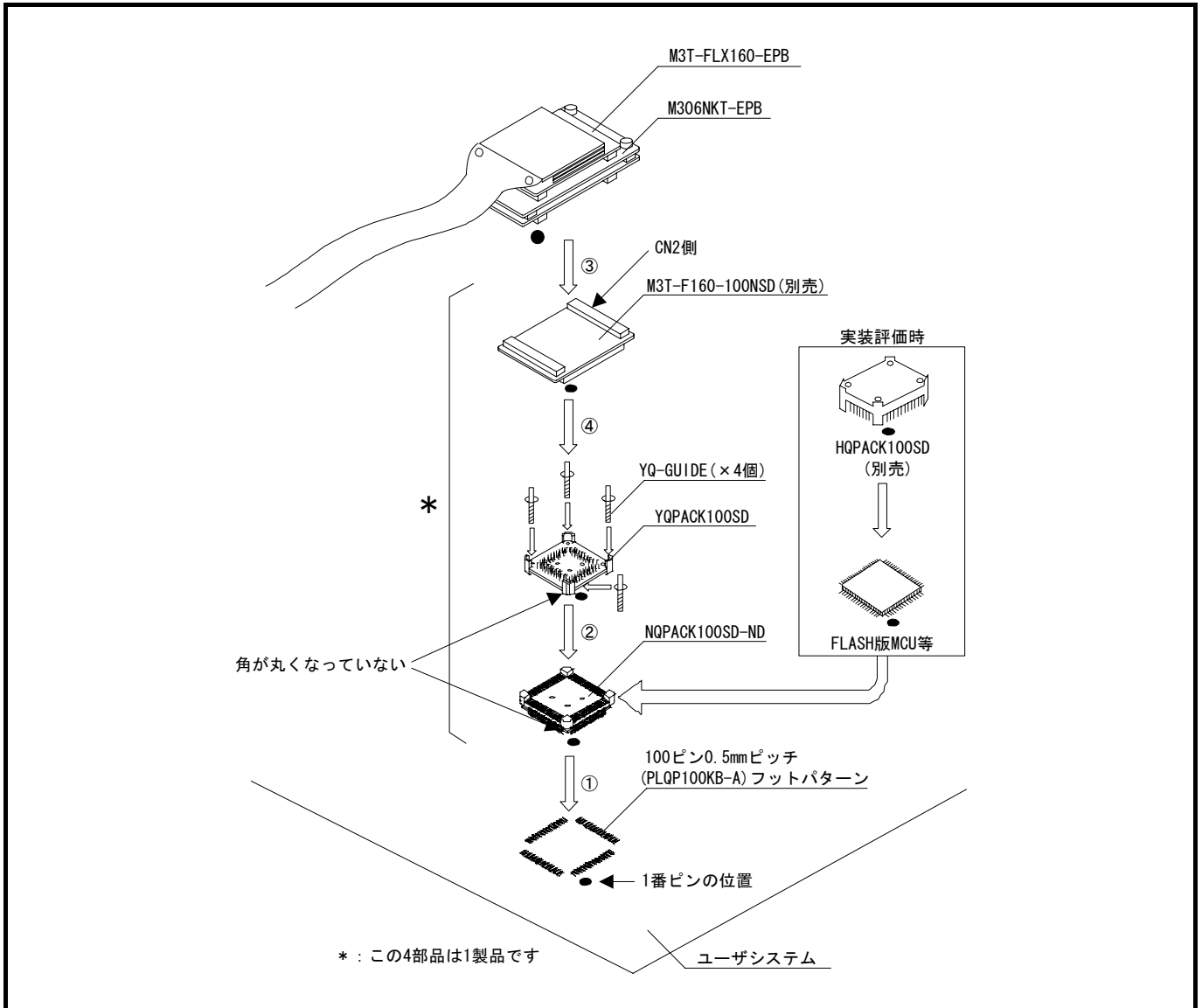


図2.13 100ピン0.5mmピッチフットパターンへの接続(1)

注意

ユーザシステムとの接続に関して：



- 変換基板の逆差しは、エミュレータやユーザシステムに致命的な破壊を引き起こしますので十分注意してください。

重要

変換基板のコネクタに関して：

- M3T-F160-100NSDに使用しているコネクタの挿抜保証回数は50回です。

2.9.6 100ピン0.5mmピッチフットパターンへの接続(2)

ユーザシステム上の100ピン0.5mmピッチフットパターンに、M3T-100LCC-QSD(別売)を使用して接続する場合の手順を示します。M3T-100LCC-QSD(別売)の詳細については、ユーザーズマニュアルを参照してください。

- ① ユーザシステムにTQPACK100SDを実装してください。
- ② TQPACK100SDにM3T-100LCC-QSD付属のTQSOCKET100SDGを接続してください。
- ③ TQSOCKET100SDGにM3T-100LCC-QSDを接続してください。
- ④ M306NKT-EPBのJ4側にM30800T-PTCのCN2側を接続してください。
- ⑤ M3T-100LCC-QSDにM30800T-PTCを接続してください。

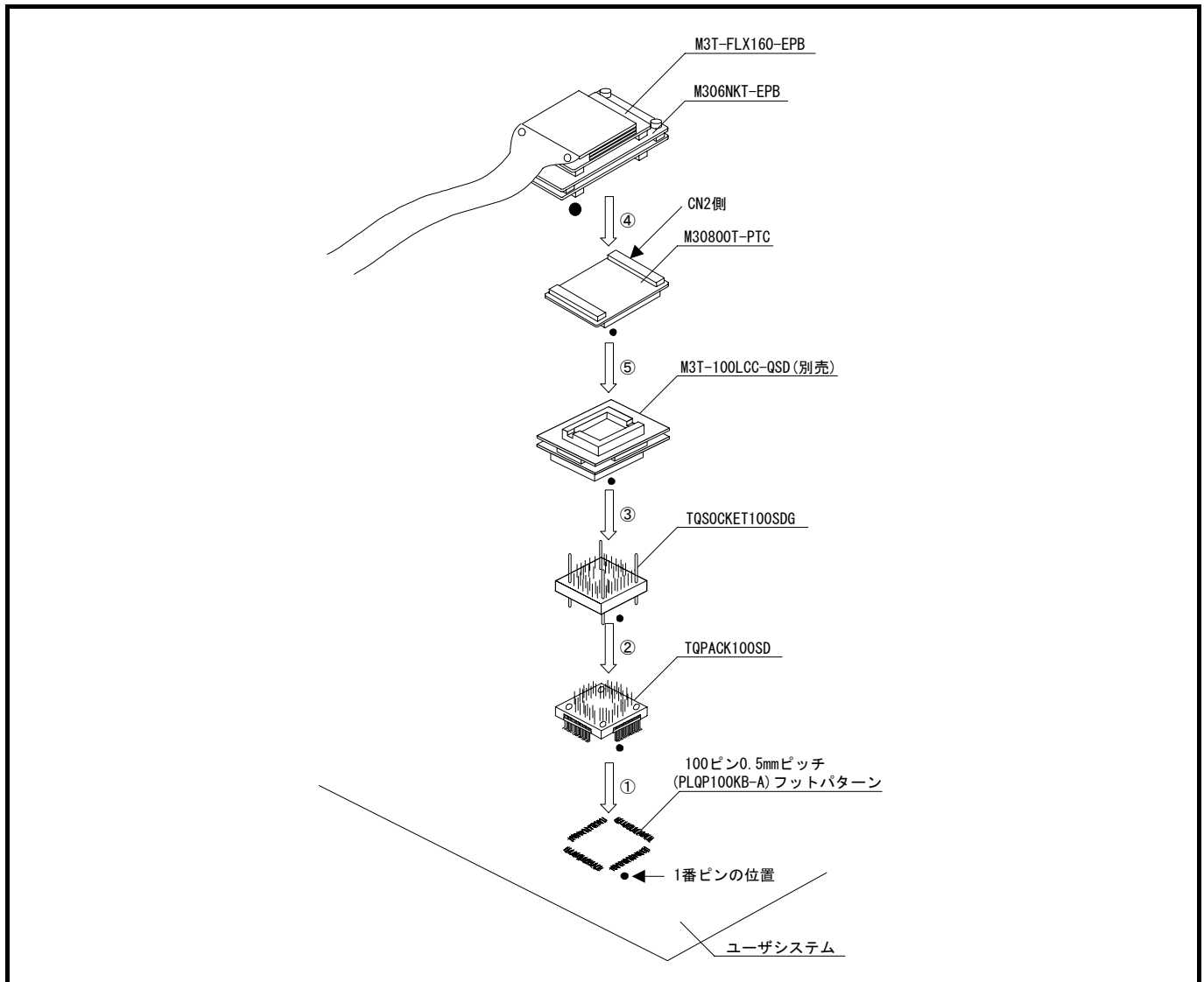


図2.14 100ピン0.5mmピッチフットパターンへの接続(2)

⚠ 注意

ユーザシステムとの接続に関して：



- 変換基板の逆差しは、エミュレータやユーザシステムに致命的な破壊を引き起こしますので十分注意してください。

重要

変換基板のコネクタに関して：

- M30800T-PTCおよびM3T-100LCC-QSDに使用しているコネクタの挿抜保証回数は50回です。

2.9.7 128ピン0.5mmピッチフットパターンへの接続

ユーザシステム上の128ピン0.5mmピッチフットパターンに、M3T-F160-128NRD(別売)を使用して接続する場合の手順を示します。M3T-F160-128NRD(別売)の詳細については、ユーザーズマニュアルを参照してください。

- ① ユーザシステムにM3T-F160-128NRD付属のNQPACK128RDを実装してください。
- ② NQPACK128RDにM3T-F160-128NRD付属のYQPACK128RDを接続し、YQ-GUIDEで固定してください。
- ③ M306NKT-EPBのJ4側にM3T-F160-128NRDのCN2側を接続してください。
- ④ YQPACK128RDにM3T-F160-128NRDを接続してください。

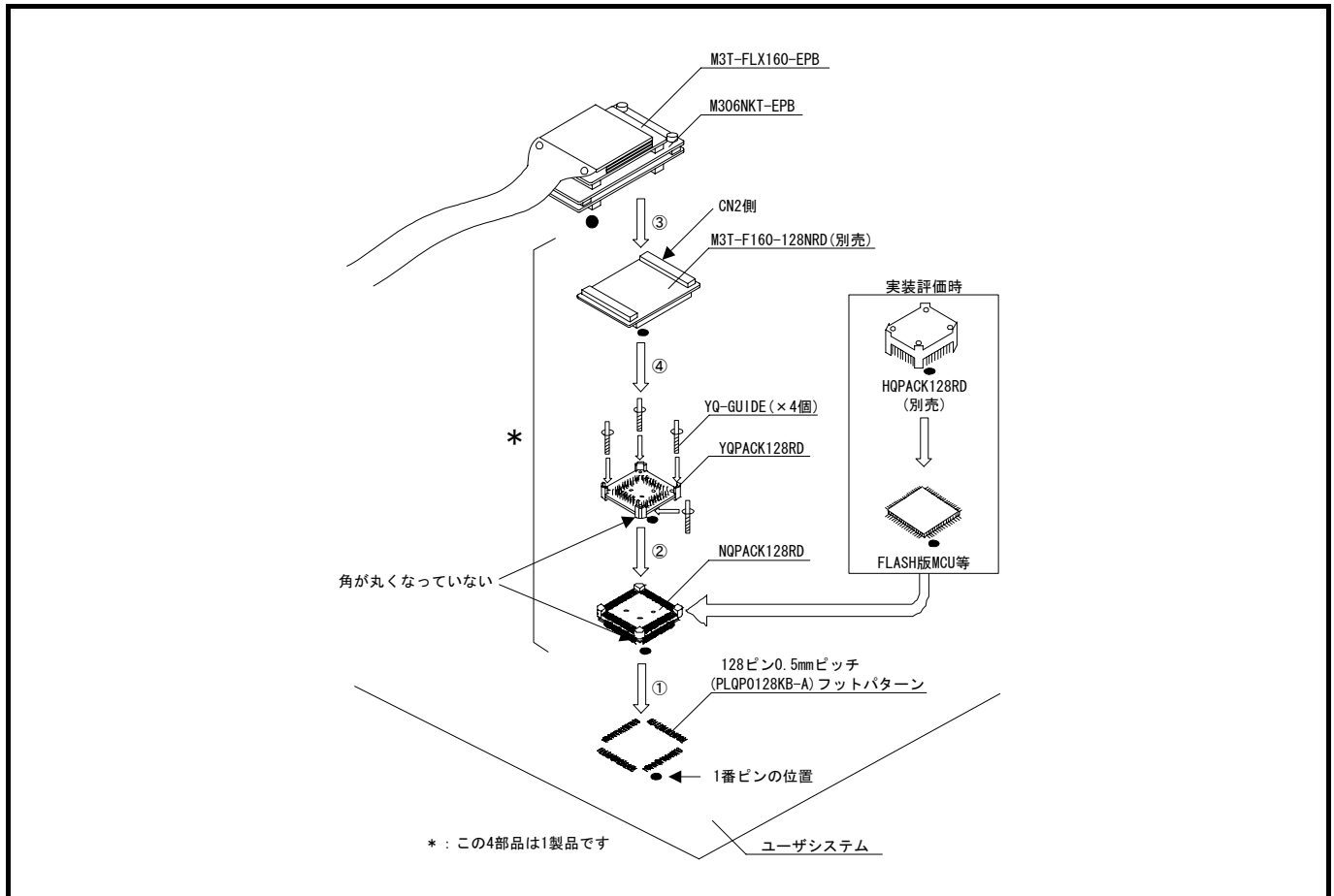


図2.15 128ピン0.5mmピッチフットパターンへの接続

⚠ 注意

ユーザシステムとの接続に関して：



- 変換基板の逆差しは、エミュレータやユーザシステムに致命的な破壊を引き起こしますので十分注意してください。

重要

変換基板のコネクタに関して：

- M3T-F160-128NRDに使用しているコネクタの挿抜保証回数は50回です。

2. 10 設定の変更

2.10.1 A/Dコンバータ用バイパスコンデンサ

本製品は、A/Dコンバータ用バイパスコンデンサをMCUの直近に取り付け可能とするため、M306NKT-EPBM基板上にフットパターンを用意しています。必要に応じて適切な値のバイパスコンデンサを実装してください。

図2.16に、A/Dコンバータ用バイパスコンデンサの取り付け位置と本製品の構造を示します。

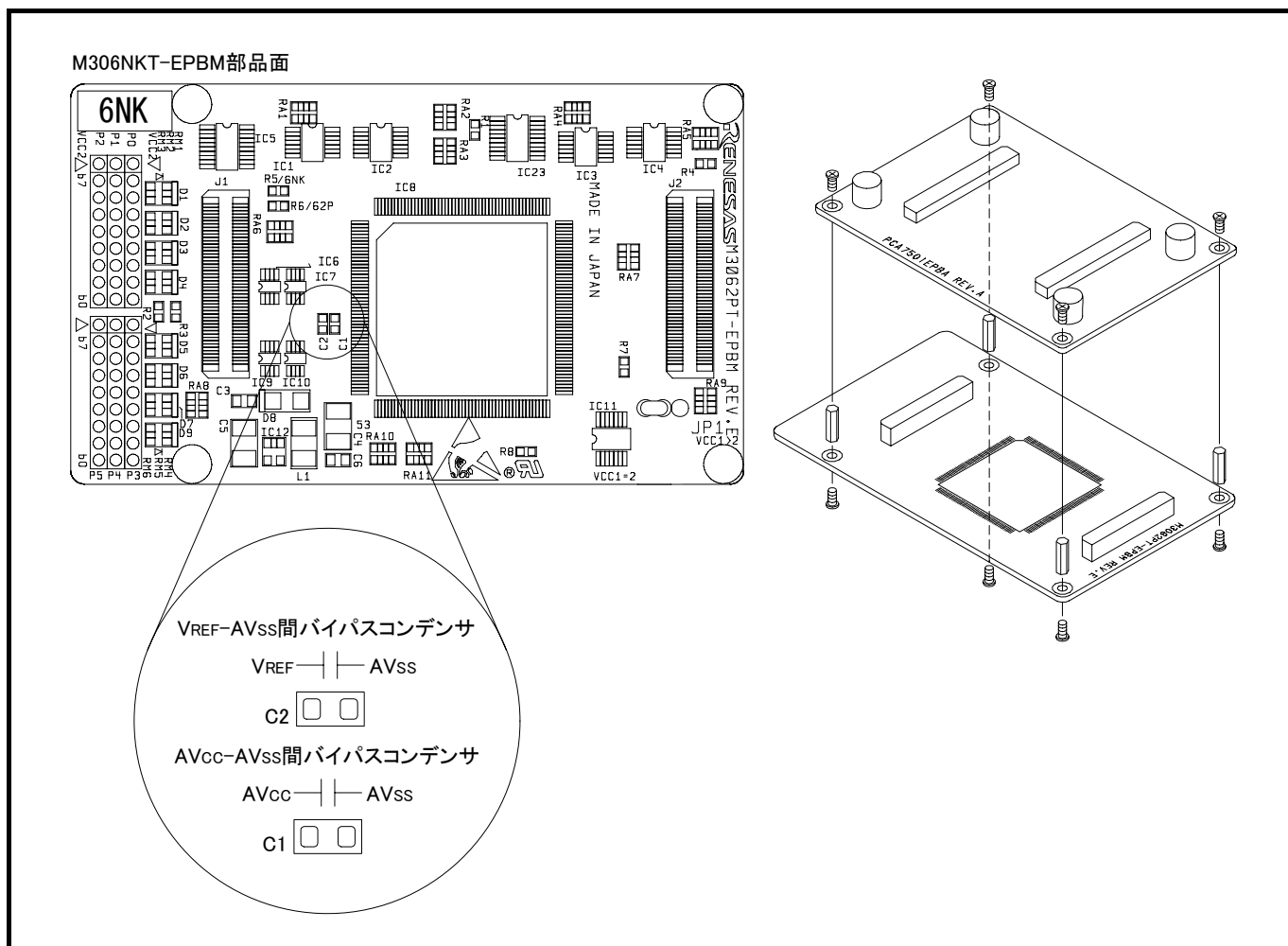


図2.16 A/Dコンバータ用バイパスコンデンサの取り付け位置と本製品の構造

重要

A/Dコンバータに関して：

- A/Dコンバータは、エバリュエーションMCUとユーザシステムの間パッケージ変換基板などが存在するため、実際のMCUとは結果が異なります。A/Dコンバータの最終評価は、実際のMCUにて実装評価してください。

2.10.2 エミュレーションポートのプルアップ

本製品は、入出力ポートの一部(ポートP0～P5、P10)をエミュレーションしています。このうち、ポートP0～P5については、プルアップ制御レジスタの設定が反映されません。必要に応じて添付の抵抗アレイ(51kΩ)を装着してご使用ください。図2.17に、プルアップ抵抗アレイの装着位置を示します。

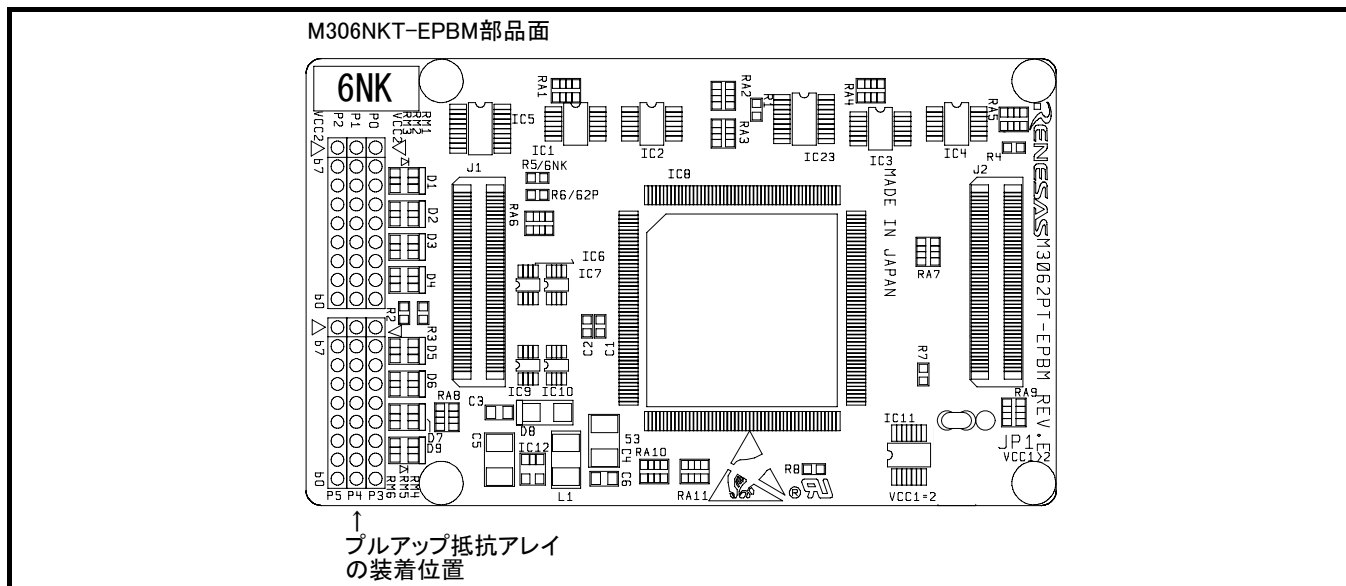


図2.17 プルアップ抵抗アレイの装着位置

表2.1 ポート番号とプルアップ抵抗部品番号の対応

ポート番号	抵抗部品番号
P00～P07	RM1 (51kΩプルアップ)
P10～P17	RM2 (51kΩプルアップ)
P20～P27	RM3 (51kΩプルアップ)
P30～P37	RM4 (51kΩプルアップ)
P40～P47	RM5 (51kΩプルアップ)
P50～P57	RM6 (51kΩプルアップ)

2.11 供給クロックの選択

2.11.1 供給可能なクロックの種類

本製品では、エミュレーションMCUへ供給するクロックは、エミュレータデバッガのInitダイアログ エミュレータタブ内で選択できます。表2.2に供給可能なクロックの種類と初期設定を示します。

表2.2 供給可能なクロックの種類と初期設定

クロック	エミュレータ デバッガの表示	内容	初期設定
Main (XIN-XOUT)	Internal	内部発振回路基板(OSC-3またはOSC-2)	○
	External	ユーザシステム上の発振回路	—
	Generated	内部生成発振回路(1.0~16.0MHz)	—
Sub (XCIN-XCOUT)	Internal	内部発振回路(32.768kHz)	—
	External	ユーザシステム上の発振回路	○

重要

クロック源の変更に関して：

- クロック源はエミュレータデバッガ起動時のInitダイアログまたはスクリプトウィンドウ上でのCLKコマンド入力により設定することができます。

2.11.2 内部発振回路基板の使用

(1) 発振回路基板の種類

PC7501には、出荷時に発振回路基板OSC-3(30MHz)が装着されています。また本製品は、発振回路基板OSC-3(16MHz)、発振回路基板ベアボードOSC-2を添付しています。

OSC-3 (16MHz)、OSC-2をメインクロックとしてPC7501内部発振回路基板を使用する場合、発振回路基板を交換後にエミュレータデバッガでInternalを選択することにより、MCUへ供給するクロックを変更することができます。

(2) 発振回路基板の交換手順

① PC7501の両側面ネジ(4箇所)を外して、上カバーを取り外してください(図2.18参照)。

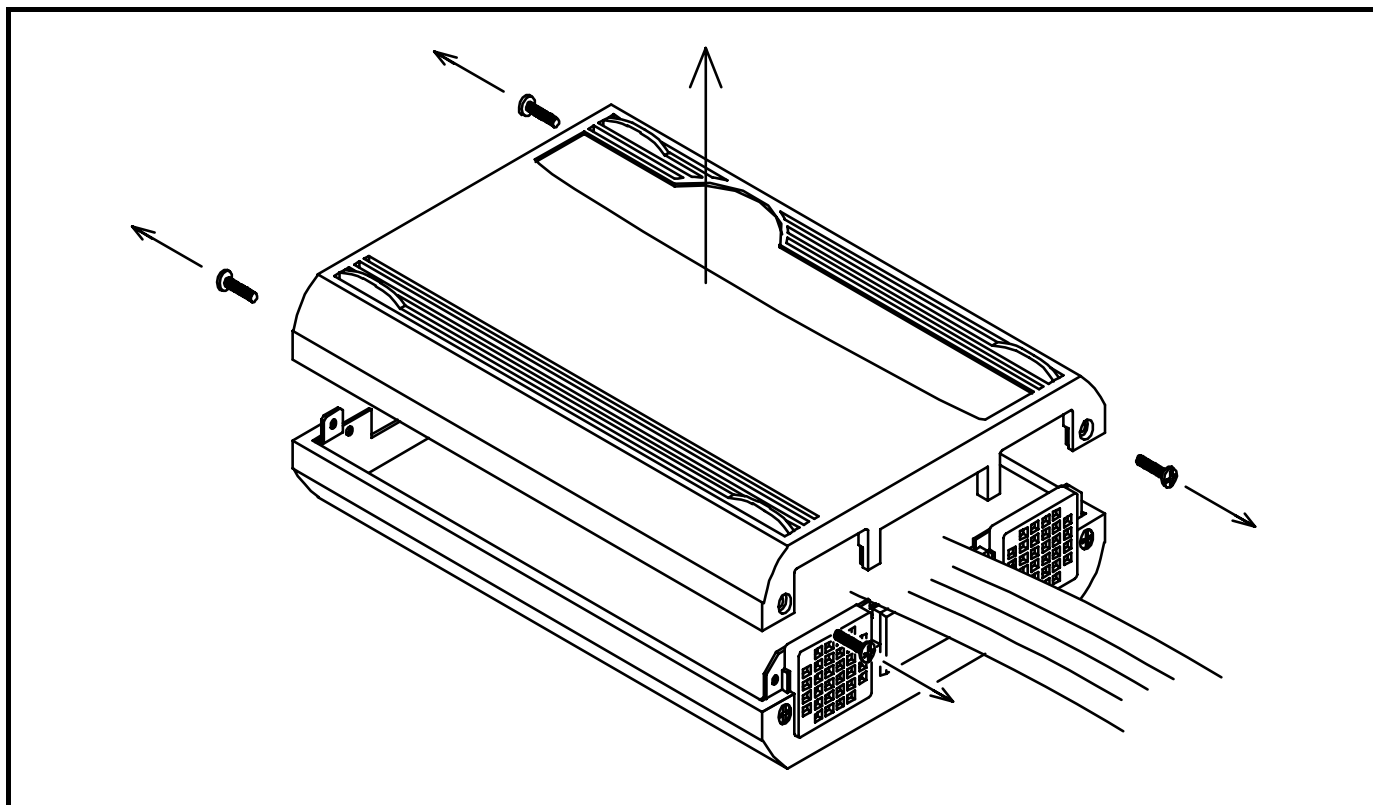


図2.18 上カバー取り外し

② PC7501内発振回路基板のネジを外して、発振回路基板を交換してください(図2.19参照)。

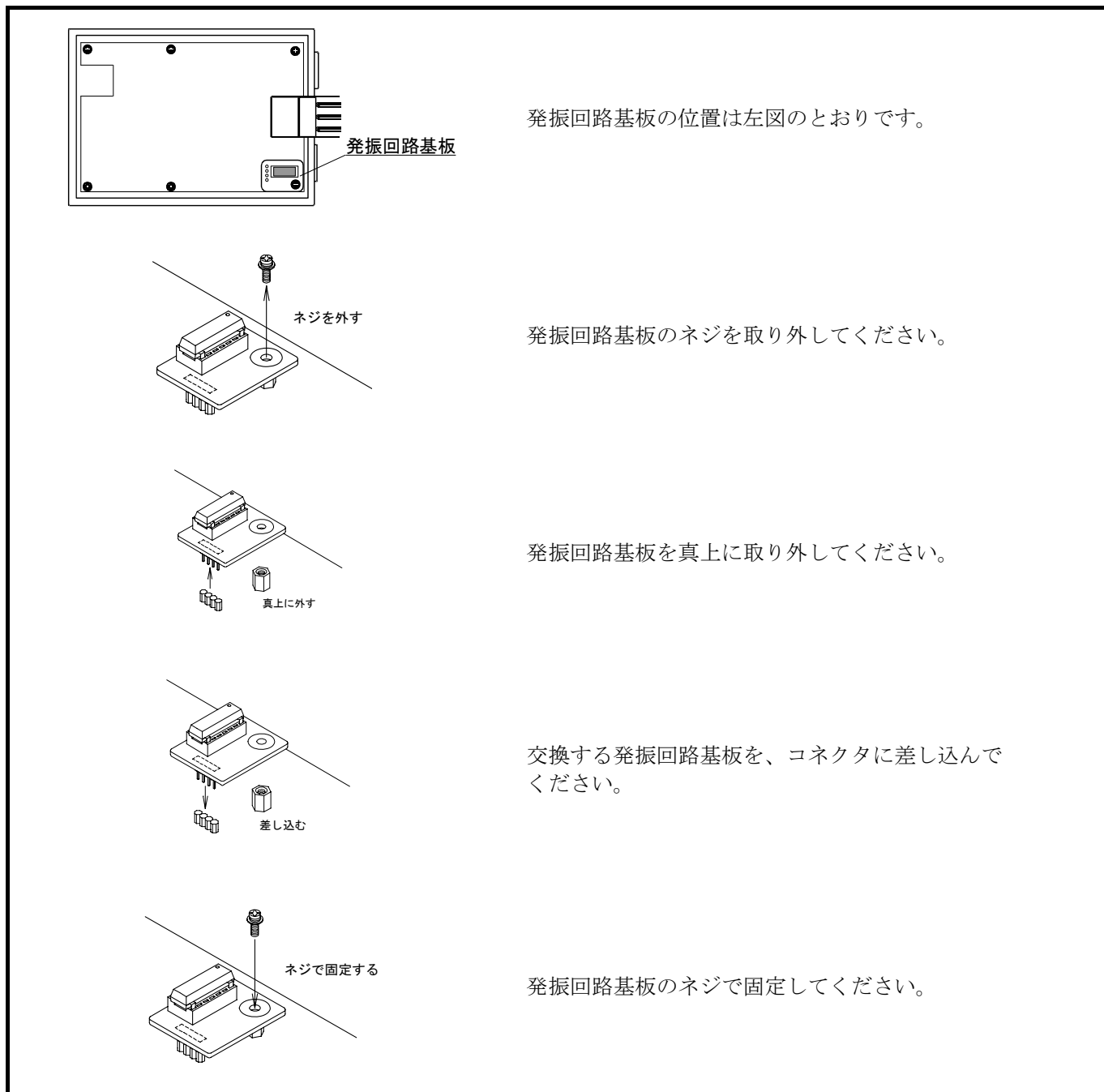


図2.19 発振回路基板の交換手順

③ 上カバーを元通り取り付け、PC7501の両側面ネジ(4箇所)で固定してください。

⚠ 注意

発振回路基板の交換に関して：



- 上カバーの取り外しや発振回路基板の交換は、必ず電源を切った状態で行ってください。内部回路を破壊する恐れがあります。

(3) 発振回路基板ベアボードの使用

特定の発振子などご希望の周波数で使用される場合は、発振回路基板ベアボードOSC-2上に発振回路を構成してください。図2.20に、発振回路基板ベアボードOSC-2の外形とコネクタピン配置を示します。また図2.21に、発振回路基板ベアボードOSC-2の回路図を示します。発振回路の諸定数は、発振子メーカーの推奨回路定数を使用してください。

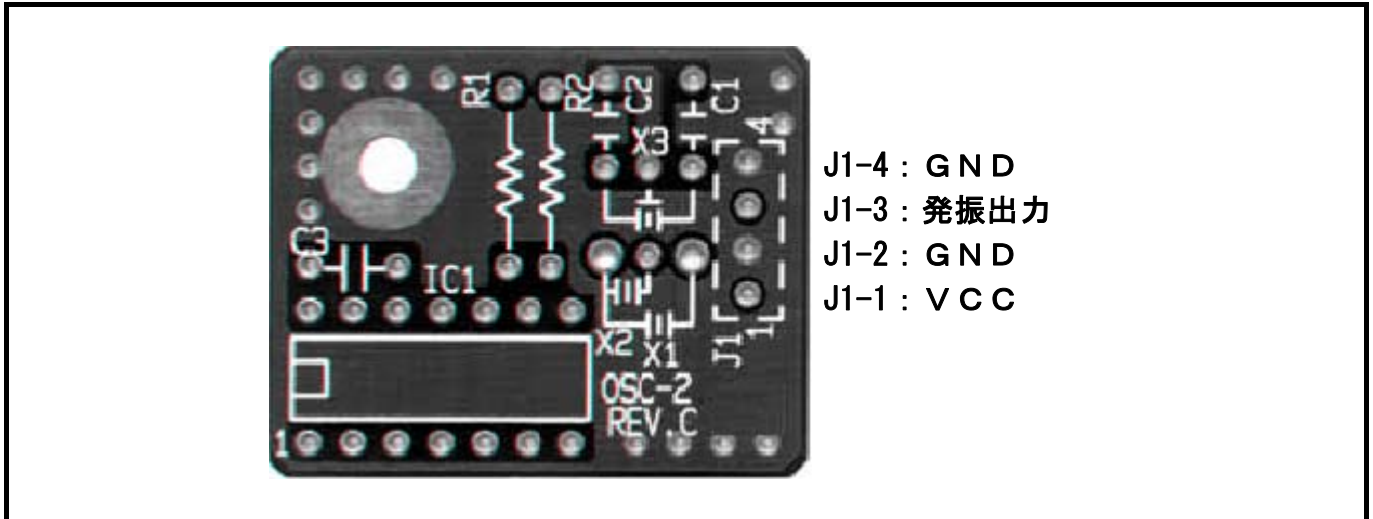


図2.20 発振回路基板ベアボードOSC-2の外形とコネクタピン配置

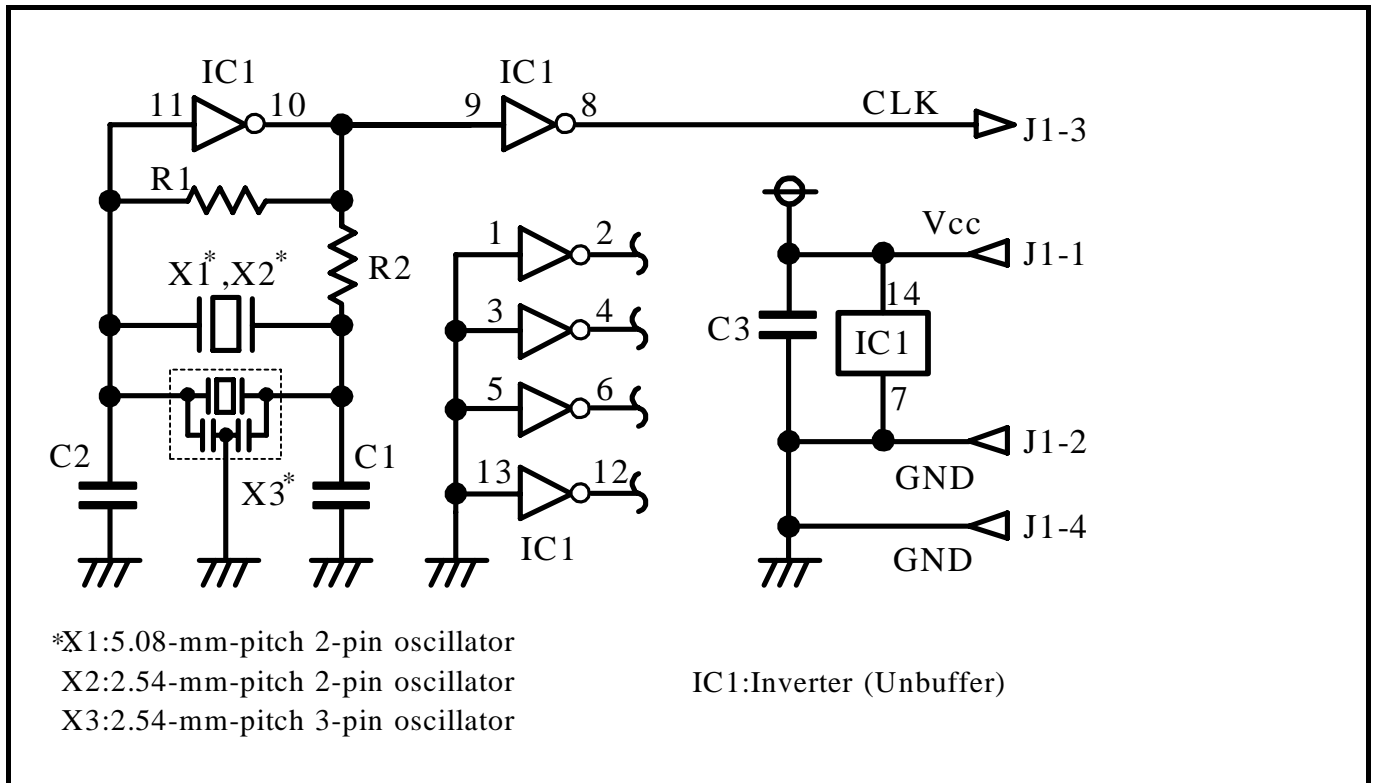


図2.21 発振回路基板ベアボードOSC-2の回路図

2.11.3 ユーザシステム上発振回路の使用

ユーザシステム上の発振回路を使用する場合は、図2.22で示すようにエバリュエーションMCUの動作範囲内でデューティ50%の発振出力をXIN端子へ入力してください。このとき、XOUT端子は開放としてください。エミュレータデバッガでExternalを選択することにより、MCUへ供給するクロックを変更することができます。

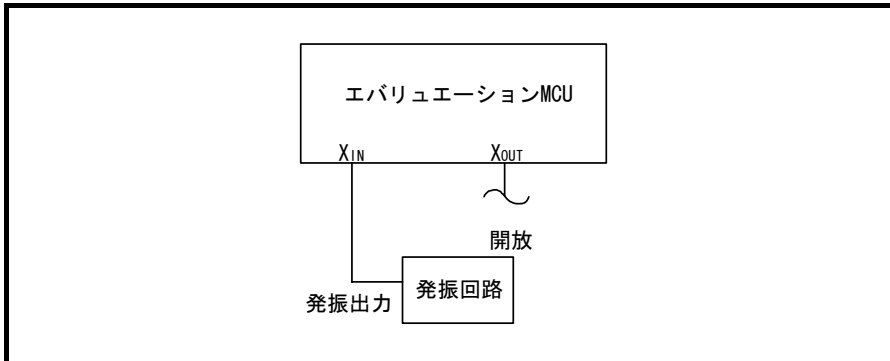


図2.22 ユーザシステム上発振回路の使用

図2.23に示すようなXIN-XOUT間に発振子を接続した発振回路では、エバリュエーションMCUとユーザシステムとの間にパッケージ変換基板が存在するため、発振できません。XCIN-XCOUT間についても同様です。

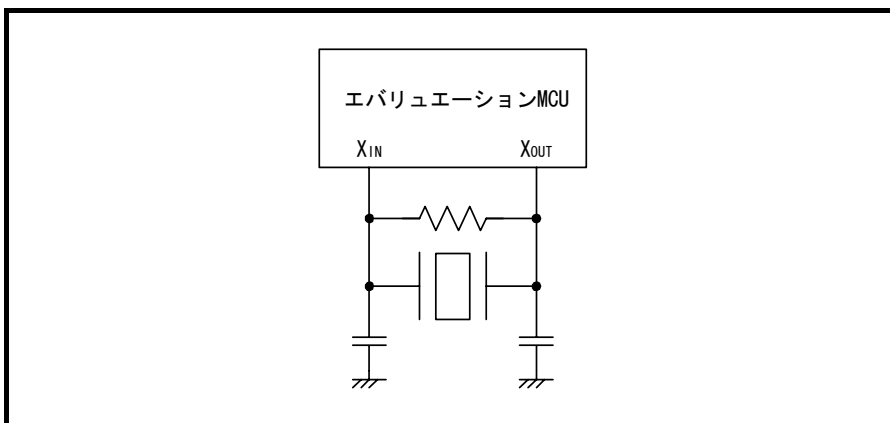


図2.23 エミュレータでは使用できない発振回路

2.11.4 内部生成発振回路の使用

エミュレータデバッガで指定した任意の周波数をPC7501内部の専用回路で生成し、メインクロックとして供給することができます。PC7501内部の発振回路基板やユーザシステム上の発振回路には依存しません。ユーザシステム未接続でのデバッグや、一時的に周波数を変更したい場合など、発振子を入手する前に動作を確認することができます。メインクロックとしてPC7501内部生成発振回路を使用する場合、エミュレータデバッガでGeneratedを選択して周波数を指定することにより、MCUへ供給するクロックを変更することができます。

PC7501の仕様は、1.0~99.9MHzまで0.1MHz単位で周波数を指定できますが、MCUのXIN最大入力周波数を超えない値を指定してください。

重要

内部生成発振回路の使用に関して：

- 内部生成発振回路は、デバッグ用として一時的な使用を想定して用意しています。周波数の温度特性などは保証できません。
- 最終的な評価は、内部発振回路基板(Internalクロック)で使用する周波数の発振子や発振モジュールを実装して評価ください。

3. 使用方法(エミュレータデバグの使い方)

この章では、High-performance Embedded Workshop上からのM16C R8C PC7501エミュレータデバグの起動、および主要ウィンドウの使用方法を説明しています。

3.1 エミュレータデバグ起動

プログラムが完成しデバグをするときは、「セッション」を切り替えます。セッションは下記ツールバーのドロップダウンリストで変更します。



プロジェクト作成時に選択したターゲットの数だけセッションが作成されていますので、ドロップダウンリストの中から“SessionM16C_R8C_PC7501_Emulator”を選択します。

3.1.1 Initダイアログの設定

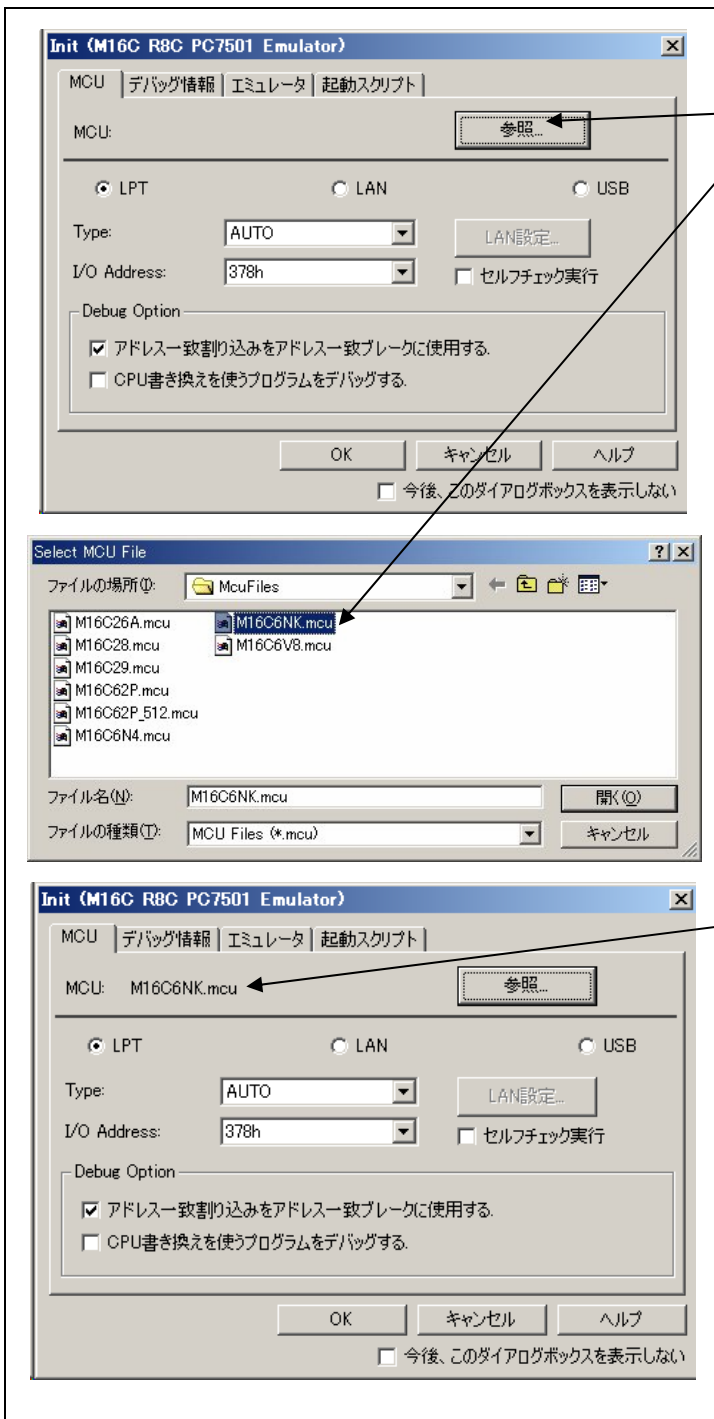
セッションを変更すると、ターゲットに接続するためのInitダイアログがオープンします。

Initダイアログは、エミュレータデバグ起動時に設定が必要な項目を設定するためのダイアログです。

このダイアログで設定した内容は、次回起動時も有効となります。

(1) MCUタブ

① MCUファイルの指定

**MCUファイルの指定**

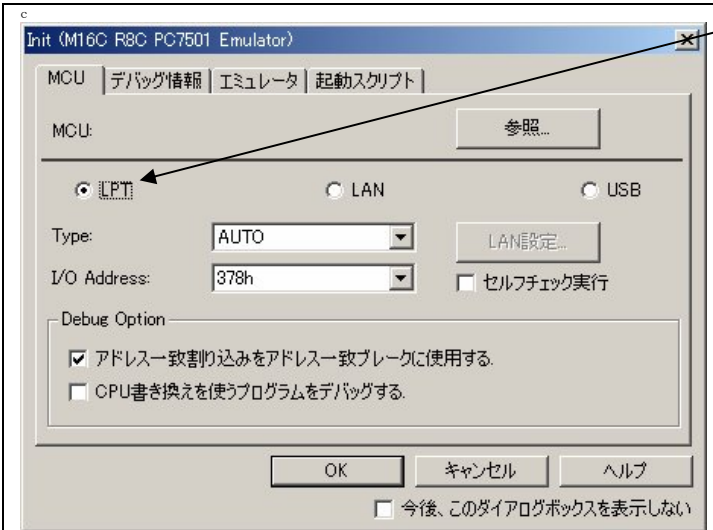
ターゲットMCU用のMCUファイルを指定します。

- ① "参照..."ボタンをクリックしてください。
- ② "Select MCU File"ダイアログがオープンしますので、ターゲットMCU用のMCUファイル
"M16C6NK.MCU"を指定してください。

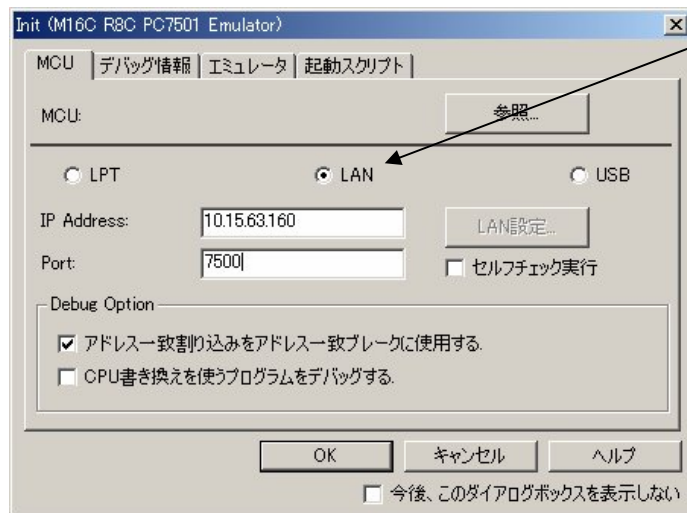
- MCUファイルは、ターゲットMCUの固有情報を格納したファイルです。

- 指定したMCUファイルは、MCUタブのMCU領域に表示されます。

② 通信インタフェースの指定

通信インタフェースの指定(LPT通信)

- LPT通信の設定をする場合は、MCUタブのラジオボタン "LPT"をクリックしてください。
- Type領域には、使用するLPTインタフェースの通信モードを指定してください。初めて使用される場合は、"AUTO"を選択してください。
- I/Oアドレス領域には、パラレルポートのI/Oアドレスを指定してください。
- BIOSセットアップでは、以下のいずれかのアドレスが有効になっています。
 - ・ 378h
 - ・ 278h

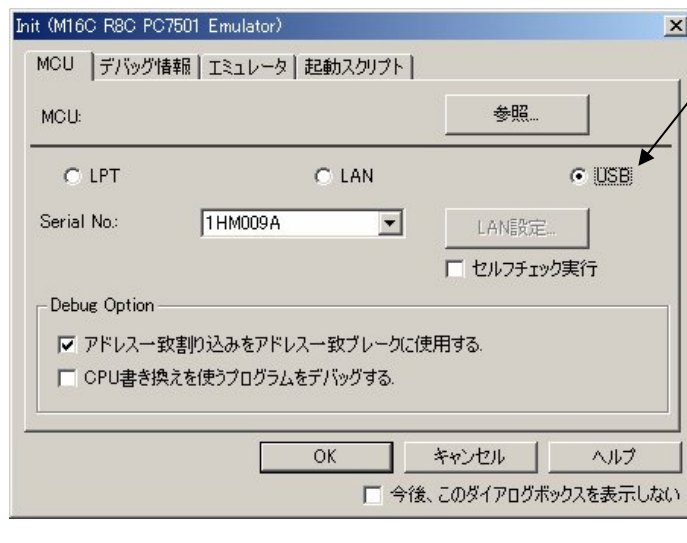
通信インタフェースの指定(LAN通信)

- LAN通信で接続する場合は、MCUタブのラジオボタン "LAN"をクリックしてください。
- IP Address領域にエミュレータのIPアドレスを指定してください。
- IPアドレスは、10進数で1バイトずつ、4バイトをピリオドで区切って指定します。
- Port領域にポート番号を指定してください。

[補足事項]

初めてLAN通信を使用される場合は、LAN通信以外のインタフェースでエミュレータに接続しIPアドレスを設定するか、付属のSETIPユーティリティを使用してIPアドレスを設定してください。

SETIPユーティリティの詳細は、エミュレータデバッガのオンラインマニュアルを参照してください。

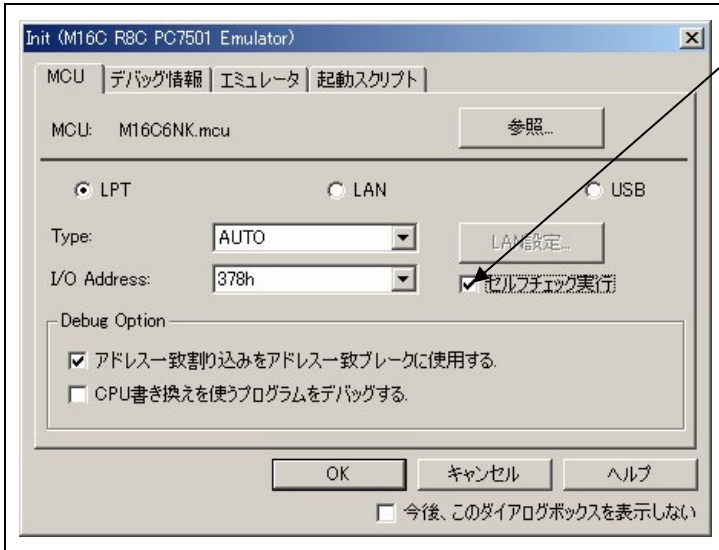
通信インタフェースの指定(USB通信)

- USB通信で接続する場合は、MCUタブ内のラジオボタン "USB"をクリックしてください。
- Serial No.領域には、現在USB接続されているエミュレータの一覧を表示します。
- 接続するエミュレータのシリアルNo.を選択してください。

[補足事項]

- 初めてUSB通信を使用される場合は、エミュレータの電源を投入によりUSBデバイスが検出され、対応するデバイスドライバをインストールするためのウィザードが起動します。そのままウィザードに従いインストールを完了させてください。

③ セルフチェックの実行



セルフチェックの実行

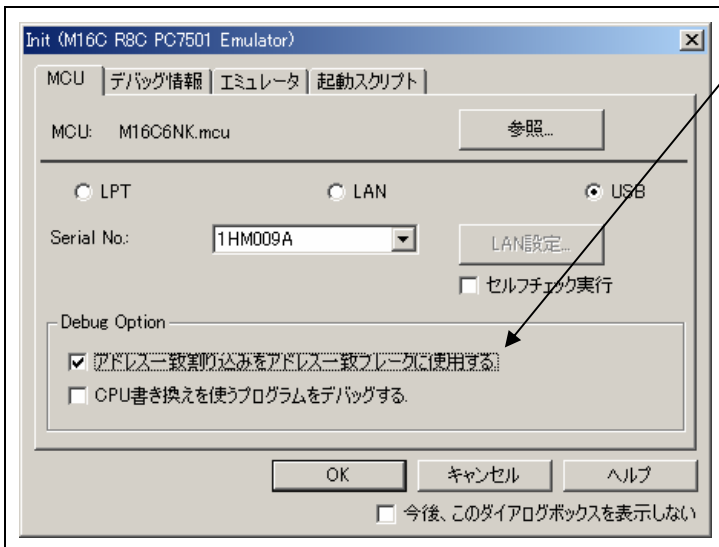
デバッガ起動時にエミュレータのセルフチェックを実行する場合に指定します。起動時にセルフチェックを行いたい場合のみ、チェックボックスをチェックしてください。

次のような場合に指定してください。

- 新規にエミュレータを購入したとき
- ファームウェアのダウンロードは成功するが、エミュレータデバッガの起動に失敗するとき
- MCUが暴走する、あるいはトレース結果がおかしい場合などに、エミュレータが正常に動作しているか確認したいとき

この指定は、エミュレータデバッガ起動時のみ設定が可能です。

④ アドレス一致ブレイク機能の使用/未使用



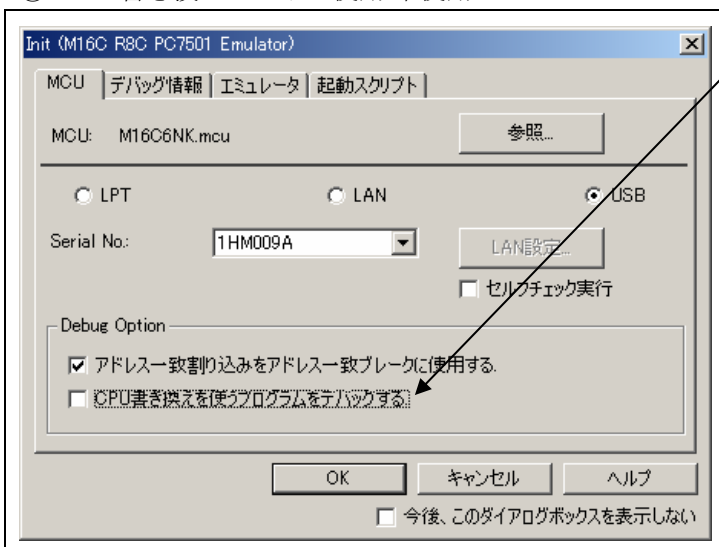
アドレス一致ブレイク機能の使用/未使用

アドレス一致ブレイク機能を利用するかどうかを指定します。

- アドレス一致ブレイク機能を利用する場合 (デフォルト)
チェックボックスをチェックしてください。
この時、アドレス一致割り込みはエミュレータが使用します。
ユーザのプログラムで使用することはできません。
- アドレス一致ブレイク機能を利用しない場合
チェックボックスのチェックを外してください。
この時、アドレス一致割り込みはユーザのプログラムで使用できます。

この指定は、エミュレータデバッガ起動時のみ設定/変更が可能です。

⑤ CPU書き換えモードの使用/未使用



CPU書き換えモードの使用/未使用

CPU書き換えモードをデバッグするかどうかを指定します。

CPU書き換えモードを使用したユーザシステムをデバッグする場合は、チェックボックスをチェックしてください。

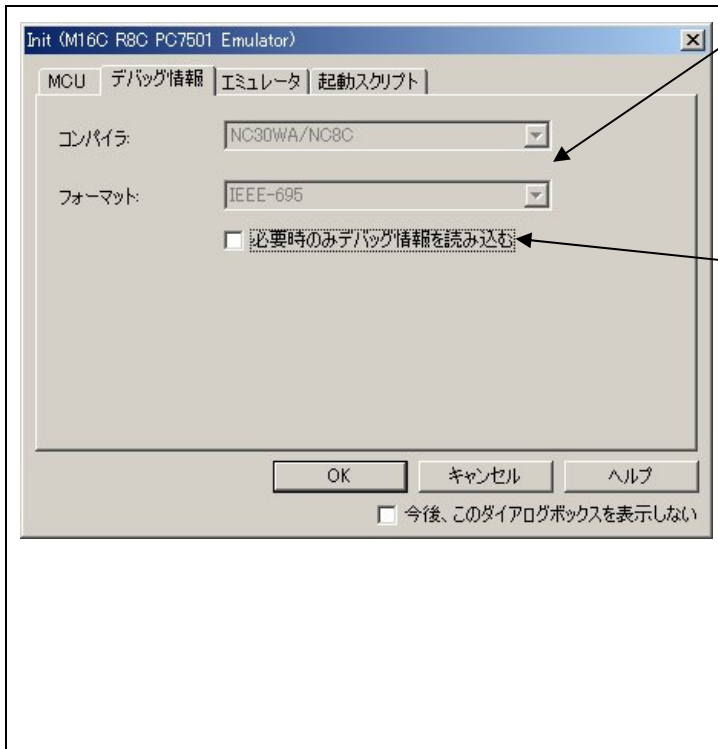
この指定は、エミュレータデバッガ起動時のみ設定/変更が可能です。

[補足事項]

CPU書き換えモードデバッグを有効にした場合、以下の機能は使用できません。

- アドレス一致ブレイクポイントの設定
- 内蔵ROM領域へのS/Wブレイクポイント設定
- 内蔵ROM領域へのCOME実行
- H/Wブレイクポイント、トレースポイント設定

(2) デバッグ情報タブ

**使用コンパイラ/オブジェクトフォーマットの参照**

ご使用のコンパイラと、オブジェクトファイルのフォーマットを表示します。

本ダイアログで、現在の設定内容が確認できます。設定は、メニュー[デバッグ]→[デバッグの設定...]で開くダイアログで行ってください。

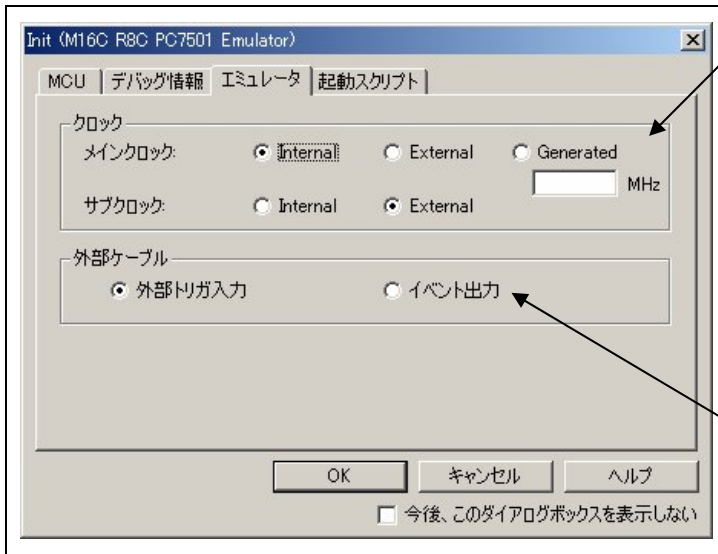
デバッグ情報の格納方式指定

デバッグ情報の格納方式には、オンメモリ方式とオンデマンド方式があります。デバッグ情報の格納方式を選択してください(デフォルトはオンメモリ方式です)。

オンデマンド方式を選択する場合、[必要時のみデバッグ情報を読み込む]チェックボックスをチェックします。

- オンメモリ方式
デバッグ情報をパーソナルコンピュータのメモリ上に保持します。ロードモジュール(ユーザプログラム)の規模が小さい場合に適します。
- オンデマンド方式
デバッグ情報を再利用可能なテンポラリファイル上に保持します。同一ロードモジュールに対する二度目以降のダウンロードでは、保持されたデバッグ情報を再利用するため、高速にダウンロード可能です。ロードモジュール(ユーザプログラム)の規模が大きい場合に適します。

(3) エミュレータタブ

**ターゲットクロックの指定**

MCU（メインクロック、サブクロック）への供給クロックを指定します。ターゲットMCUの使用クロックに合わせて設定を変更してください。

- **Internal**(デフォルト)
PC7501内部のクロック
- **External**
ユーザシステムのクロック
- **Generated**
PC7501内部生成のクロック

指定した内容は、次回起動時にも有効となります。

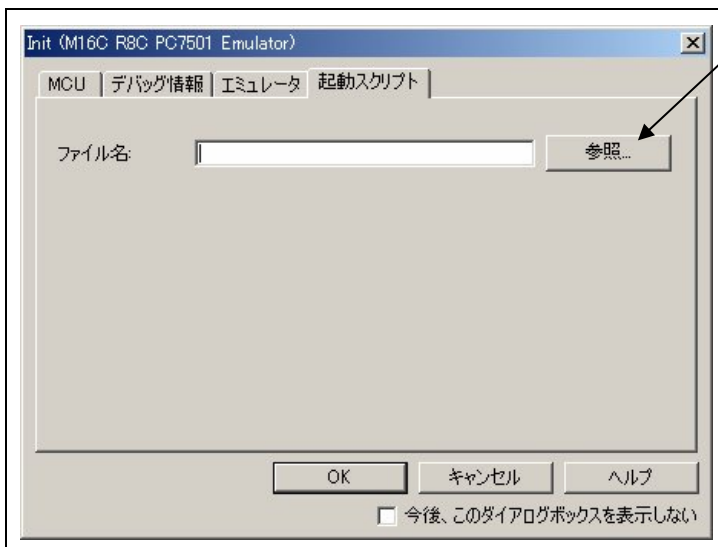
イベント出力/トリガ入力ケーブルの選択

PC7501のイベント出力/トリガ入力用ケーブルの入出力の方向を選択します。

- **外部トリガ入力**(デフォルト)
ケーブルから外部トリガを入力する
- **イベント出力**
ケーブルにイベントを出力する

なお、起動時は"外部トリガ入力"が設定されています（前回起動時に指定した内容は無効になります）。

(4) 起動スクリプトタブ

**スクリプトコマンドの自動実行**

デバッガ起動時にスクリプトコマンドを自動実行するには、“参照...” ボタンをクリックし、実行するスクリプトファイルを指定してください。

“参照...” ボタンをクリックすることにより、ファイルセレクションダイアログがオープンします。指定されたスクリプトファイルは、ファイル名領域に表示されます。スクリプトコマンドを自動実行しないようにするには、ファイル名領域に表示された文字列を消去してください。

指定した内容は、起動時のみ反映されます。起動後にInitダイアログで再設定した場合は、有効になりません(エミュレータデバッガを再起動してください)。

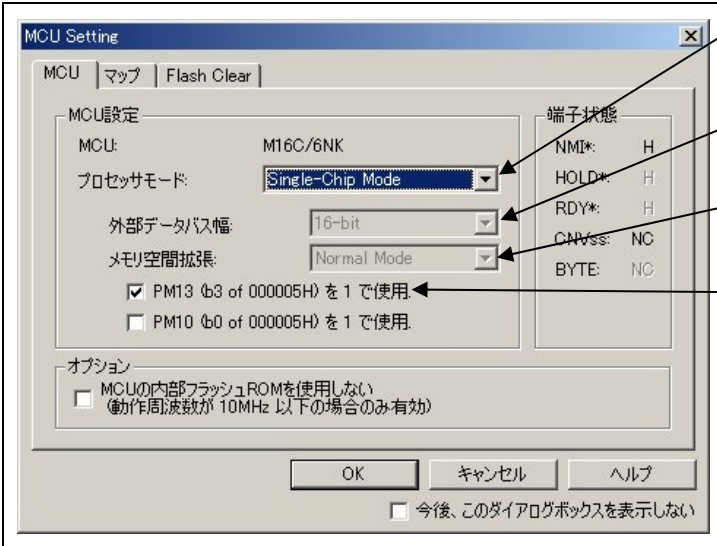
上記(1)~(4)のタブ設定が完了した後、“OK”ボタンを押してください。

3.1.2 MCU Settingダイアログの設定

MCU Settingダイアログは、ユーザシステムの情報を設定するためのダイアログです。Initダイアログをクローズした後にオープンします。

(1) MCUタブ

① MCU Setting



プロセッサモードの指定

ユーザシステムにあわせて、プロセッサモードを指定してください。

バス幅の指定

メモリ拡張モード、マイクロプロセッサモードを指定した場合、外部データバス幅を"16-bit"、"8-bit"から指定します。

メモリ空間拡張機能の使用/不使用

M306NKT-EPBはメモリ空間拡張機能をサポートしていません。"Normal Mode"を指定してください。

内部予約領域拡張の使用/不使用

内部予約領域拡張するかどうかを指定します。内部予約領域拡張ビット (PM13) を"1"で使用する場合はチェックしてください。

PM13=0設定：内部RAM領域；00400h～03FFFh
内部ROM領域；D0000h～FFFFFh

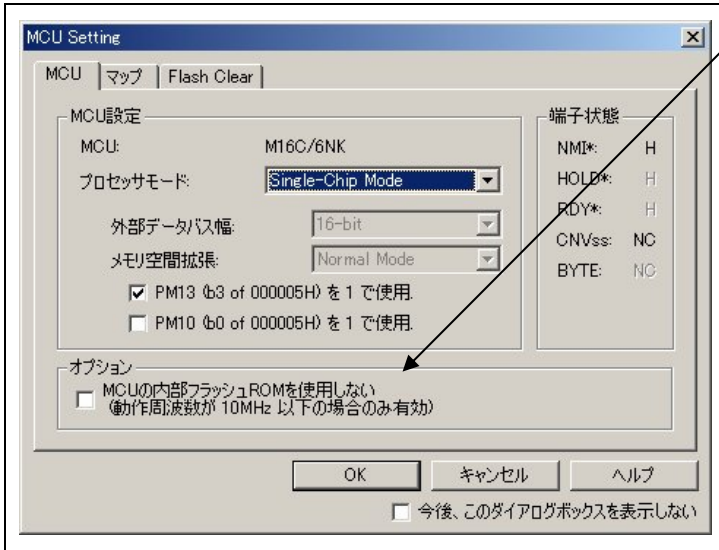
PM13=1設定：内部RAM領域；00400h～07FFFh
内部ROM領域；80000h～FFFFFh

重要

プロセッサモードの選択に関して：

- シングルチップモード、メモリ拡張モードを設定する場合、MCUステータスのCNVSSが“L”である必要があります。MCUステータスは、ユーザシステムの端子レベルを表示しています。
- マイクロプロセッサモードを設定する場合、MCUステータスのCNVSSが“H”である必要があります。
- メモリ拡張モード、マイクロプロセッサモードを設定した場合、MCUステータスのRDY#、HOLD#が“H”である必要があります。
- ユーザシステムを接続しない場合(ターゲットレス)、全モードの設定が可能です。

② オプション

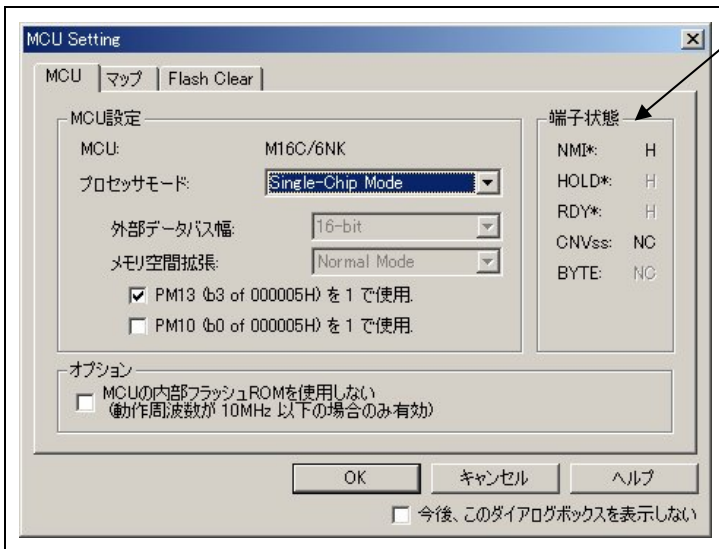
**デバッグオプションの設定**

プログラムをMCU内蔵フラッシュROM にダウンロードしない場合はチェックします。

チェックすると、PC7501内部のエミュレーションメモリにプログラムを配置しますので、作業性(ダウンロードやS/Wブレイク)が向上します。ただし、動作可能な最大動作周波数は10MHzです。

初期値はチェックされていません。

③ 端子状態

**端子状態**

MCUの各端子の状態を表示します。

設定するプロセッサモードと一致しているかを確認できます。

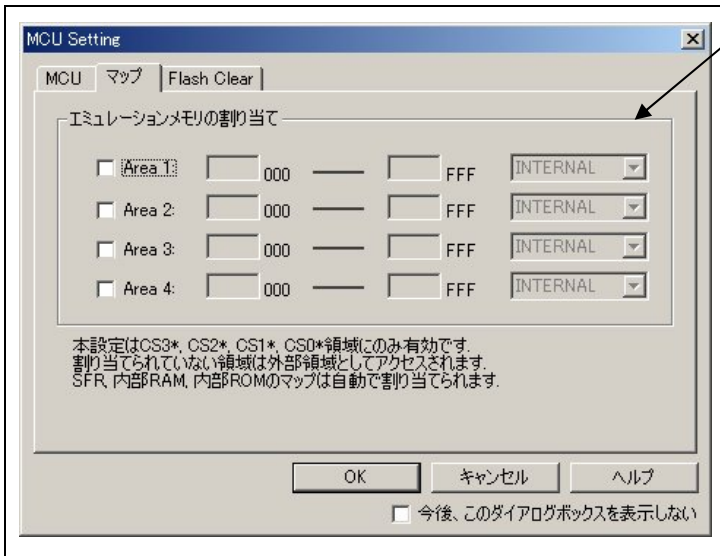
"NC"表示は、値が不定であることを表します。

重要

プロセッサモードの選択に関して：

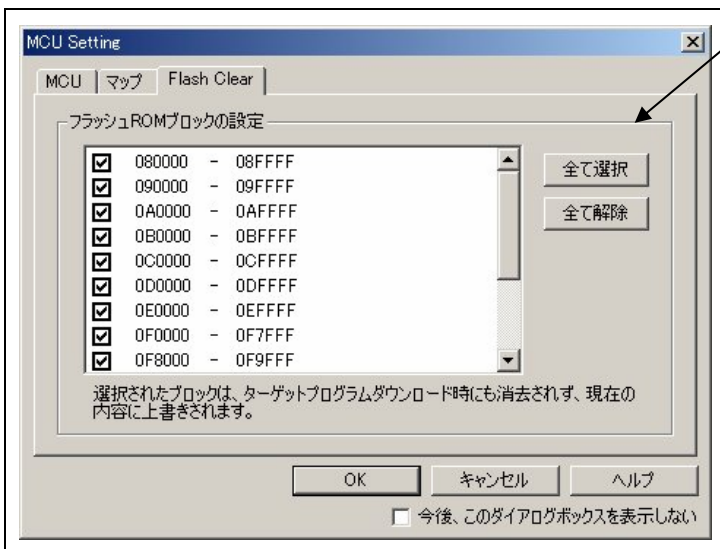
- MCU Settingダイアログにある“端子状態”には、MCUの端子状態が表示されます。設定するプロセッサモード、外部データバス幅とMCUの端子状態が一致しているかご確認ください。
- メモリ拡張モード、マイクロプロセッサモードを設定する場合、RDY#, HOLD#は"H"であることが必要です。

(2) マップタブ



エミュレーションメモリ割り当て
 エミュレーションメモリに割り当てるメモリ領域を4KB単位で設定します。4つの領域を設定することができます。チェックボックスをチェックすることによって、Internalに設定できます。Internalに設定された領域はエミュレーションメモリに割り当てられます。チェックされていない領域は何も設定されていない領域は、外部領域に設定されます。なお、MAP設定はCS3#, CS2#, CS1#およびCS0#領域にのみ有効です。SFR領域、内部ROM領域、内部RAM領域のMAPは自動設定されます。

(3) Flash Clearタブ



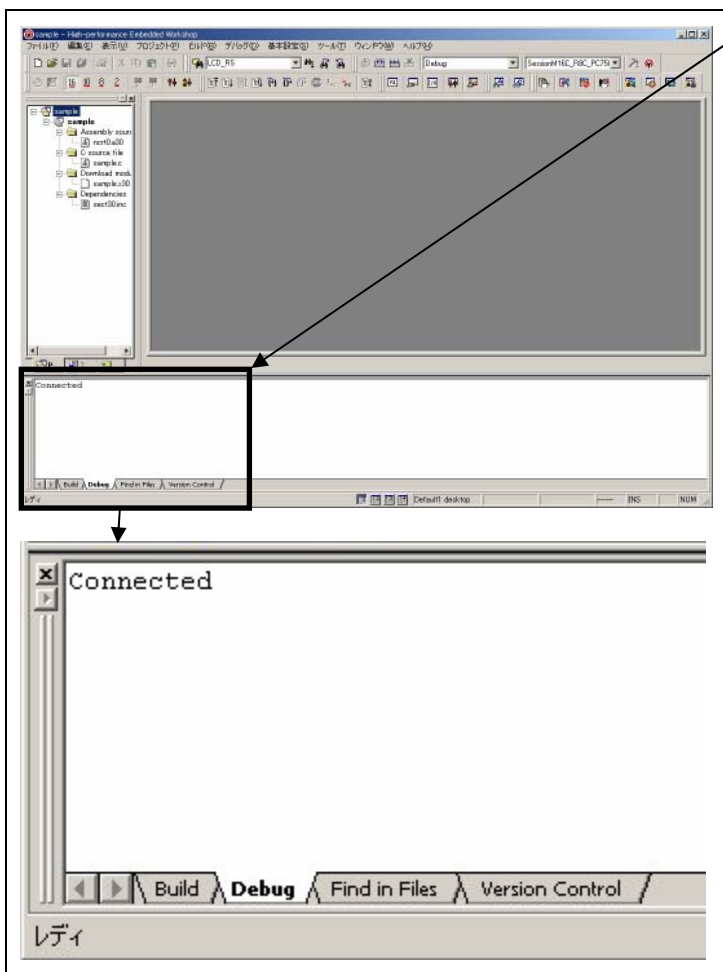
内蔵フラッシュROMクリアの設定
 ターゲットプログラムやデータのダウンロードの際にMCU内蔵フラッシュROMの内容をクリア（フラッシュROMの消去状態"FFh"）するか否かを指定してください。リストにはMCU内蔵フラッシュROMがブロック単位で表示されています。

- チェックマークを付けたブロックは、ダウンロード時にフラッシュの内容がクリアされません。ダウンロードで上書きされない個所のメモリ内容はそのまま残ります。
- チェックマークを外したブロックは、ダウンロード時にフラッシュの内容がクリアされます。
- “全て選択”ボタンを押すと、全ブロックにチェックマークが付きます（ダウンロード時にすべてのブロックはクリアされません）。
- “全て解除”ボタンを押すと、全ブロックのチェックマークが外れます（ダウンロード時にすべてのブロックがクリアされます）。

指定した内容は、次回起動時にも有効となります。

上記(1)~(3)のタブ設定が完了した後、“OK”ボタンを押してください。

3.1.3 エミュレータへの接続確認

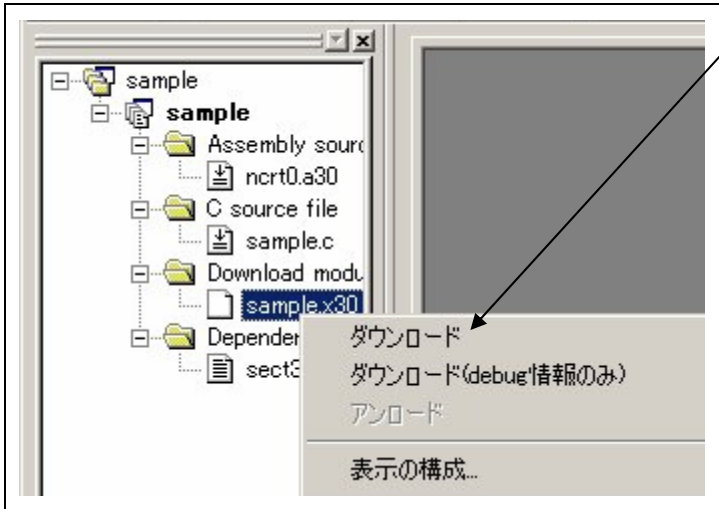
**エミュレータへの接続確認**

INITダイアログおよびMCU Settingダイアログの設定完了後、正常にエミュレータに接続できれば、アウトプットウィンドウの"Debug"タブに"Connected"と表示されます。

3.2 エディタ(ソース)ウィンドウ

デバッグ対象のユーザプログラムをダウンロードします。

① ワークスペースウィンドウからのダウンロード

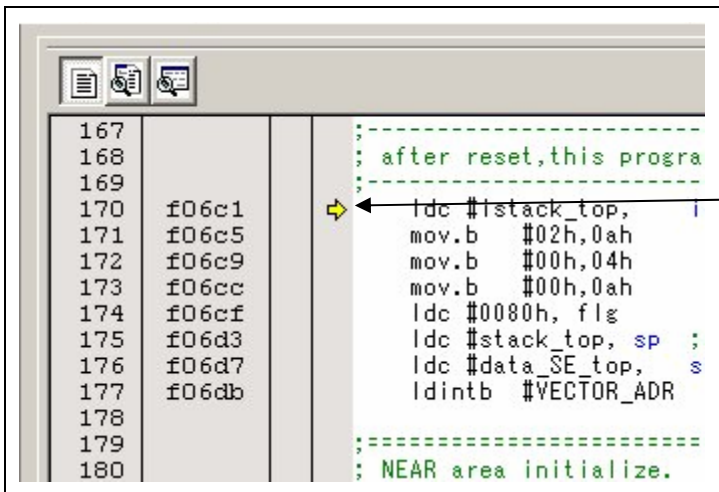


ユーザプログラムのダウンロード

ワークスペースウィンドウ内の「Download module」の「xxx.x30」から「ダウンロード」を選択します。

「デバッグ」メニューから「ダウンロード」を選択してもダウンロードできます。

② プログラム表示



エディタ(ソース)ウィンドウ

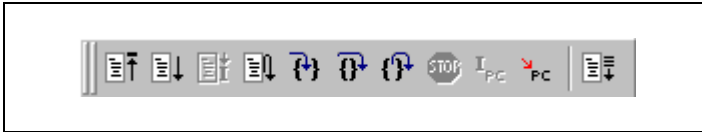
エディタ(ソース)ウィンドウは、現在のプログラムカウンタ(以下PC)位置に該当するソースファイルを表示するウィンドウです。

PC位置は黄矢印で表示されます。カーソル位置までの実行、S/Wブレークポイントの設定/解除、ラインアセンブル等ができます。

本製品ではMCU内蔵フラッシュROMを使用しているため、購入時のROM領域データ初期値は“FFh”となります。

3.3 プログラム実行

(1) プログラム実行



CPUリセット

ターゲットMCUをリセットします。

実行

現在のPCアドレスからプログラムを継続実行します。

リセット後実行

ターゲットMCUをリセット後、プログラムを実行します。

ステップイン

各ステートメントを実行します（関数内のステートメントを含む）。

ステップオーバ

関数コールを1ステップとして、ステップ実行します。

ステップアウト

関数を抜け出し、関数を呼び出したプログラムの次のステートメントで停止します。

停止

プログラムを停止します。

フリー実行

設定されているS/Wブレークポイント、H/Wブレークポイントを一時的に無効にして、プログラムを実行します。

(2) アドレス一致ブレークポイント設定


① アドレス一致ブレークポイント設定

167			-----
168			; after reset, this program
169			-----
170	f06c1	↳	ldc #istack_top, isp
171	f06c5		mov.b #02h,0ah
172	f06c9		mov.b #00h,04h
173	f06cc		mov.b #00h,0ah
174	f06cf		ldc #0080h, flg
175	f06d3		ldc #stack_top, sp ;sel
176	f06d7		ldc #data_SE_top, sb
177	f06db	●	ldintb #VECTOR_ADR
178			-----
179			; NEAR area initialize.
180			-----
181			

アドレス一致ブレーク付き実行設定手順

InitダイアログのMCUタブで”アドレス一致割り込みをアドレス一致ブレーク使用する。”にチェックした場合のみ、使用出来ます。

- ① エディタ(ソース)ウィンドウのアドレス一致ブレークポイント設定用カラム上で、ブレークポイントを設定する行をダブルクリックすることにより、設定/解除できます(設定行に青丸が表示されます)。8点設定可能です。

- ②  実行ボタンをクリックします。

② アドレス一致ブレーク付き実行終了

167			-----
168			; after reset, this program
169			-----
170	f06c1		ldc #istack_top, isp
171	f06c5		mov.b #02h,0ah
172	f06c9		mov.b #00h,04h
173	f06cc		mov.b #00h,0ah
174	f06cf		ldc #0080h, flg
175	f06d3		ldc #stack_top, sp ;sel
176	f06d7		ldc #data_SE_top, sb
177	f06db	●	ldintb #VECTOR_ADR
178			-----
179			; NEAR area initialize.
180			-----
181			

アドレス一致ブレークを設定した位置で停止します。アドレス一致ブレークを設定したステートメントは実行されません。


(3) S/Wブレークポイント設定

① S/Wブレークポイント設定

167			-----
168			; after reset, this program
169			-----
170	f06c1	→	ldc #istack_top, isp
171	f06c5		mov.b #02h,0ah
172	f06c9		mov.b #00h,04h
173	f06cc		mov.b #00h,0ah
174	f06cf		ldc #0080h, flg
175	f06d3		ldc #stack_top, sp ;sel
176	f06d7		ldc #data_SE_top, sb
177	f06db	●	ldintb #VECTOR_ADR
178			-----
179			; NEAR area initialize.
180			-----
181			

S/Wブレーク付き実行設定手順

① エディタ(ソース)ウィンドウのS/Wブレークポイント設定用カラム上で、ブレークポイントを設定する行をダブルクリックすることにより、設定/解除できます(設定行に赤丸が表示されます)。

②  実行ボタンをクリックします。

② S/Wブレーク付き実行終了

167			-----
168			; after reset, this program
169			-----
170	f06c1		ldc #istack_top, isp
171	f06c5		mov.b #02h,0ah
172	f06c9		mov.b #00h,04h
173	f06cc		mov.b #00h,0ah
174	f06cf		ldc #0080h, flg
175	f06d3		ldc #stack_top, sp ;sel
176	f06d7		ldc #data_SE_top, sb
177	f06db	●	ldintb #VECTOR_ADR
178			-----
179			; NEAR area initialize.
180			-----
181			


S/Wブレークを設定した位置で停止します。
S/Wブレークを設定したステートメントは実行されません。

(4) カーソル位置まで実行する(カム実行)

① カム実行設定

167			-----
168			; after reset, this program y
169			-----
170	f06c1	→	ldc #istack_top, isp
171	f06c5		mov.b #02h,0ah
172	f06c9		mov.b #00h,04h
173	f06cc		mov.b #00h,0ah
174	f06cf		ldc #0080h, flg
175	f06d3		ldc #stack_top, sp ;sel
176	f06d7		ldc #data_SE_top, sb
177	f06db	←	ldintb #VECTOR_ADR
178			-----
179			; NEAR area initialize.
180			-----
181			-----

カム実行設定手順

- ① プログラム表示領域の実行させたい行をクリックします。
- ②  COMEボタンをクリックします。

② カム実行終了

167			-----
168			; after reset, this program y
169			-----
170	f06c1		ldc #istack_top, isp
171	f06c5		mov.b #02h,0ah
172	f06c9		mov.b #00h,04h
173	f06cc		mov.b #00h,0ah
174	f06cf		ldc #0080h, flg
175	f06d3		ldc #stack_top, sp ;sel
176	f06d7		ldc #data_SE_top, sb
177	f06db	→	ldintb #VECTOR_ADR
178			-----
179			; NEAR area initialize.
180			-----
181			-----

- 指定したカム実行位置で停止します。
カム実行で指定したステートメントは実行されません。

3. 4 H/Wブレークポイント設定ウィンドウ

(1) ブレークイベント設定ダイアログ

① H/Wブレークポイント設定ウィンドウのオープン



H/Wブレークポイント
 クリックするとH/Wブレークポイント設定ウィンドウが開きます。

② H/Wブレークポイント設定ウィンドウ



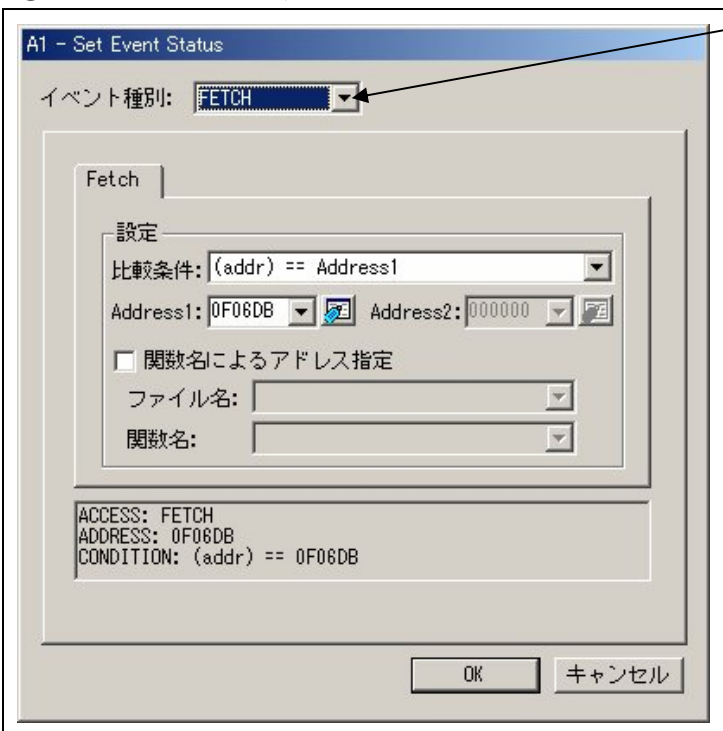
H/Wブレークポイント設定ウィンドウ初期画面

“H/Wブレークを有効にする”チェックボックスをチェックしてください。H/Wブレークポイント設定が可能になります。

ブレークイベント設定

設定したいイベント行をクリックします。

③ ブレークイベント設定ダイアログ



イベント種別の指定

設定したいイベント種別をクリックします。

- **FETCH**
命令プリフェッチを検出します。
- **DATA ACCESS**
メモリアccessを検出します。
- **BIT SYMBOL**
ビットアクセスを検出します。
- **INTERRUPT**
割り込み発生または割り込み終了を検出します。
- **TRIGGER**
外部トレース信号入力ケーブルからの信号を検出します。

(2) FETCH選択時

① アドレス設定画面

A1 - Set Event Status

イベント種別: **FETCH**

Fetch

設定

比較条件: (addr) == Address1

Address1: 0F06DB Address2: 000000

関数名によるアドレス指定

ファイル名:

関数名:

ACCESS: FETCH
ADDRESS: 0F06DB
CONDITION: (addr) == 0F06DB

OK キャンセル

アドレス設定

指定アドレス、アドレス範囲など8条件の設定が可能です。
設定が完了したら“OK”をクリックします。

(3) DATA ACCESS選択時

① アドレス設定画面

A1 - Set Event Status

イベント種別: DATA ACCESS

Address Data

設定

比較条件: (addr) == Address1

Address1: 000401 Address2: 000000

関数名によるアドレス指定

ファイル名:

関数名:

ACCESS: READ
ADDRESS: 000401
CONDITION: (addr) == 000401

OK キャンセル

アドレス設定

"Address"タブで指定します。
指定アドレス、アドレス範囲など8条件の設定が可能です。
アドレス設定が完了した後、データ設定を行います。

② データ設定画面

A1 - Set Event Status

イベント種別: DATA ACCESS

Address Data

設定

比較条件: (data) == Data1

Data1: 0000 Data2: 0000

アクセス条件: READ マスク: FFFF

ACCESS: READ
ADDRESS: 000000
CONDITION: (addr) == 000000, (data) == 0000

OK キャンセル

データ設定

"Data"タブで指定します。
指定データ、データ範囲など8条件の設定が可能です。

アクセス条件設定

リード、ライト、リード/ライトの3条件の設定が可能です。
データ、アクセス条件設定が完了したら"OK"をクリックします。

③ データ設定例

偶数番地ワードアクセスのイベント設定

STE.W A0,20E8h(A0=5423h)

Cycle	Label	Address	Data	BUS	BHE	BIU	R/W	RWT	CPU
-00023		0020E8	5423	16b	0	DW	W	0	CW

上位下位データ有効

奇数番地ワードアクセスのイベント設定

STE.W A0,20E5h(A0=AB79h)

Cycle	Label	Address	Data	BUS	BHE	BIU	R/W	RWT	CPU
-00021		0020E5	79AB	16b	0	DW	W	0	CB
-00020		0020E6	79AB	16b	1	DW	W	0	CB

奇数番地上位データ有効

偶数番地下位データ有効

偶数番地バイトアクセスのイベント設定

STE.B ROL,[A1A0](ROL=E5h,A1=0000h,A0=20E2h)

Cycle	Label	Address	Data	BUS	BHE	BIU	R/W	RWT	CPU
-00022		0020E2	00E5	16b	1	DB	W	0	CB

下位データ有効

奇数番地バイトアクセスのイベント設定

STE.B ROL,[A1A0](ROL=E6h,A1=0000h,A0=20E3h)

Cycle	Label	Address	Data	BUS	BHE	BIU	R/W	RWT	CPU
-00022		0020E3	E600	16b	0	DB	W	0	CB

上位データ有効

ブレイクイベント設定

A1
 Address 1 : 0020E8
 Data 1 : 5423
 MASK : FFFF
 Access : WRITE

ブレイクイベント設定(2イベント使用)

A1 A2
 Address 1 : 0020E5 Address 1 : 0020E6
 Data 1 : 7900 Data 1 : 00AB
 MASK : FF00 MASK : 00FF
 Access : WRITE Access : WRITE

イベント組み合わせを“AND”に設定ください。

ブレイクイベント設定

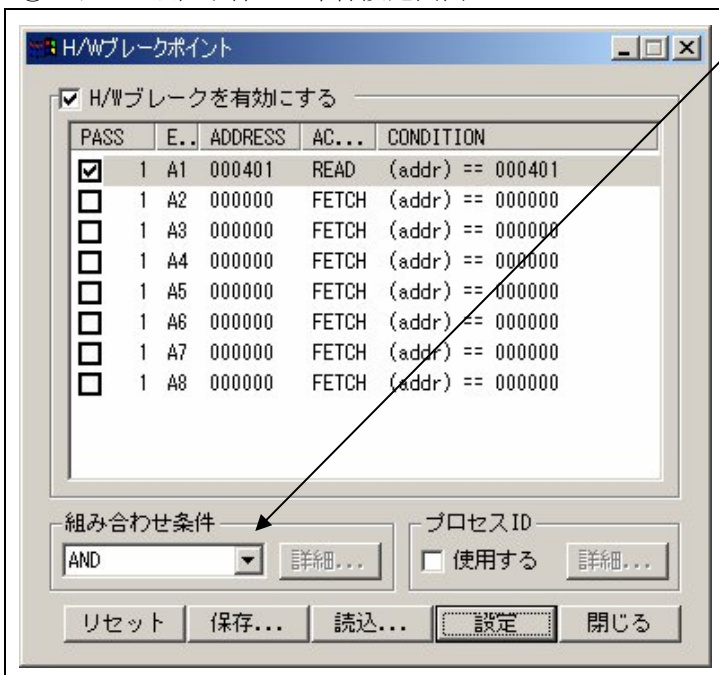
A1
 Address 1 : 0020E2
 Data 1 : 00E5
 MASK : 00FF
 Access : WRITE

ブレイクイベント設定

A1
 Address 1 : 0020E3
 Data 1 : E600
 MASK : FF00
 Access : WRITE

(4) イベント組み合わせ条件設定

① イベント組み合わせ条件設定画面



イベント組み合わせ条件設定

イベント組み合わせ条件には、以下の4種類があります。

- AND
指定イベントがすべて成立
- AND(Same Time)
指定イベントが同時に成立
- OR
指定イベントのいずれかが成立
- STATE TRANSITION
状態遷移図におけるブレイクステート突入で成立

それぞれのイベントには、パスカウント(通過回数)の指定ができます(1~255)。組み合わせ条件にAnd(same time)を指定した場合は、パスカウント(通過回数)は指定できません(1固定です)。

全ての設定が完了したら“設定”をクリックします。

3.5 トレースウィンドウ

トレースウィンドウは、リアルタイムトレース計測結果を表示するウィンドウです。

(1) トレースウィンドウ

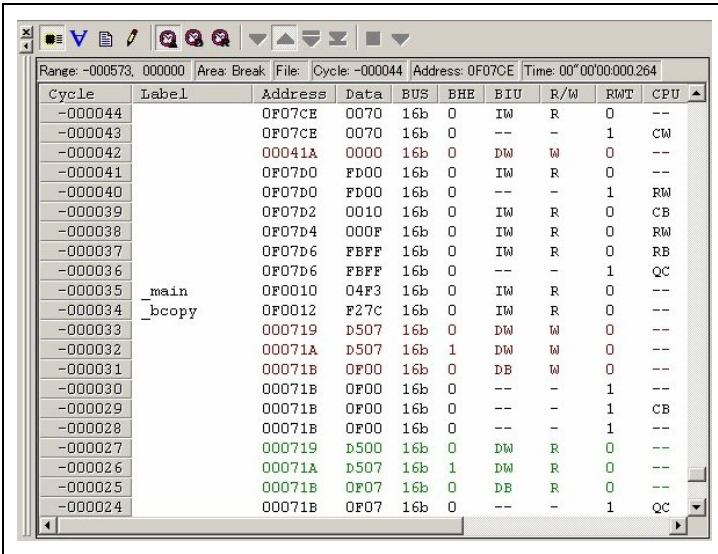
① トレースウィンドウのオープン



トレースウィンドウ

クリックするとトレースウィンドウが開きます。

② トレースウィンドウ表示



トレースウィンドウ

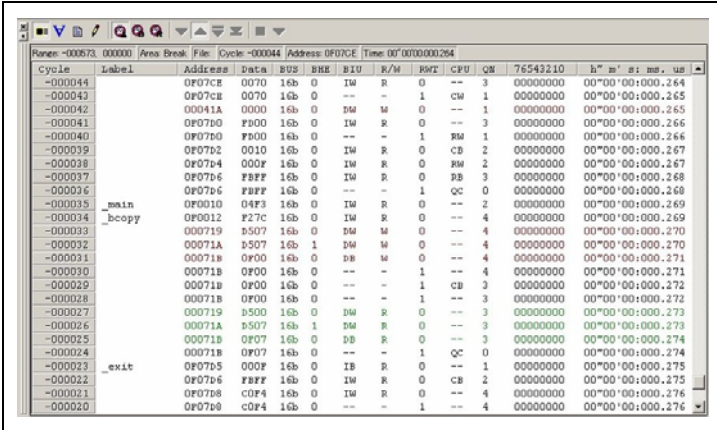
トレースウィンドウは、リアルタイムトレース計測結果を表示するウィンドウです。

トレースウィンドウは、以下の4種類の表示モードがあります。またそれぞれのモードの混合表示も可能です。

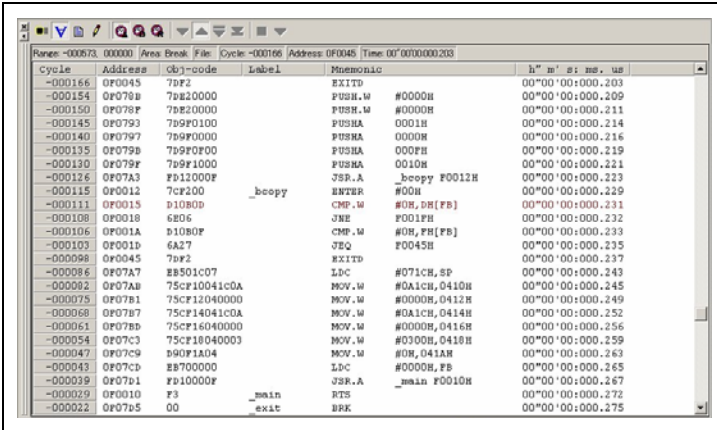
- バスモード
サイクルごとのバス情報が参照できます。実行経路順に内容を表示します。
- 逆アセンブルモード
実行した命令が参照できます。実行経路順に内容を表示します。
- ソースモード
プログラムの実行経路をソースプログラム上で参照できます。
- データアクセスモード
データのR/Wサイクルを参照できます。

トレースウィンドウは、トレース計測が終了した時点で計測結果を表示します。トレース計測が再開されると、ウィンドウはクリアされます。

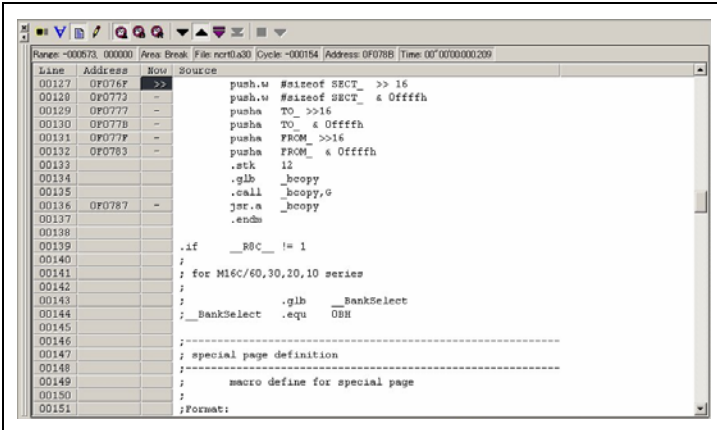
③ トレースウィンドウ表示(バスモード表示)



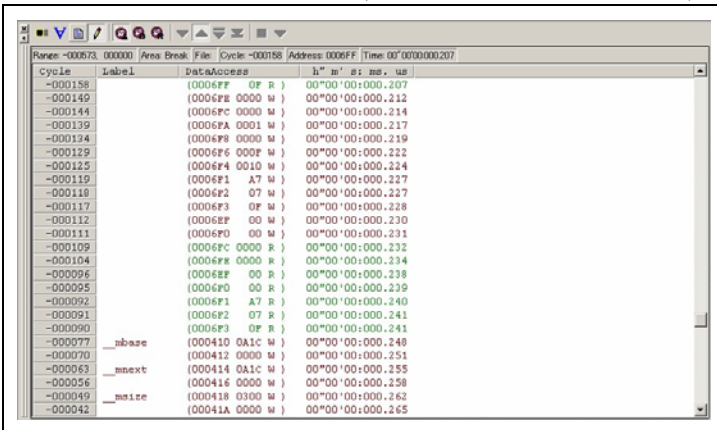
④ トレースウィンドウ表示(逆アセンブルモード表示)



⑤ トレースウィンドウ表示(ソースモード表示)



⑥ トレースウィンドウ表示(データアクセスモード表示)



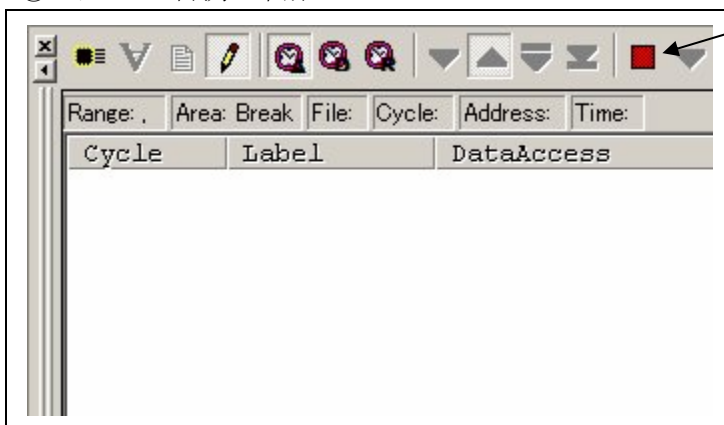
トレースウィンドウ(バス情報表示)

左端より以下の内容を意味します。

- **Address**
アドレスバスの状態を示します。
- **Data**
データバスの状態を示します。
- **BUS**
データバス幅を示します。
16ビット幅でのアクセスは“16b”と表示し、8ビット幅でのアクセスは“8b”と表示します。
- **BHE**
BHE(Byte High Enable)信号の状態(0 or 1)を示します。この信号が‘0’のときは奇数アドレスのデータが有効です。
- **BIU**
BIU(バスインタフェース装置)とメモリ・I/O間の状態を示します。
形式 ステータス
- : 変化なし
DMA : CPU要因以外のデータアクセス
INT : INTACK シーケンス開始
IB : CPU要因の命令コードリード(バイト)
DB : CPU要因のデータアクセス(バイト)
IW : CPU要因の命令コードリード(ワード)
DW : CPU要因のデータアクセス(ワード)
- **R/W**
データバスの状態を示します。
Read状態の場合“R”、Write状態の場合“W”、アクセスなしの場合“-”と表示します。
- **RWT**
バスサイクルの有効位置を示す信号です。有効の場合“0”を示します。
Address,Data,BIU信号は、本情報が“0”の時に有効となります。
- **CPU**
CPUとBIU(バスインタフェース装置)間の状態を示します。
形式 ステータス
CB : オペコード読み出し(バイト)
RB : オペランド読み出し(バイト)
QC : 命令キューバッファクリア
CW : オペコード読み出し(ワード)
RW : オペランド読み出し(ワード)
- **QN**
命令キューバッファに蓄えられているバイト数を示します。表示範囲は0 ~4です。
- **76543210**
外部トレース信号入力ケーブルのEXTIN7~EXTIN0のレベルを示します。
- **h' m' s: ms. us**
ターゲットプログラム開始からの経過時間を示します。

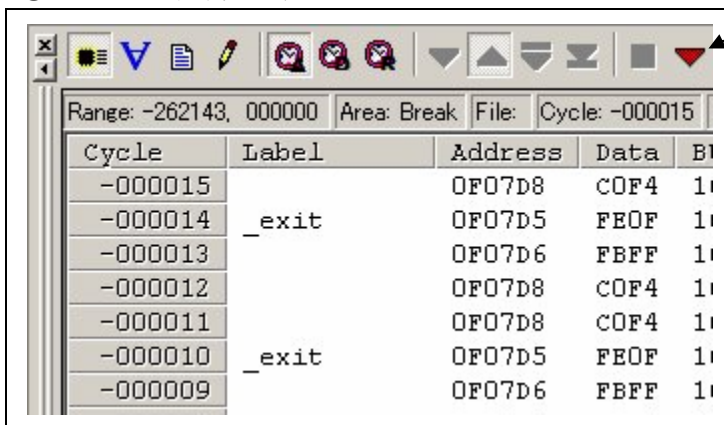
(2) トレース計測の中断/再開

① トレース計測の中断

**計測中断**

クリックするとトレース計測を中断します。

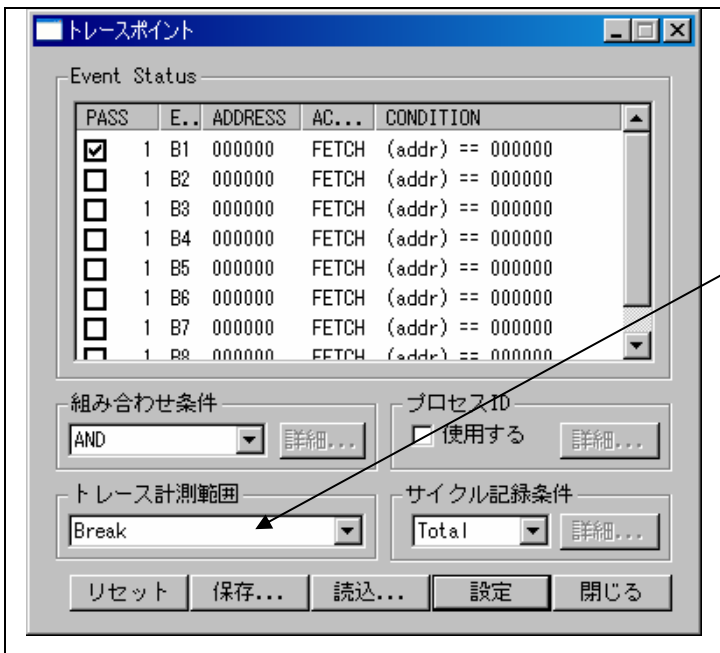
② トレース計測の再開

**計測再開**

クリックするとトレース計測を再開します。

(3) トレースポイント設定ウィンドウ

① トレースポイント設定ウィンドウ



トレースポイント設定ウィンドウ初期画面

ボタンをクリックすることでトレースポイント設定ウィンドウが開きます。

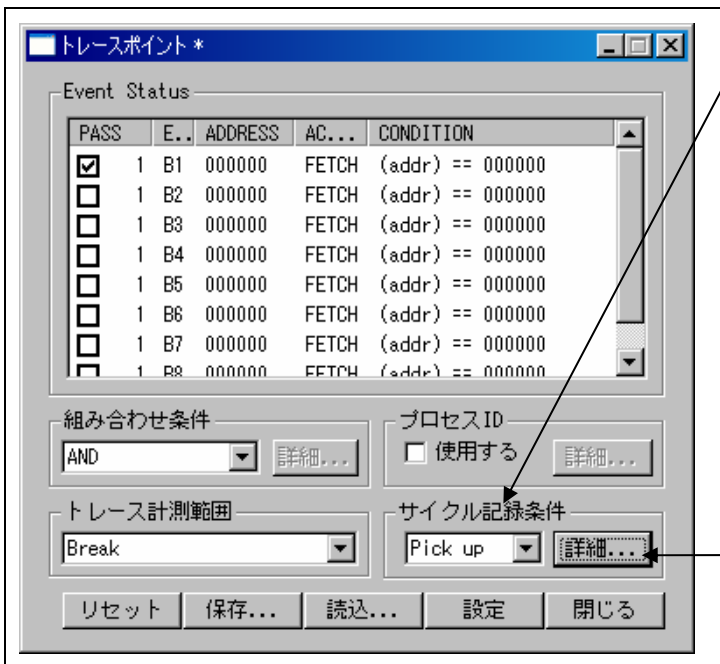
イベントの設定はH/Wブレイクポイント設定と同じです。

トレース範囲指定

トレースイベントに対して、トレース範囲を指定することができます。

- **Break**
ターゲットプログラムが停止するまでの256Kサイクルを記録します。
- **Before**
トレース条件成立までの256Kサイクルを記録します。
- **About**
トレース条件成立の前後128Kサイクルを記録します。
- **After**
トレース条件成立後の256Kサイクルを記録します。
- **Full**
トレース開始からの256Kサイクルを記録します。

② トレース書き込み条件設定



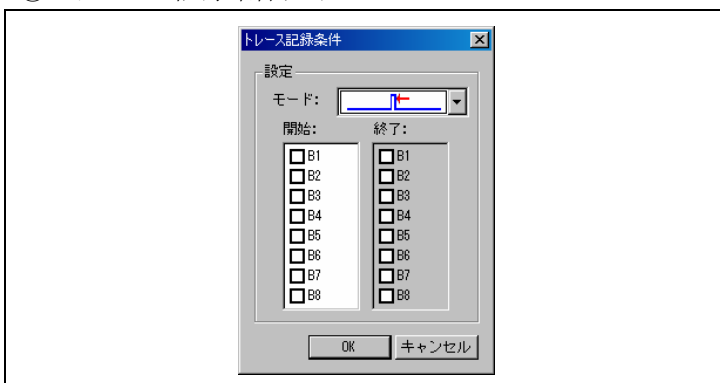
サイクル記録条件設定

トレースメモリに書き込むサイクルの条件を指定することができます。

- **Total**
全てのサイクルを書き込みます。
- **Pick up**
指定した条件が成立したサイクルのみを書き込みます。
- **Exclude**
指定した条件が成立しないサイクルのみを書き込みます。

サイクル記録条件を設定した後、クリックします。トレース記録条件ダイアログがオープンします。

③ トレース記録条件ダイアログ



書き込みモード

指定Startイベント成立サイクルのみ

指定Startイベント成立から指定Startイベント非成立までのサイクル

開始Startイベント成立から終了Endイベント成立までのサイクル

3. 6 RAMモニタウィンドウ

ターゲットプログラム実行のリアルタイム性を損なわずにメモリ内容の変化を参照できる機能です。PC7501システムは、4KバイトのRAMモニタ領域を備えています。このRAMモニタ領域は任意の連続アドレス、または256バイト単位で16ブロックの領域に分割して配置することができます。

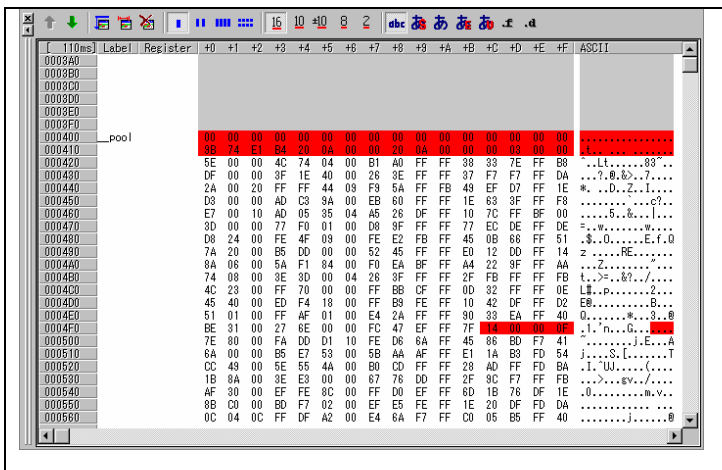
(1) RAMモニタウィンドウ

① RAMモニタウィンドウのオープン



RAMモニタ
クリックするとRAMモニタウィンドウが開きます。

② RAMモニタ表示



RAMモニタ表示領域の変更
RAMモニタ領域設定ウィンドウで設定した領域の表示が切り替えられます。

↑ : 前アドレスのブロックを表示します。
↓ : 後アドレスのブロックを表示します。

データ表示領域およびコード表示領域の背景色は、アクセス属性によって以下のようにになります。

- 緑色 : Readアクセスされたアドレス
- 赤色 : Writeアクセスされたアドレス
- 白色 : アクセスされていないアドレス

背景色は、変更可能です。

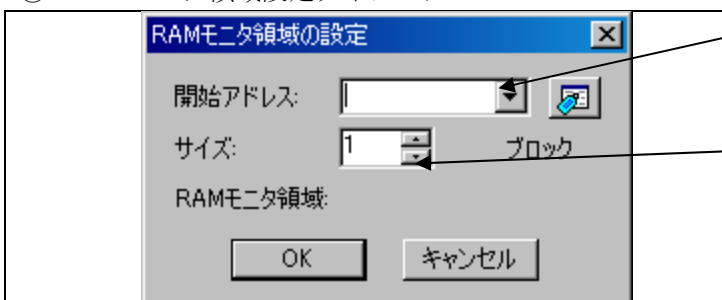
③ RAMモニタ領域設定ウィンドウ初期画面



RAMモニタ領域設定ウィンドウ初期画面
デフォルトは000400h～0007FFhに設定しています。変更する場合は設定したい行をクリックします。

RAMモニタ領域の追加
RAMモニタ領域を追加する場合は“追加”ボタンをクリックするとRAMモニタ領域設定ダイアログが表示されます。

④ RAMモニタ領域設定ダイアログ



開始アドレス
RAMモニタのモニタ開始アドレスの設定が可能です。

サイズ
開始アドレスからの割り当てブロック数を設定します。なお、1ブロックは256バイトです。

4. ハードウェア仕様

この章では、本製品の仕様について説明しています。

4.1 ターゲットMCU仕様

表4.1に、本エミュレータにおいてデバッグ可能なターゲットMCU仕様を示します。

表4.1 M306NKT-EPBのターゲットMCU仕様

項目	内容
エミュレーション可能MCU	M16C/6Nグループ M16C/6N4, M16C/6N5, M16C/6NK, M16C/6NL, M16C/6NM, M16C/6NN
エバリュエーションMCU	M306NMFJGP×2個 ROM容量：512KB+4KB, RAM容量：31KB
動作モード	シングルチップモード メモリ拡張モード マイクロプロセッサモード
対応最大ROM/RAM容量	①MCU内蔵フラッシュROM：512KB + 4KB 0F000h～0FFFFh, 80000h～FFFFFh ②MCU内蔵RAM：31KB 00400h～07FFFh
最大動作周波数	24MHz(PLL使用時)
対応電源電圧	3.0～5.5V

4.2 アクセスタイミング

本製品は一部の端子をエミュレートしているため、実際のMCUとアクセスタイミングが異なります。本製品を用いた場合でのアクセスタイミングを4.2.1項(Vcc=5V時)および4.2.2項(Vcc=3V時)に示します。

4.2.1 メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード動作タイミング(Vcc=5V時)

(1)セパレートバスタイミング

表4.2および図4.1に、メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード(3ウェイト設定、外部領域をアクセスした場合)のバスタイミングを示します。

表4.2 メモリ拡張およびマイクロプロセッサモード(3ウェイト設定、外部領域をアクセスした場合)

記号	項目	実MCU[ns]		本製品[ns]	
		最小	最大	最小	最大
td(BCLK-AD)	アドレス出力遅延時間		25		←同左
th(BCLK-AD)	アドレス出力保持時間(BCLK基準)	4		←同左	
th(RD-AD)	アドレス出力保持時間(RD基準)	0		-2	
th(WR-AD)	アドレス出力保持時間(WR基準)	(注2)		←同左	
td(BCLK-CS)	チップセレクト出力遅延時間		25		←同左
th(BCLK-CS)	チップセレクト出力保持時間(BCLK基準)	4		←同左	
td(BCLK-ALE)	ALE信号出力遅延時間		25		←同左
th(BCLK-ALE)	ALE信号出力保持時間	-4		←同左	
td(BCLK-RD)	RD信号出力遅延時間		25		←同左
th(BCLK-RD)	RD信号出力保持時間	0		←同左	
td(BCLK-WR)	WR信号出力遅延時間		25		27
th(BCLK-WR)	WR信号出力保持時間	0		←同左	
td(BCLK-DB)	データ出力遅延時間(BCLK基準)		40		←同左
th(BCLK-DB)	データ出力保持時間(BCLK基準)	4		←同左	
td(DB-WR)	データ出力遅延時間(WR基準)	(注1)		←同左	
th(WR-DB)	データ出力保持時間(WR基準)	(注2)		←同左	

注1. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$\frac{(n-0.5) \times 10^9}{f(BCLK)} - 40 \quad [\text{ns}] \quad n \text{は3ウェイト設定の場合 "3"}$$

注2. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$\frac{0.5 \times 10^9}{f(BCLK)} - 10 \quad [\text{ns}]$$

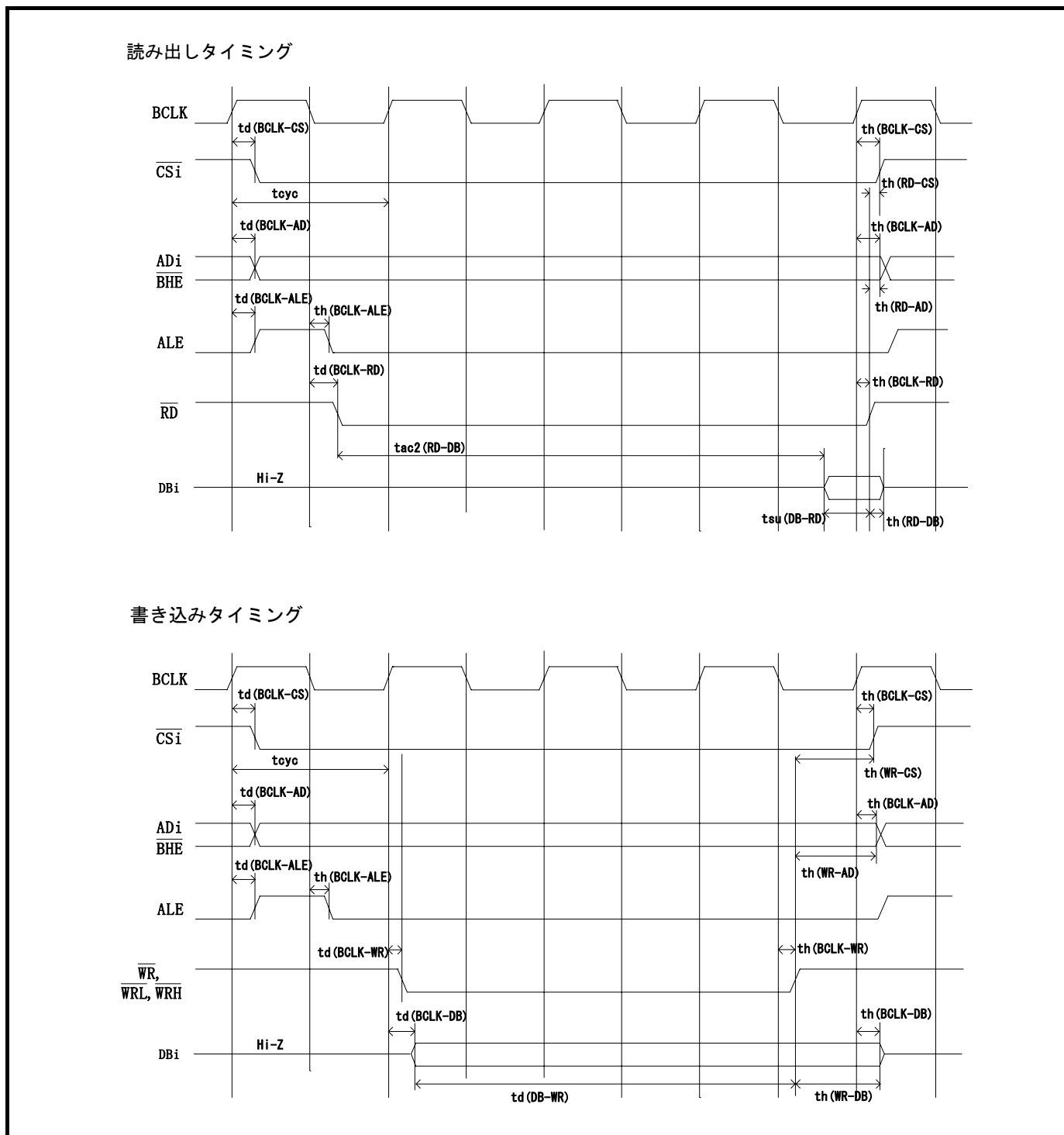


図4.1 メモリ拡張およびマイクロプロセッサモード(3ウェイト設定、外部領域をアクセスした場合)

(2) マルチプレクスバスタイミング

表4.3および図4.2に、メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード(2ウェイト設定、外部領域をアクセスし、かつマルチプレクスバスを使用した場合)のバスタイミングを示します。

表4.3 メモリ拡張およびマイクロプロセッサモード

(2ウェイト設定、外部領域をアクセスし、かつマルチプレクスバスを使用した場合)

記号	項目	実MCU[ns]		本製品[ns]	
		最小	最大	最小	最大
td(BCLK-AD)	アドレス出力遅延時間		25		←同左
th(BCLK-AD)	アドレス出力保持時間(BCLK基準)	4		←同左	
th(RD-AD)	アドレス出力保持時間(RD基準)	(注1)		←同左	
th(WR-AD)	アドレス出力保持時間(WR基準)	(注1)		←同左	
td(BCLK-CS)	チップセレクト出力遅延時間		25		←同左
th(BCLK-CS)	チップセレクト出力保持時間(BCLK基準)	4		←同左	
th(RD-CS)	チップセレクト出力保持時間(RD基準)	(注1)		←同左	
th(WR-CS)	チップセレクト出力保持時間(WR基準)	(注1)		←同左	
td(BCLK-RD)	RD信号出力遅延時間		25		←同左
th(BCLK-RD)	RD信号出力保持時間	0		←同左	
td(BCLK-WR)	WR信号出力遅延時間		25		←同左
th(BCLK-WR)	WR信号出力保持時間	0		←同左	
td(BCLK-DB)	データ出力遅延時間(BCLK基準)		40		←同左
th(BCLK-DB)	データ出力保持時間(BCLK基準)	4		←同左	
td(DB-WR)	データ出力遅延時間(WR基準)	(注2)		←同左	
th(WR-DB)	データ出力保持時間(WR基準)	(注1)		←同左	
td(BCLK-ALE)	ALE出力遅延時間(BCLK基準)		25		←同左
th(BCLK-ALE)	ALE出力保持時間(BCLK基準)	-4		←同左	
td(AD-ALE)	ALE出力遅延時間(アドレス基準)	(注3)		←同左	
th(ALE-AD)	ALE出力保持時間(アドレス基準)	(注4)		←同左	
td(AD-RD)	アドレス後RD信号出力遅延時間	0		←同左	
td(AD-WR)	アドレス後WR信号出力遅延時間	0		←同左	
tdz(RD-AD)	アドレス出力フローティング開始時間		8		15

注1. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$\frac{0.5 \times 10^9}{f(BCLK)} - 10 \quad [\text{ns}]$$

注2. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$\frac{(n - 0.5) \times 10^9}{f(BCLK)} - 40 \quad [\text{ns}] \quad n \text{は2ウェイト設定の場合 "2"}$$

注3. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$\frac{0.5 \times 10^9}{f(BCLK)} - 25 \quad [\text{ns}]$$

注4. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$\frac{0.5 \times 10^9}{f(BCLK)} - 15 \quad [\text{ns}]$$

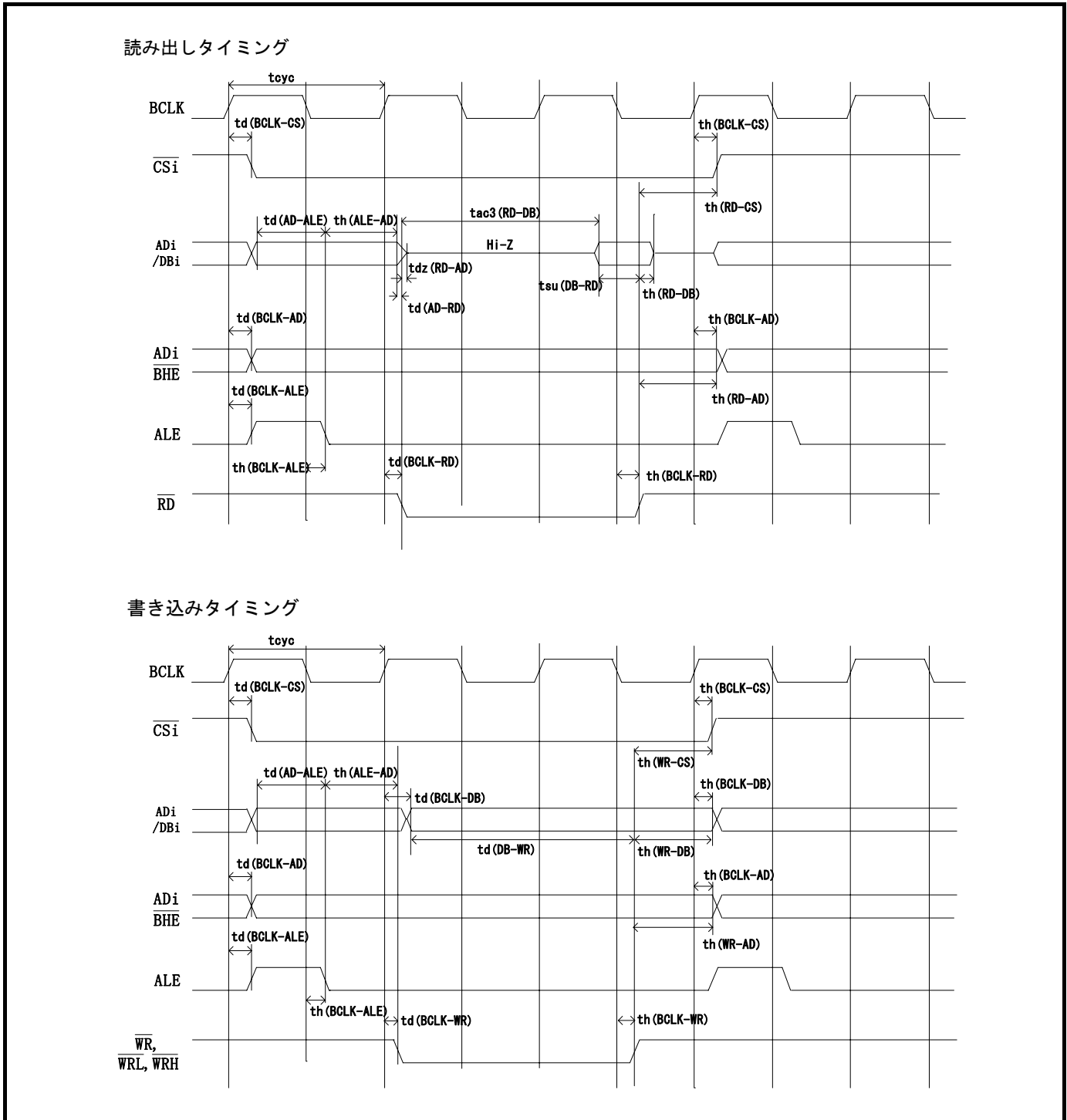


図4.2 メモリ拡張およびマイクロプロセッサモード

(2ウェイト設定、外部領域をアクセスし、かつマルチプレクスバスを使用した場合)

(3) タイミング必要条件

表4.4および図4.3に、メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード時のタイミング必要条件を示します。

表4.4 タイミング必要条件

記号	項目	実MCU[ns]		本製品[ns]	
		最小	最大	最小	最大
tsu(DB-RD)	データ入力セットアップ時間	40		55	
tsu(RDY-BCLK)	RDY#入力セットアップ時間	30		45	
tsu(HOLD-BCLK)	HOLD#入力セットアップ時間	40		55	
th(RD-DB)	データ入力ホールド時間	0		←同左	
th(BCLK-RDY)	RDY#入力ホールド時間	0		←同左	
th(BCLK-HOLD)	HOLD#入力ホールド時間	0		←同左	
td(BCLK-HLDA)	HLDA#出力遅延時間		40		←同左

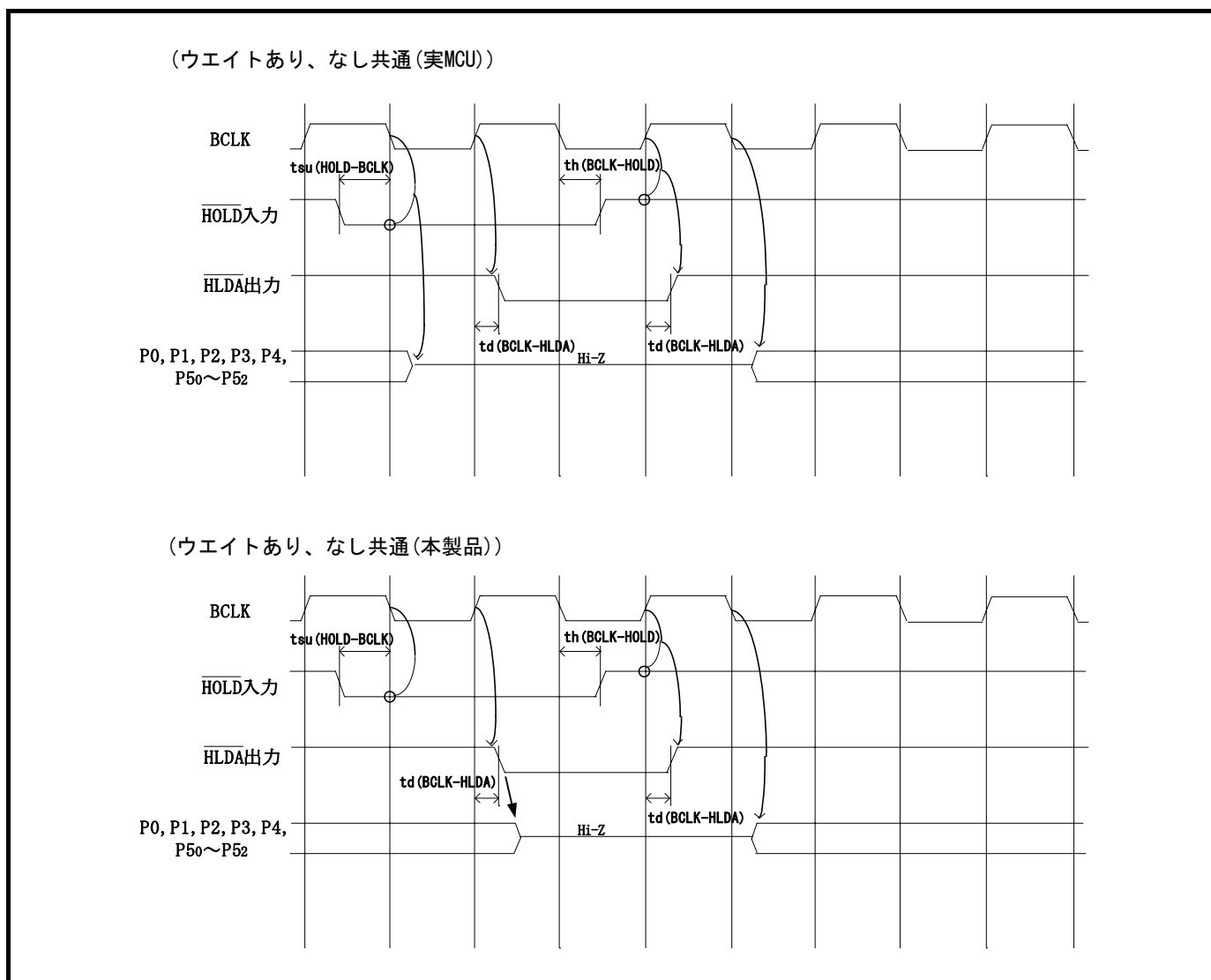


図4.3 タイミング必要条件

※本製品は、実際のMCUより0.5サイクル遅れてハイインピーダンスとなります。

4.2.2 メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード動作タイミング(V_{CC}=3V時)

(1)セパレートバスタイミング

表4.5および図4.4に、メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード(3ウェイト設定、外部領域をアクセスした場合)のバスタイミングを示します。

表4.5 メモリ拡張およびマイクロプロセッサモード(3ウェイト設定、外部領域をアクセスした場合)

記号	項目	実MCU[ns]		本製品[ns]	
		最小	最大	最小	最大
td(BCLK-AD)	アドレス出力遅延時間		30		←同左
th(BCLK-AD)	アドレス出力保持時間(BCLK基準)	4		←同左	
th(RD-AD)	アドレス出力保持時間(RD基準)	0		-3	
th(WR-AD)	アドレス出力保持時間(WR基準)	(注2)		←同左	
td(BCLK-CS)	チップセレクト出力遅延時間		30		←同左
th(BCLK-CS)	チップセレクト出力保持時間(BCLK基準)	4		←同左	
td(BCLK-ALE)	ALE信号出力遅延時間		30		←同左
th(BCLK-ALE)	ALE信号出力保持時間	-4		←同左	
td(BCLK-RD)	RD信号出力遅延時間		30		←同左
th(BCLK-RD)	RD信号出力保持時間	0		←同左	
td(BCLK-WR)	WR信号出力遅延時間		30		←同左
th(BCLK-WR)	WR信号出力保持時間	0		←同左	
td(BCLK-DB)	データ出力遅延時間(BCLK基準)		40		←同左
th(BCLK-DB)	データ出力保持時間(BCLK基準)	4		←同左	
td(DB-WR)	データ出力遅延時間(WR基準)	(注1)		←同左	
th(WR-DB)	データ出力保持時間(WR基準)	(注2)		←同左	

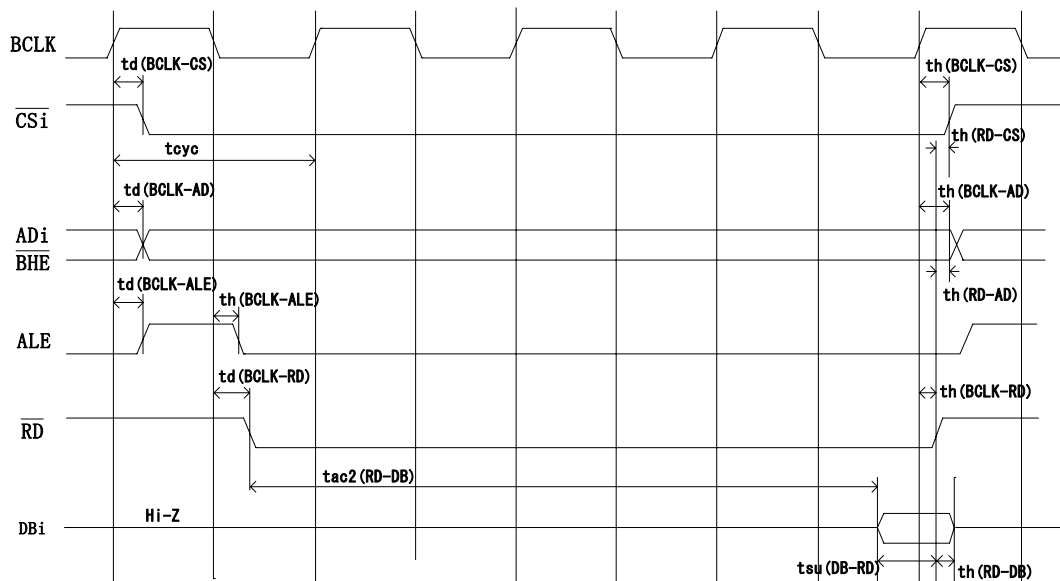
注1. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$\frac{(n-0.5) \times 10^9}{f(BCLK)} - 40 \quad [\text{ns}] \quad n \text{は3ウェイト設定の場合 "3"}$$

注2. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$\frac{0.5 \times 10^9}{f(BCLK)} - 10 \quad [\text{ns}]$$

読み出しタイミング



書き込みタイミング

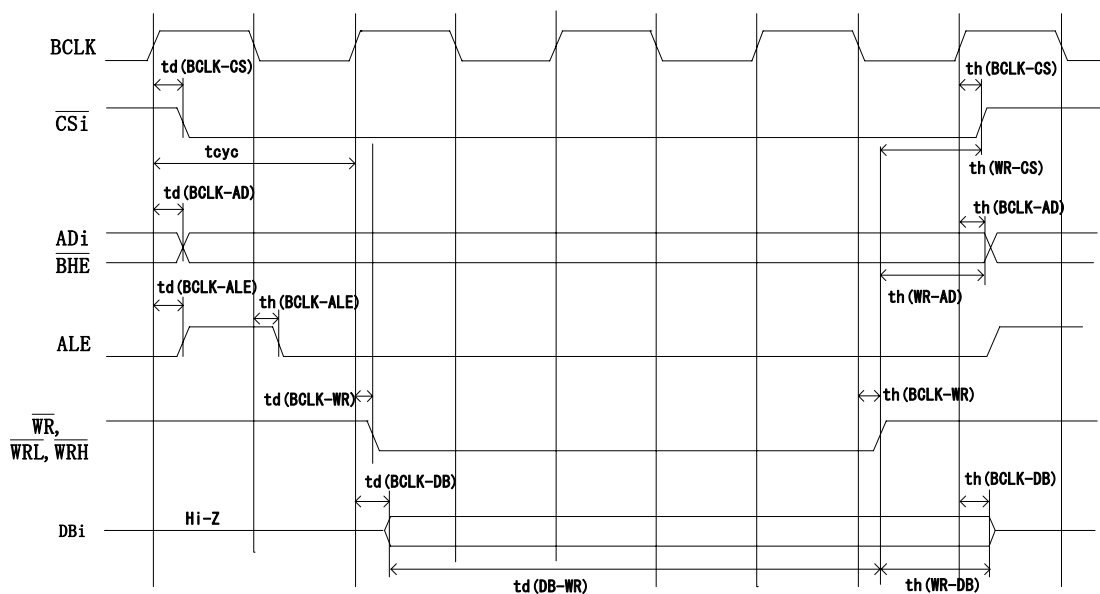


図4.4 メモリ拡張およびマイクロプロセッサモード(3ウェイト設定、外部領域をアクセスした場合)

(2) マルチプレクスバスタイミング

表4.6および図4.5に、メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード(2ウェイト設定、外部領域をアクセスし、かつマルチプレクスバスを使用した場合)のバスタイミングを示します。

表4.6 メモリ拡張およびマイクロプロセッサモード

(2ウェイト設定、外部領域をアクセスし、かつマルチプレクスバスを使用した場合)

記号	項目	実MCU[ns]		本製品[ns]	
		最小	最大	最小	最大
td(BCLK-AD)	アドレス出力遅延時間		50		←同左
th(BCLK-AD)	アドレス出力保持時間(BCLK基準)	4		←同左	
th(RD-AD)	アドレス出力保持時間(RD基準)	(注1)		←同左	
th(WR-AD)	アドレス出力保持時間(WR基準)	(注1)		←同左	
td(BCLK-CS)	チップセレクト出力遅延時間		50		←同左
th(BCLK-CS)	チップセレクト出力保持時間(BCLK基準)	4		←同左	
th(RD-CS)	チップセレクト出力保持時間(RD基準)	(注1)		←同左	
th(WR-CS)	チップセレクト出力保持時間(WR基準)	(注1)		←同左	
td(BCLK-RD)	RD信号出力遅延時間		40		←同左
th(BCLK-RD)	RD信号出力保持時間	0		←同左	
td(BCLK-WR)	WR信号出力遅延時間		40		←同左
th(BCLK-WR)	WR信号出力保持時間	0		←同左	
td(BCLK-DB)	データ出力遅延時間(BCLK基準)		50		←同左
th(BCLK-DB)	データ出力保持時間(BCLK基準)	4		←同左	
td(DB-WR)	データ出力遅延時間(WR基準)	(注2)		←同左	
th(WR-DB)	データ出力保持時間(WR基準)	(注1)		←同左	
td(BCLK-ALE)	ALE出力遅延時間(BCLK基準)		40		←同左
th(BCLK-ALE)	ALE出力保持時間(BCLK基準)	-4		←同左	
td(AD-ALE)	ALE出力遅延時間(アドレス基準)	(注3)		←同左	
th(ALE-AD)	ALE出力保持時間(アドレス基準)	(注4)		←同左	
td(AD-RD)	アドレス後RD信号出力遅延時間	0		←同左	
td(AD-WR)	アドレス後WR信号出力遅延時間	0		←同左	
tdz(RD-AD)	アドレス出力フローティング開始時間		8		15

注1. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$\frac{0.5 \times 10^9}{f(BCLK)} - 10 \quad [\text{ns}]$$

注2. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$\frac{(n - 0.5) \times 10^9}{f(BCLK)} - 50 \quad [\text{ns}] \quad n \text{は2ウェイト設定の場合 "2"}$$

注3. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$\frac{0.5 \times 10^9}{f(BCLK)} - 40 \quad [\text{ns}]$$

注4. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$\frac{0.5 \times 10^9}{f(BCLK)} - 15 \quad [\text{ns}]$$

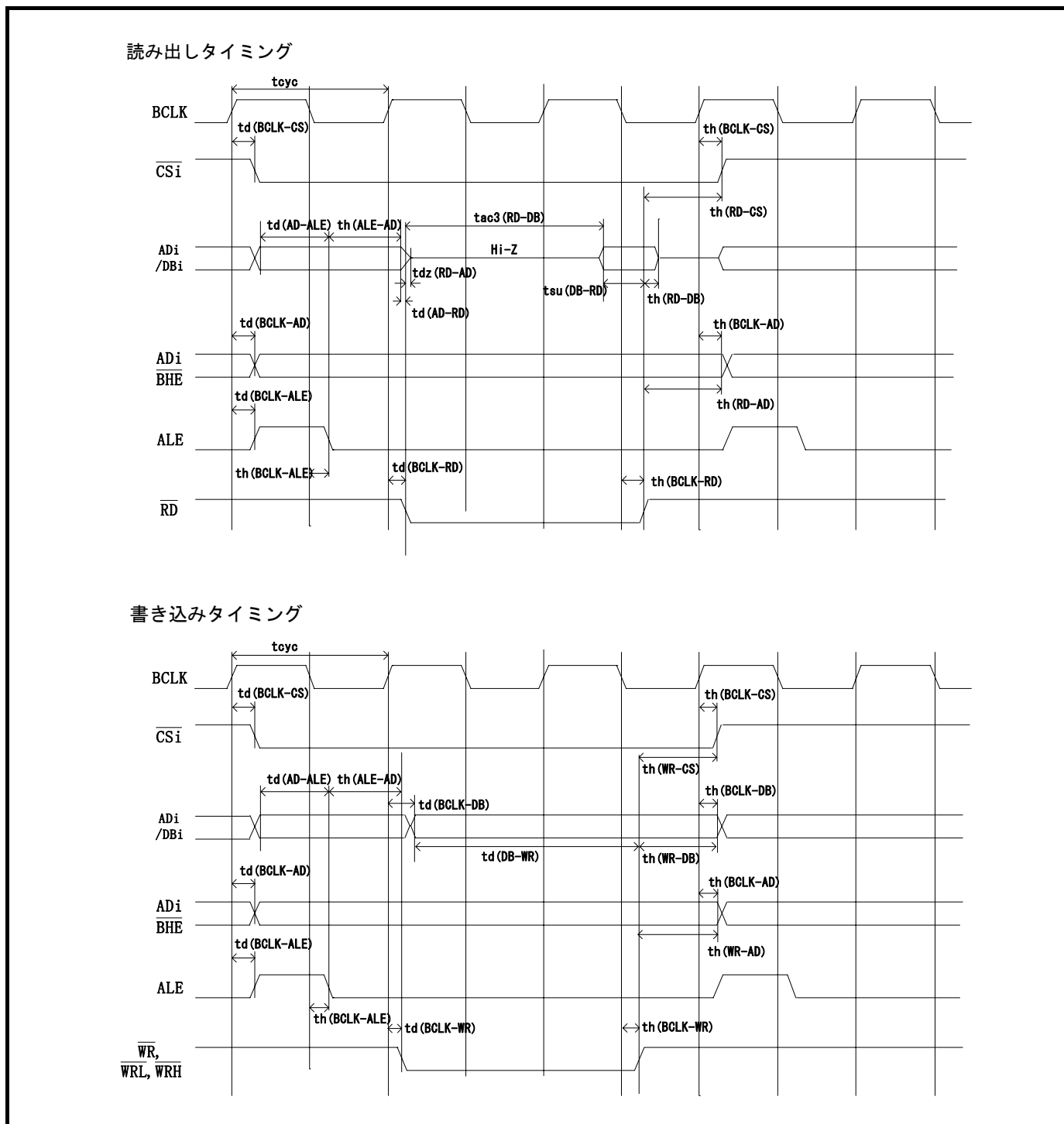


図4.5 メモリ拡張およびマイクロプロセッサモード

(2ウェイト設定、外部領域をアクセスし、かつマルチプレクスバスを使用した場合)

(3) タイミング必要条件

表4.7および図4.6に、メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモード時のタイミング必要条件を示します。

表4.7 タイミング必要条件

記号	項目	実MCU[ns]		本製品[ns]	
		最小	最大	最小	最大
tsu(DB-RD)	データ入力セットアップ時間	50		65	
tsu(RDY-BCLK)	RDY#入力セットアップ時間	40		55	
tsu(HOLD-BCLK)	HOLD#入力セットアップ時間	50		65	
th(RD-DB)	データ入力ホールド時間	0		←同左	
th(BCLK-RDY)	RDY#入力ホールド時間	0		←同左	
th(BCLK-HOLD)	HOLD#入力ホールド時間	0		←同左	
td(BCLK-HLDA)	HLDA#出力遅延時間		40		←同左

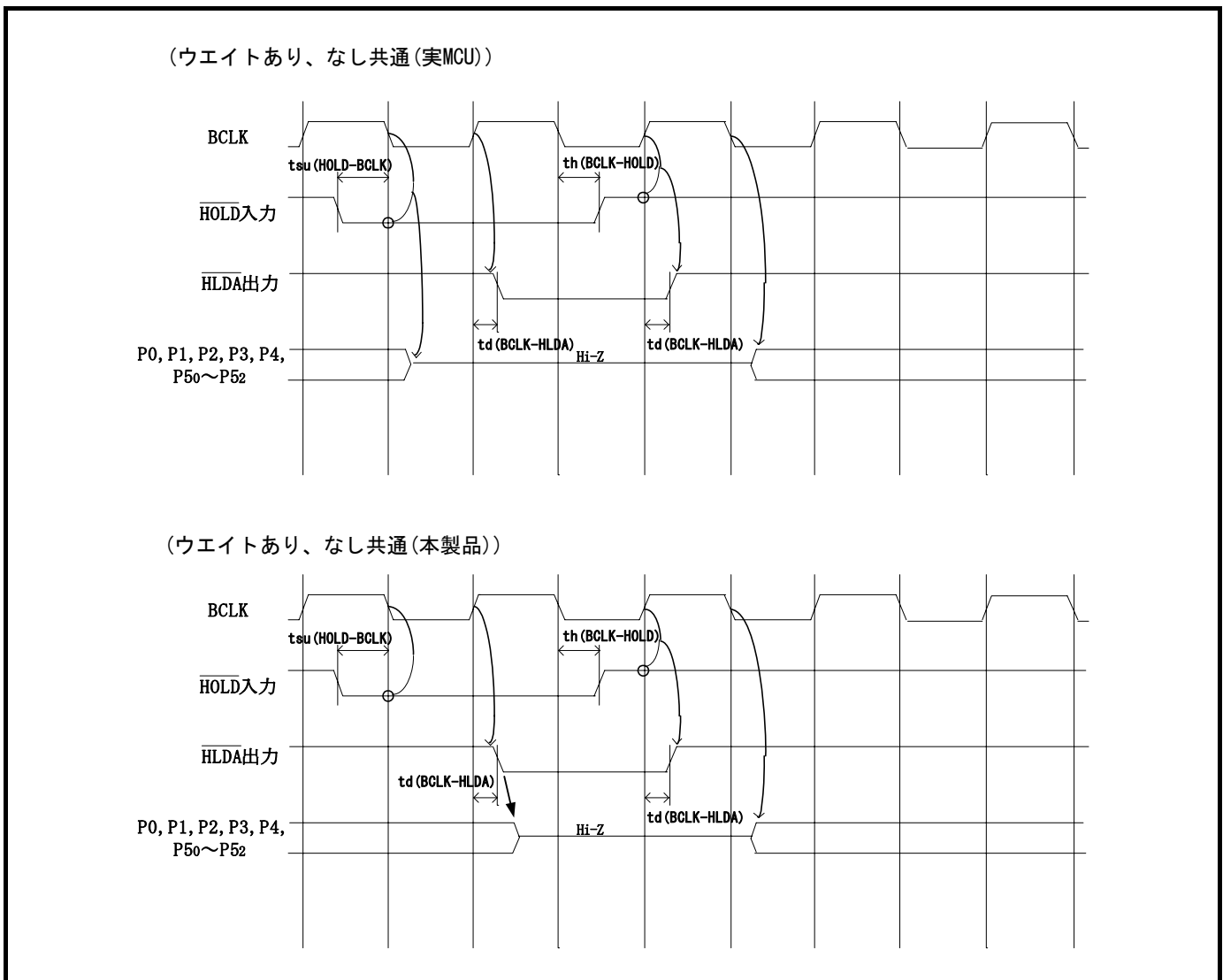


図4.6 タイミング必要条件

※本製品は、実際のMCUより0.5サイクル遅れてハイインピーダンスとなります。

4.3 ターゲットMCUとの相違点

ターゲットMCUとの相違点を以下に示します。本エミュレータを使用し、デバッグするにはご注意願います。

重要

MCUとの違いに関して：

- エミュレータシステムの動作は、実際のMCUと比較して以下の違いがあります。
 - ①リセット条件
立ち上がり時間(0.2Vcc → 0.8Vcc)を1[μ s]以下にしてください。
 - ②電源投入時のMCU内部資源データ初期値
 - ③リセット解除後の割り込みスタックポインタ(ISP)
 - ④内部メモリ(ROM、RAM)の容量
本製品に実装しているエバリュエーションMCUは、RAM 31KB (00400h~07FFFh)、MCU内蔵フラッシュROM 4KB (0F000h~0FFFFh)+512KB (80000h~FFFFFFh)を内蔵しています。
 - ⑤発振回路
XIN-XOUT間に発振子を接続した回路では、エバリュエーションMCUとユーザシステムの間パッケージ変換基板が存在するため発振できません。XCIN-XCOUT間についても同様です。ユーザシステム上の発振回路については、2.11.3「ユーザシステム上発振回路の使用」(46ページ)を参照してください。
 - ⑥A/Dコンバータ
A/Dコンバータは、エバリュエーションMCUとユーザシステムの間パッケージ変換基板などが存在するため、実際のMCUとは結果が異なります。
 - ⑦ポートP0~P5、P10
本製品は、入出力ポートの一部(ポートP0~P5、P10)をエミュレーションしているため、電気的特性が実際のMCUとは異なります。
 - ⑧アドレス、BHE#の状態
ユーザプログラム実行中にMCU内部RAM領域またはMCU内部ROM領域をアクセスする場合、実際のMCUではアドレス、BHE#は直前の状態を保持しますが、本製品は保持しません。
 - ⑨データバスの状態
ストップモードまたはウェイトモード中、実際のMCUではデータバスは直前の状態を保持しますが、本製品はフローティングとなります。
 - ⑩リセット解除後の動作
リセット解除後、最大380サイクル程度、エミュレータ制御用プログラムが実行されます。ユーザプログラム実行時間、トレース結果に反映されますのでご了承ください。

RESET#入力に関して：

- ユーザシステムからRESET#端子への“L”入力は、ユーザプログラム実行中(PC7501上面パネルのRUNステータスLED点灯中)のみ受け付けられます。

RDY#入力に関して：

- ユーザシステムのRDY#端子への“L”入力は、必ずユーザプログラム実行中(PC7501上面パネルのRUNステータスLED点灯中)に行ってください。ユーザプログラム停止中のRDY#端子への“L”入力はエミュレータが正常に動作しない場合があります。

HOLD#入力に関して：

- ユーザシステムのHOLD#端子への“L”入力は、必ずユーザプログラム実行中(PC7501上面パネルのRUNステータスLED点灯中)に行ってください。ユーザプログラム停止中のHOLD#端子への“L”入力はエミュレータが正常に動作しない場合があります。

NMI#入力に関して：

- ユーザシステムからNMI#端子への“L”入力は、ユーザプログラム実行中(PC7501上面パネルのRUNステータスLED点灯中)のみ受け付けられます。

重要

電圧検出回路に関して：

- 本製品は、電源投入後電圧を変化させることができないため、電圧検出回路機能(電圧低下検出割り込み、電圧低下検出リセット等)は使用できません。

リセットベクタ領域に関して：

- エバリュエーションMCUをエミュレータ専用のモードで動作させるため、リセットベクタ領域(FFFFCh~FFFFFh番地)は常にPC7501内のメモリが選択されます。以下に示すいずれかの方法でリセットベクタの内容を設定してください。
 - ①リセットベクタを含む領域へユーザプログラムをダウンロードする。
 - ②エミュレータデバッガのメモリウィンドウなどを操作し、リセットベクタを直接設定する。
- リセットベクタ領域の変更は、ユーザプログラム停止中のみ可能です。
- リセットベクタ領域をデータとしてアクセスしないでください。正常にアクセスできない可能性があります。また、次のバスサイクルで正常に動作しない場合があります。

スタック領域に関して：

- 本製品は、ワークエリアとして割り込みスタックを最大8バイト消費します。割り込みスタック領域として、ユーザプログラムで使用する最大容量+8バイトを確保してください。割り込みスタック領域に余裕がない場合、スタックとして使用できない領域(SFR領域、データを格納しているRAM領域、ROM領域)をワークエリアとして使用し、ユーザプログラムの破壊やエミュレータ制御不能の原因となります。
- 本製品は、リセット解除後に割り込みスタックポインタ(ISP)を00500hに設定し、リセット解除時のスタック領域として使用します。

マスクブル割り込みに関して：

- ユーザプログラム停止中(ランタイムデバッグ中を含む)であっても、エバリュエーションMCUはデバッグ制御用プログラムを実行しているため、タイマなどの機能も動作しています。ユーザプログラム停止中(ランタイムデバッグ中を含む)は、エミュレータで割り込みを禁止しているため、マスクブル割り込みの要求が発生しても受け付けられません。この割り込み要求は、ユーザプログラムの実行を開始した直後に受け付けられます。
- ユーザプログラム停止中(ランタイムデバッグ中を含む)は、周辺I/Oの割り込み要求が受け付けられませんのでご注意ください。

DMA転送に関して：

- 本製品は、ユーザプログラムの停止状態を特定アドレスのループプログラムにて実現しています。ユーザプログラム停止の状態DMA要求が発生した場合、DMA転送処理は実行されますが正常なデータを転送出来ません。また、これによりユーザプログラムの停止状態でも以下のレジスタ値が変化します。
 - ①DMA0転送カウンタ：TCR0
 - ②DMA1転送カウンタ：TCR1

重要

プルアップ制御に関して：

- 製品は、入出力ポートの一部(ポートP0～P5、P10)をエミュレーションしています。このうち、ポートP0～P5については、プルアップ制御レジスタの設定が反映されません。必要に応じて添付の抵抗アレイ(51kΩ)を装着してご使用ください。
- プルアップ制御レジスタ1 PUR1の初期値が異なります。CNVss端子へVccレベルを印可している場合、実際のMCUではリセット時“02h”(ビット1 PU11が“1”)となりますが、本製品では“00h”となります。

サブクロックでのプロテクトビット2(PRC2)への“1”設定に関して：

- CPUクロックがサブクロック(低速モードまたは低消費電力モード)のとき、PRC2ビットを“1”(書き込み許可)にしても、PRC2ビットで保護されるレジスタ(PD7, PD9, S3C, S4C, S5C, S6Cレジスタ)へ書き込みができない場合があります。PRC2ビットを“1”(書き込み許可)にするときおよびPRC2で保護されるレジスタへ書き込むとき、CPUクロックをサブクロックにしないでください。

2分周モード時のプロテクトビット2(PRC2)への“1”設定に関して：

- 2分周モード時に以下の条件で、PRC2ビットを“1”(書き込み許可)にしても、PRC2ビットで保護されるレジスタ(PD7, PD9, S3C, S4C, S5C, S6Cレジスタ)へ書き込みができない場合があります。

- ①ストップモード解除後から、ハードウェアリセットまでの間
- ②低消費電力モードにしてから、ハードウェアリセットまでの間

上記条件①または②で、PRC2ビットを“1”(書き込み許可)にするときおよびPRC2で保護されるレジスタへ書き込むとき、CPUクロックをメインクロックの2分周にしないでください。

P1_5/D13/INT3, P1_6/D14/INT4, P1_7/D15/INT5端子入力しきい値に関して：

- 本製品ではP1_5/D13/INT3, P1_6/D14/INT4, P1_7/D15/INT5端子に関して、ポートおよびデータバス入力はポートエミュレーション用FPGA(入力レベル：TTL)、INT割り込み入力は周辺機能エミュレート用のエバリュエーションMCU(入力レベル：CMOSシュミット)と、入力されるデバイスと入力レベルが異なります。そのため、INT割り込み(立ち下がり)発生直後にポート入力レベルを読んだ場合“H”に、INT割り込み(立ち上がり)発生前にポート入力レベルが“H”に読めることがあります。

KI0#～KI3#入力に関して：

- 実MCUではKI0#～KI3#はCMOSシュミット入力ですが、本製品はポートエミュレーション用FPGAを使用したTTL入力です。そのため入力信号の変化が遅い場合、TTLレベルのスレッショルド付近(2.0V～0.8V間)で不正な割り込みが発生する場合があります。

最終評価に関して：

- 最終評価は、評価用MCUでの実装評価を必ず実施してください。また、量産マスク投入前にはCS(Commercial Sample)MCUでの実装評価を必ず実施してください。

4.4 接続図

図4.7に、M306NKT-EPBの接続図(一部)を示します。本接続図は、ユーザシステムに接続する回路を中心に記載しています。エミュレータ制御系など、直接ユーザシステムに接続されない回路は省略しています。また表4.8、表4.9に、本製品で使用しているICの電気的特性を示します。本製品使用時の参考にしてください。

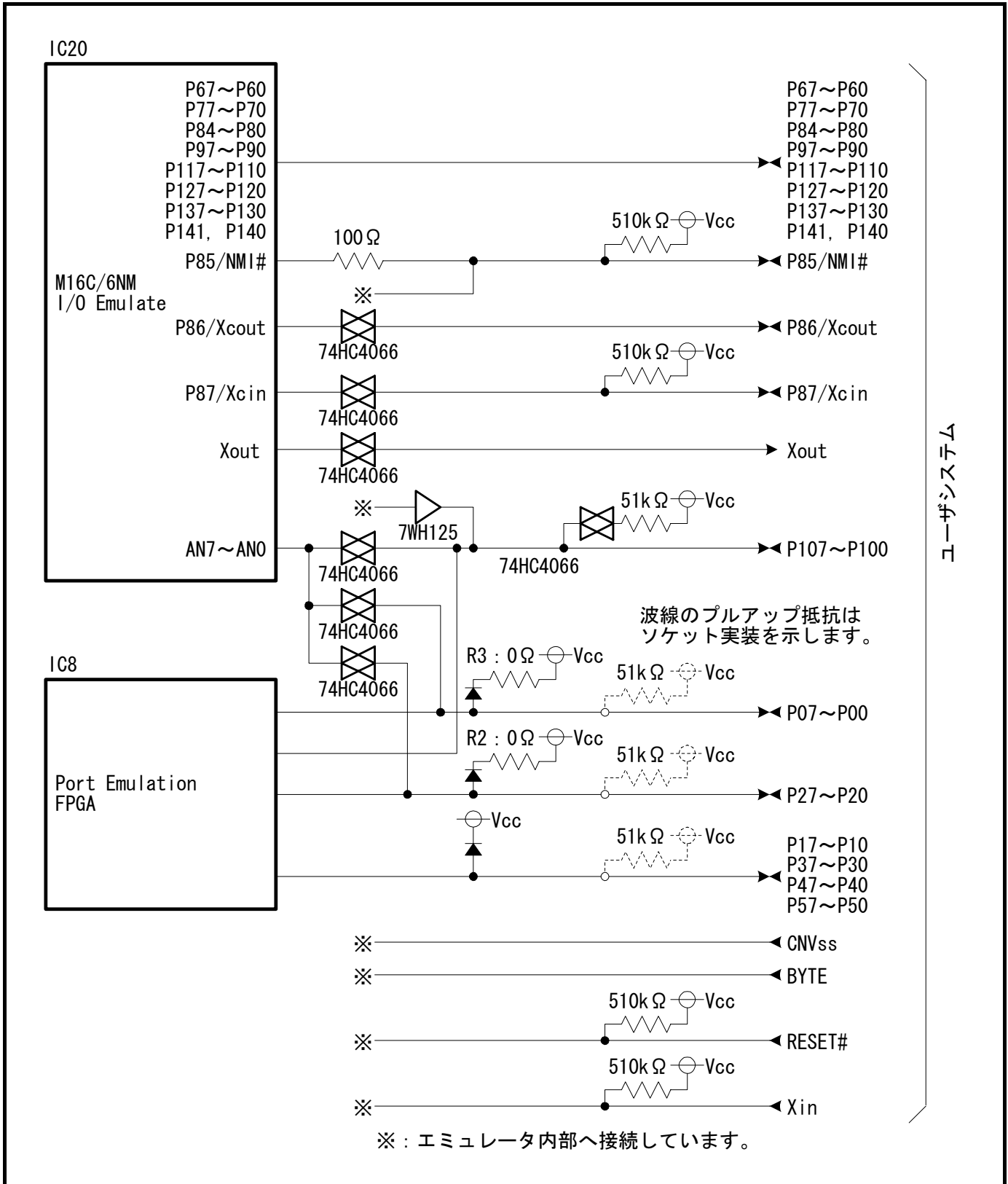


図4.7 M306NKT-EPBの接続図(一部)

表4.8 74HC4066の電気的特性

記号	項目	条件	規格値			単位
			最小	標準	最大	
RON	オン抵抗	Vcc=4.5V	—	96	170	Ω
ΔRON	オン抵抗差	Vcc=4.5V	—	10	—	
IOFF	リーク電流(OFF時)	Vcc=12.0V	—	—	±100	nA
IIZ	リーク電流(ON, 出力OPEN時)	Vcc=12.0V	—	—	±100	

表4.9 Port Emulation FPGAの電気的特性

記号	項目	条件	規格値			単位	
			最小	標準	最大		
VIH	Highレベル入力電圧		2.0	—	5.5	V	
VIL	Lowレベル入力電圧		-0.5	—	0.8		
VOH	Highレベル出力電圧	IOH=-8mA DC, Vcc=4.75V	2.4	—	—		
		IOH=-8mA DC, Vcc=3.00V	2.4	—	—		
VOL	Lowレベル出力電圧	IOL=8mA DC, Vcc=4.75V	—	—	0.45		
		IOL=8mA DC, Vcc=3.00V	—	—	0.45		
Ii	入力リーク電流	VI=Vcc or GND	-10	—	10		μA
IOZ	リーク電流(トライステート時)	Vo=Vcc or GND	-40	—	40		μA
CIN	I/Oピンの入力キャパシタンス	VIN=0V, f=1.0MHz	—	—	8	pF	

4.5 寸法図

4.5.1 エミュレーションプローブ全体寸法図

図4.8に、M306NKT-EPBの寸法図(全体寸法図)を示します。

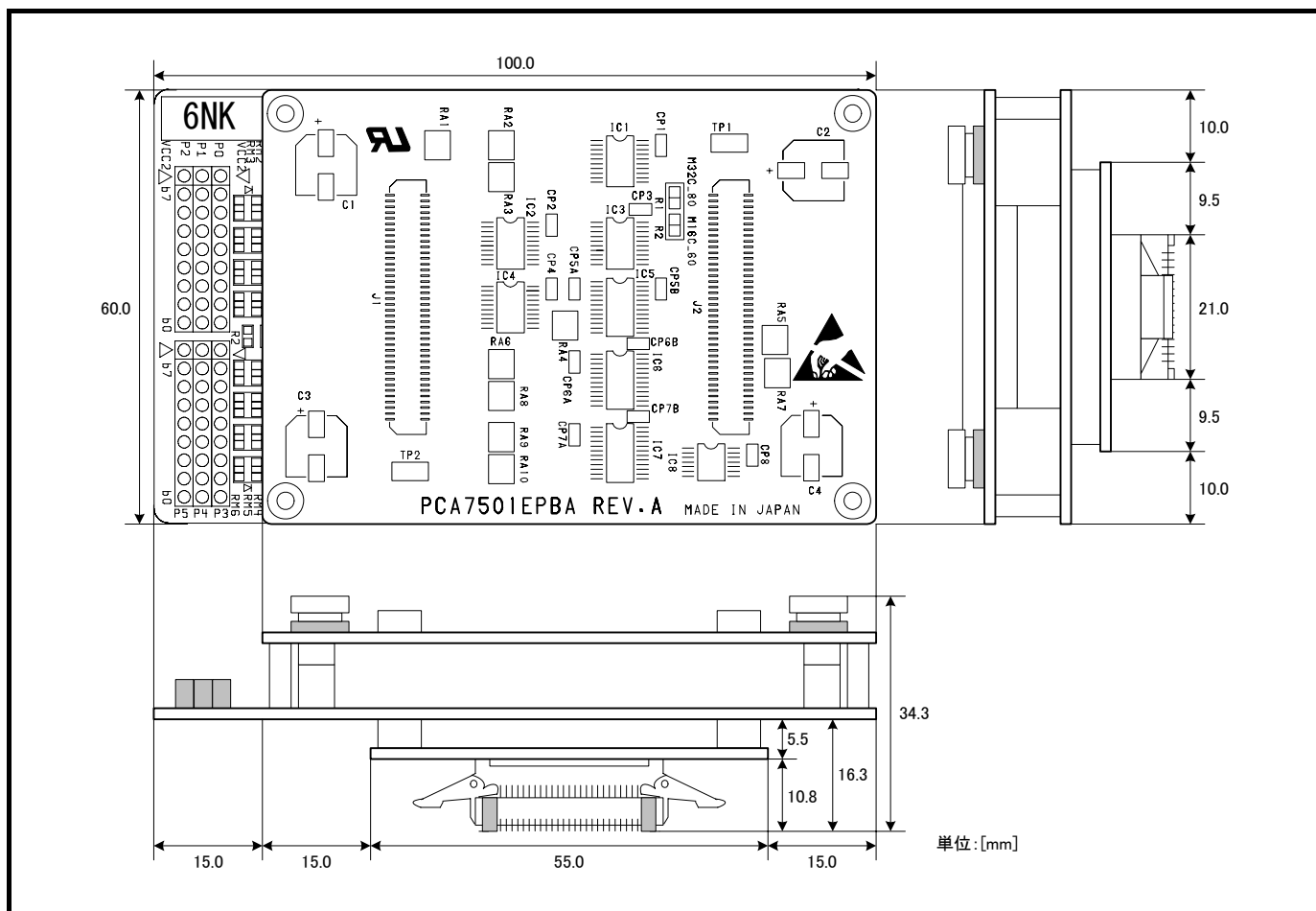


図4.8 エミュレーションプローブ全体寸法図

4.5.2 M30800T-PTCユーザーシステム接続部の寸法図

図4.9に、100ピンLCC用変換基板M30800T-PTC(M306NKT-EPB同梱)ユーザーシステム接続部の寸法図を示します。

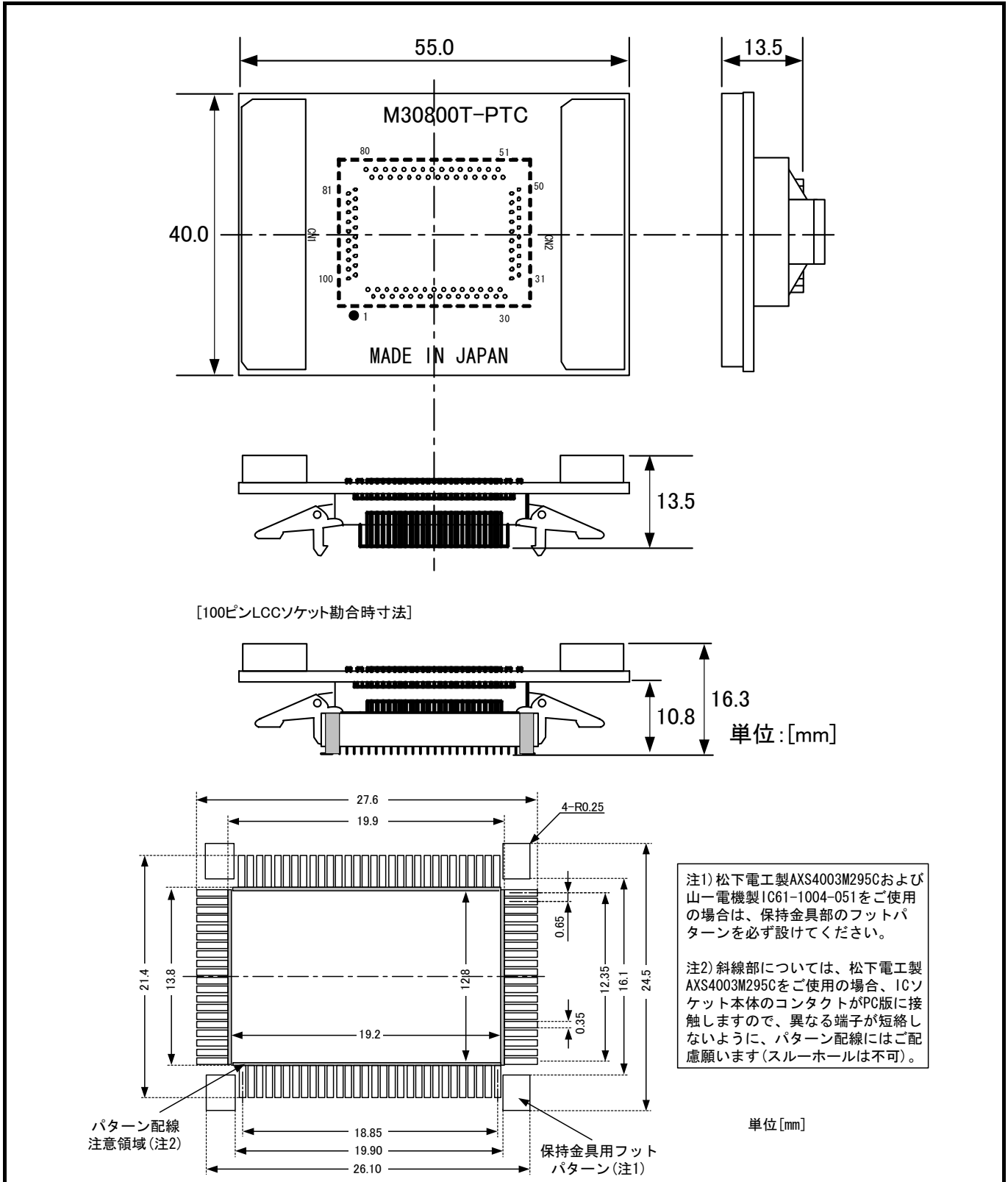


図4.9 M30800T-PTCユーザーシステム接続部の寸法図

4.5.3 変換基板(M3T-F160-100NRB)寸法図

図4.10に、100ピン0.65mmピッチQFP用変換基板M3T-F160-100NRB(別売)の寸法図および参考フットパターンを示します。

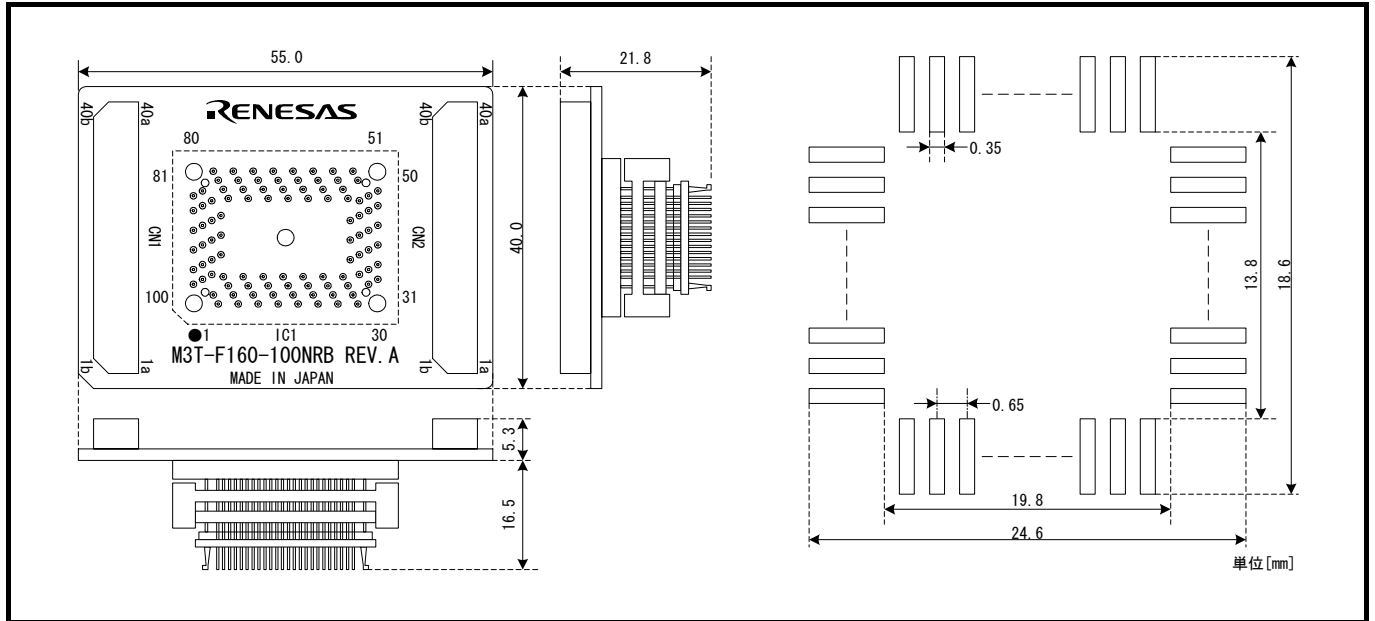


図4.10 変換基板(M3T-F160-100NRB)寸法図および参考フットパターン

4.5.4 変換基板(M3T-F160-100NSD)寸法図

図4.11に、100ピン0.5mmピッチLQFP用変換基板M3T-F160-100NSD(別売)の寸法図および参考フットパターンを示します。

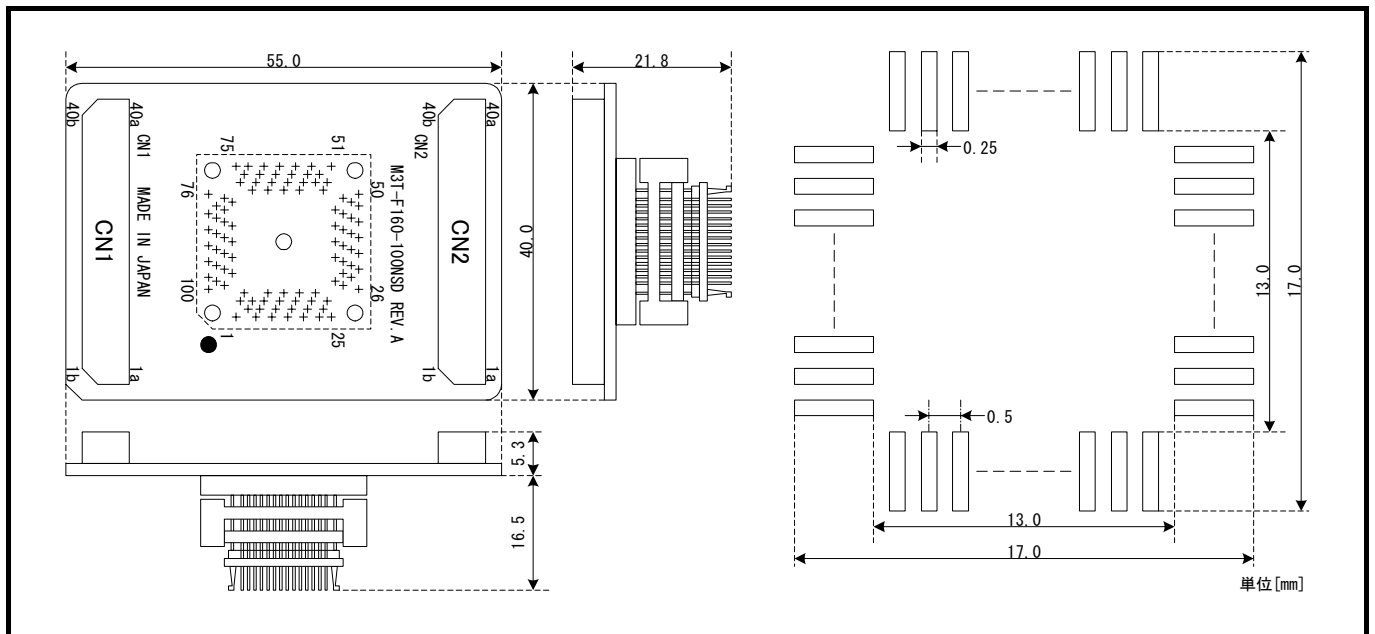


図4.11 変換基板(M3T-F160-100NSD)寸法図および参考フットパターン

4.5.5 変換基板(M3T-F160-128NRD)寸法図

図4.12に、128ピン0.5mmピッチLQFP用変換基板M3T-F160-128NRD(別売)の寸法図および参考フットパターンを示します。

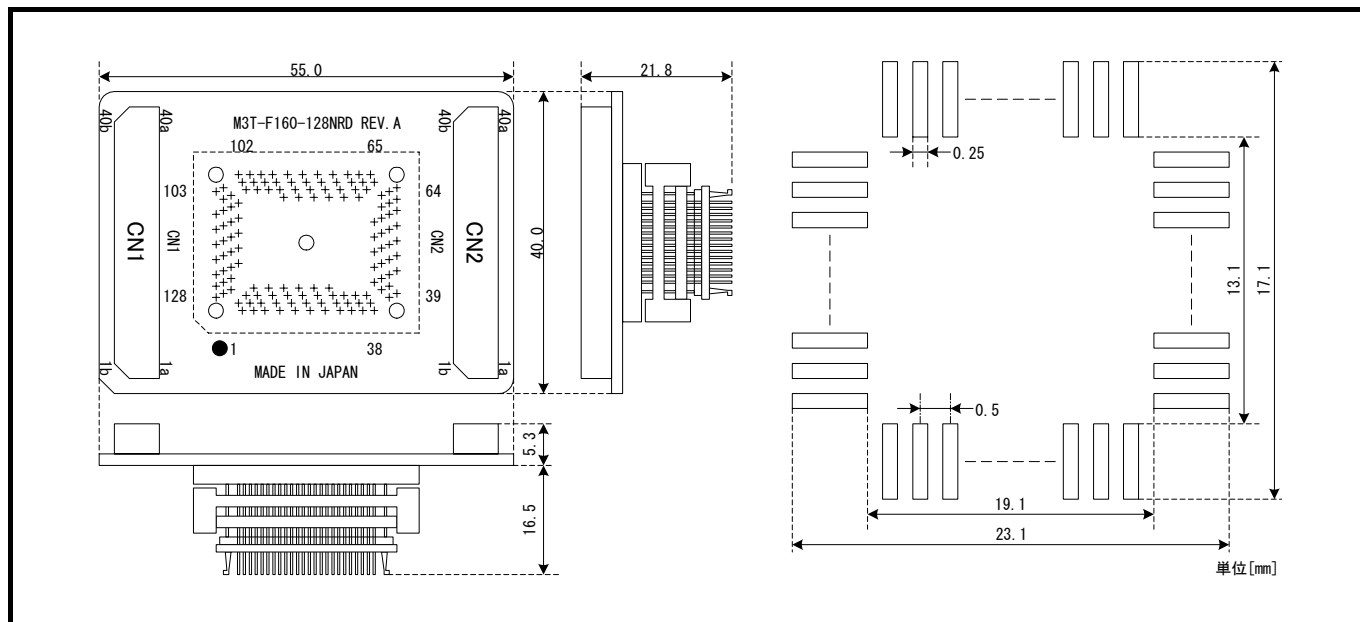


図4.12 変換基板(M3T-F160-128NRD)寸法図および参考フットパターン

4.6 使用上の注意事項

本エミュレータを使用する上での注意事項を以下に示します。本エミュレータを使用し、デバッグする際にはご注意願います。

重要

エミュレータデバッガのバージョンに関して：

- 本製品は、下記いずれかのエミュレータデバッガと組み合わせてご使用ください。
 - ①M16C R8C PC7501エミュレータデバッガ V1.01 Release 00 以降
 - ②M3T-PD30F V2.20 Release1 以降

MCUファイルに関して：

- 本製品をご使用いただく際に必要なMCUファイルは「M16C6NK.mcu」です。

PC7501システムの異常動作に関して：

- 外来ノイズなどの妨害が原因でエミュレータの動作が異常になった場合、次の手順で処置してください。
 - ①PC7501本体パネル前面にあるシステムリセットスイッチを押してください。
 - ②上記①の処置を実施しても正常に復帰しない場合は、エミュレータの電源を切り、再度電源を投入してください。

ファームウェアのダウンロードに関して：

- 本製品を初めてご使用になる場合、専用ファームウェア(PC7501に内蔵されるエミュレータのコントロールソフトウェア)をダウンロードする必要があります。このとき、PC7501をメンテナンスモードと呼ぶ特殊なモードで起動する必要がありますのでご注意ください。
ファームウェアのダウンロード方法は2.7節「ファームウェアのダウンロード」(28ページ)を参照ください。次回起動時以降については、通常の電源投入でご使用いただけます。
- ファームウェアのダウンロード中に電源を切らないでください。途中で電源が切れた場合、正常に起動できなくなります。予期しない状況で電源が切れた場合は、ダウンロードを再度実行してください。
- ファームウェアのダウンロードは、ユーザシステム未接続の状態で行ってください。

セルフチェックに関して：

- セルフチェックが正常に終了しない場合(ターゲットステータスエラーを除く)は、製品が故障している可能性がありますので販売担当者までご相談ください。
- セルフチェックは、ユーザシステム未接続の状態で行ってください。

エミュレータデバッガの終了に関して：

- エミュレータデバッガを終了し再度起動する場合は、必ずPC7501の電源も一度切断し再度投入してください。

重要

MCUステータスの表示に関して：

- エミュレータデバッグのMCU SettingダイアログMCUタブ内で参照できるMCU Statusは、ユーザシステムの端子レベルを表示しています。使用するモードに応じた端子レベルが設定されていることを確認してください。
 - ① シングルチップモードを使用する場合
CNVss：“L”
 - ② メモリ拡張モード16ビットデータバス幅を使用する場合
CNVss：“L”、BYTE：“L”、HOLD#：“H”、RDY#：“H”
 - ③ メモリ拡張モード8ビットデータバス幅を使用する場合
CNVss：“L”、BYTE：“H”、HOLD#：“H”、RDY#：“H”
 - ④ マイクロプロセッサモード16ビットデータバス幅を使用する場合
CNVss：“H”、BYTE：“L”、HOLD#：“H”、RDY#：“H”
 - ⑤ マイクロプロセッサモード8ビットデータバス幅を使用する場合
CNVss：“H”、BYTE：“H”、HOLD#：“H”、RDY#：“H”

MCUへのクロック供給に関して：

- エバリュエーションMCUへ供給するクロックは、エミュレータデバッグのInitダイアログEmulatorタブ内で選択できます。
 - ① Internalを選択した場合
PC7501内部の発振回路基板で生成されたクロックを供給します。ユーザシステムのクロック発振状態やユーザプログラムの実行状態に依存しません。
 - ② Externalを選択した場合
ユーザシステム上で発振しているクロックを供給します。ユーザシステムのクロック発振状態に依存します。
 - ③ Generatedを選択した場合
PC7501内部の専用回路で生成されたクロックをエバリュエーションMCUへ供給します。ユーザシステムのクロック発振状態やユーザプログラムの実行状態に依存しません。

動作周波数に関して：

- 本製品は、メインクロック(XIN-XOUT)1MHz未満では使用できません。1MHz未満で使用される場合は、コンタクトセンタまでお問い合わせください。

タイムアウトの設定に関して：

- 低速の動作周波数でプログラムのダウンロード、プログラム実行、ステップ実行をされるととき、タイムアウトエラーによる通信エラーが発生する場合があります。エミュレータデバッグ起動後、スクリプトウィンドウにて以下コマンドを実行して下さい。

[コマンド]

```
_settimeout 300,300
```

本コマンドは、1回実行すると次回エミュレータデバッグ起動時にも有効となりますので、再度コマンドを実行する必要はありません。

本設定後も現象が変わらない場合は、別の原因が考えられますので、コンタクトセンタまでお問い合わせください。

ストップモード、ウェイトモードに関して：

- ストップモードやウェイトモードに移行する命令をシングルステップ実行しないでください。通信エラーが発生する場合があります。

オンチップオシレータクロックでのストップモードからの復帰動作に関して：

- オンチップオシレータモードまたはオンチップオシレータ低消費電力モードからストップモードに移行した場合、NMI#以外の割り込みでは復帰できません。

復帰できない割り込みを以下に記載します。

- ① キー入力割り込み
- ② INT割り込み
- ③ タイマA、タイマBの割り込み
- ④ シリアルI/Oの割り込み

重要

ウォッチドッグタイマに関して：

- ユーザシステムのリセット回路にウォッチドッグタイマ機能がある場合、エミュレータ使用時はウォッチドッグタイマ機能を禁止してください。

プロテクトレジスタに関して：

- ポートP7, P9方向レジスタやSI/Oi制御レジスタへの書き込みを許可するプロテクトレジスタPRCRのビット2“PRC2”を以下の方法で変更した場合は、プロテクトが解除されません。
 - ① 『PRC2を“1”にセットする命令』をシングルステップ実行
 - ② 『PRC2を“1”にセットする命令』にS/Wブレークポイントを設定した状態で、その命令からのプログラム実行
 - ③ 『PRC2を“1”にセットする命令』から『ポート P7, P9方向レジスタやSI/Oi制御レジスタの設定』までの間にブレークポイントを設定
 - ④ Memory WindowやScript Windowから『PRC2を“1”に設定』

アクセス禁止領域に関して：

- 内部予約領域を使用することはできません。この領域へのライトは無視され、リードした値は不定となります。

ブレークの種類に関して：

- エミュレータデバッガでは下記3種類のブレーク機能が選択可能です。
 - ① アドレス一致ブレーク
MCUのアドレス一致割り込み機能を使用し、指定したアドレスの命令を実行する直前でブレークさせるデバッグ機能です。指定したアドレスの命令は実行されません。
 - ② S/Wブレーク
指定したアドレスの命令をBRK(00h)に変更してBRK割り込みを発生させ、指定したアドレスの命令を実行する直前でブレークさせるデバッグ機能です。指定したアドレスの命令は実行されません。
 - ③ H/Wブレーク
指定したアドレスの命令実行検出をブレークイベントに設定してブレークさせるデバッグ機能です。指定したアドレスの命令を実行した後にブレークします。

S/Wブレークに関して：

- S/Wブレークは、指定したアドレスの命令をBRK(00h)に変更します。このため、トレース結果のバス表示などを参照する場合は、“00h”が表示されますのでご了承ください。
- BRK命令はエミュレータで使用しているため、ユーザプログラム中ではご使用にならないください。
- MCU内部ROM領域のS/Wブレークポイントは、ユーザプログラム実行中に設定や解除できません。MCU内部RAM領域およびチップセレクトCS3#～CS0#中でマップ設定をINTERNALに指定した領域(エミュレーションメモリ)については設定や解除が可能です。

アドレス一致ブレークに関して：

- アドレス一致ブレークは、設定や解除の処理速度が速く、MCU内蔵フラッシュROMの書き換え回数を低減することができます。
- アドレス一致ブレークは、MCU内部RAM領域およびMCU内部ROM領域のみ設定可能です。
- アドレス一致ブレークポイントは、最大8点を設定可能です。
- アドレス一致ブレークポイントは、ユーザプログラム実行中でも設定や解除が可能です。

重要

ユーザシステムへの電源供給に関して：

- 本製品ではVcc1、Vcc2端子をユーザシステムの電圧監視のために接続しています。このためエミュレータからはユーザシステムへの電源供給はできませんので、ユーザシステムには別途電源を供給してください。
 - ① ユーザシステムの電源電圧は、MCUの動作保証範囲内で使用してください。
 - ② ユーザシステムの電源電圧は、電源投入後変化させないでください。

MCU内蔵フラッシュROMに関して：

- 本製品は、シングルチップモード、メモリ拡張モードのデバッグ時にユーザプログラムをMCU内蔵フラッシュROMへダウンロードします。エミュレータデバッグのMCU SettingダイアログMCUタブ内で“オプション”をチェックすることで、MCU内蔵フラッシュROMの動作を禁止してPC7501内部のエミュレーションメモリが使用できます。

動作可能な最大動作周波数はそれぞれ以下のようになります。

- ① “オプション”をチェックしない場合
 - アクセス領域： MCU内蔵のフラッシュROM
 - 最大動作周波数： 24MHz(0ウェイト設定、1ウェイト設定)
- ② “オプション”をチェックした場合
 - アクセス領域： PC7501内部のエミュレーションメモリ
 - 最大動作周波数： 10MHz(0ウェイト設定、1ウェイト設定)

- MCU内部フラッシュROMは、書き込み／消去回数が有限であるため、寿命による交換が必要となります。

- プログラムのダウンロード時に、以下のエラーが頻繁に発生する場合は、コンタクトセンタまでご連絡ください。

- ① フラッシュROM消去エラーが発生しました。ERROR (16258)
- ② フラッシュROMベリファイエラーが発生しました。ERROR (16259)

メモリ拡張モード、マイクロプロセッサモードのデバッグ時に関して：

- 本製品は、メモリ拡張モード、マイクロプロセッサモードのデバッグ時にエミュレーションメモリを割り当てることができます。エミュレータデバッグのMCU SettingダイアログMAPタブ内で、最大4領域に4KB単位でエミュレーションメモリを指定することができます。

動作可能な最大動作周波数はそれぞれ以下のようになります。

- ① 最大動作周波数(5.0[V]時) 0ウェイト： 7MHz
 1ウェイト： 20MHz
 2ウェイト,3ウェイト： 24MHz
- ② 最大動作周波数(3.0[V]時) 0ウェイト： 6MHz
 1ウェイト： 17MHz
 2ウェイト,3ウェイト： 24MHz

重要

CPU書き換えモードのデバッグに関して：

- M16C/6NグループM16C/6NK, M16C/6NL, M16C/6NM, M16C/6NN, M16C/6N4, M16C/6N5のCPU書き換えモードデバッグにおいて、ブロック0領域(FF000h～FFFFFh番地)は、フラッシュROMの書き換えをしないでください。書き換えた場合、エミュレータが制御できなくなります。
- エミュレータデバッグのInitダイアログMCUタブ内で”CPU書き換えを使うプログラムをデバッグする”をチェックした場合、以下の機能が使用できません。
 - ①内部ROM領域へのS/Wブレークポイント設定
 - ②内部ROM領域へのCOME実行
- CPU書き換えモード状態で、プログラムを停止しないでください。また、CPU書き換えモードになる命令をシングルステップしないでください。CPU書き換えモードでは、エミュレータが制御できなくなります。
- CPU書き換え実行後のデータは、書き換え制御プログラム領域以外でプログラムを停止させ、メモリウィンドウなどで参照してください。

次の割り込みベクタはエミュレータシステムが使用するため、リードした場合は期待する値とは異なるデータが読み出されます。

- ①BRK命令(FFFE4h～FFFE7h)
- ②アドレス一致(FFFE8h～FFFEb)
- ③シングルステップ(FFFECh～FFFEFh)
- ④DBC(FFFF4h～FFFF7h)

アドレス一致割り込みにに関して：

- ユーザプログラム中でアドレス一致割り込み機能を使用する場合は、エミュレータデバッグのInitダイアログMCUタブ内で”アドレス一致割り込みをアドレス一致ブレークに使用する”のチェックを外してください。これにより、MCU内部RAM領域およびMCU内部ROM領域には、通常のS/Wブレークが設定されます。
- アドレス一致割り込みの発生するアドレスにS/Wブレークを設定しないでください。ユーザプログラムが暴走する場合があります。S/WブレークやH/Wブレークは、アドレス一致割り込み処理の先頭に設定してください。
- アドレス一致割り込みの発生するアドレスをシングルステップ実行した場合、アドレス一致割り込み処理と割り込みから復帰した最初の命令を実行した後にユーザプログラムが停止します。

00000h, 00001h番地へのアクセスに関して：

- M16C/60シリーズのMCUは、マスカブル割り込みの要求が発生した場合、その情報(割り込み番号と割り込み要求レベル)が格納されている00000h, 00001h番地をリードし、これによって割り込み要求ビットをクリアする仕様となっています。したがって、(意図的でなくても) 00000hまたは00001h番地をリードすると、許可されている中で最も優先度の高い割り込み要因の要求ビットがクリアされ、『割り込み要求が発生しても割り込み処理が行われない』という誤動作が発生します。本製品は、割り込み処理以外で00000hまたは00001h番地がリードされたことを検出し、PC7501上面のWARNING LED (黄色)を点灯させます。このLEDが点灯した場合は、ユーザプログラム中に00000h, 00001h番地への不正なリードアクセスがないかを確認してください。

5. トラブルシューティング

この章では、本製品が正常に動作しない場合の対処方法を説明しています。

5.1 トラブル時の解決フロー

図5.1に、エミュレータシステムの電源投入から、エミュレータデバッガ起動までに問題が発生した場合の、解決フローを示します。ユーザシステムは外した状態で確認してください。また最新の情報については、以下のホームページを参照してください。

[ホームページアドレス] <http://japan.renesas.com/tools>

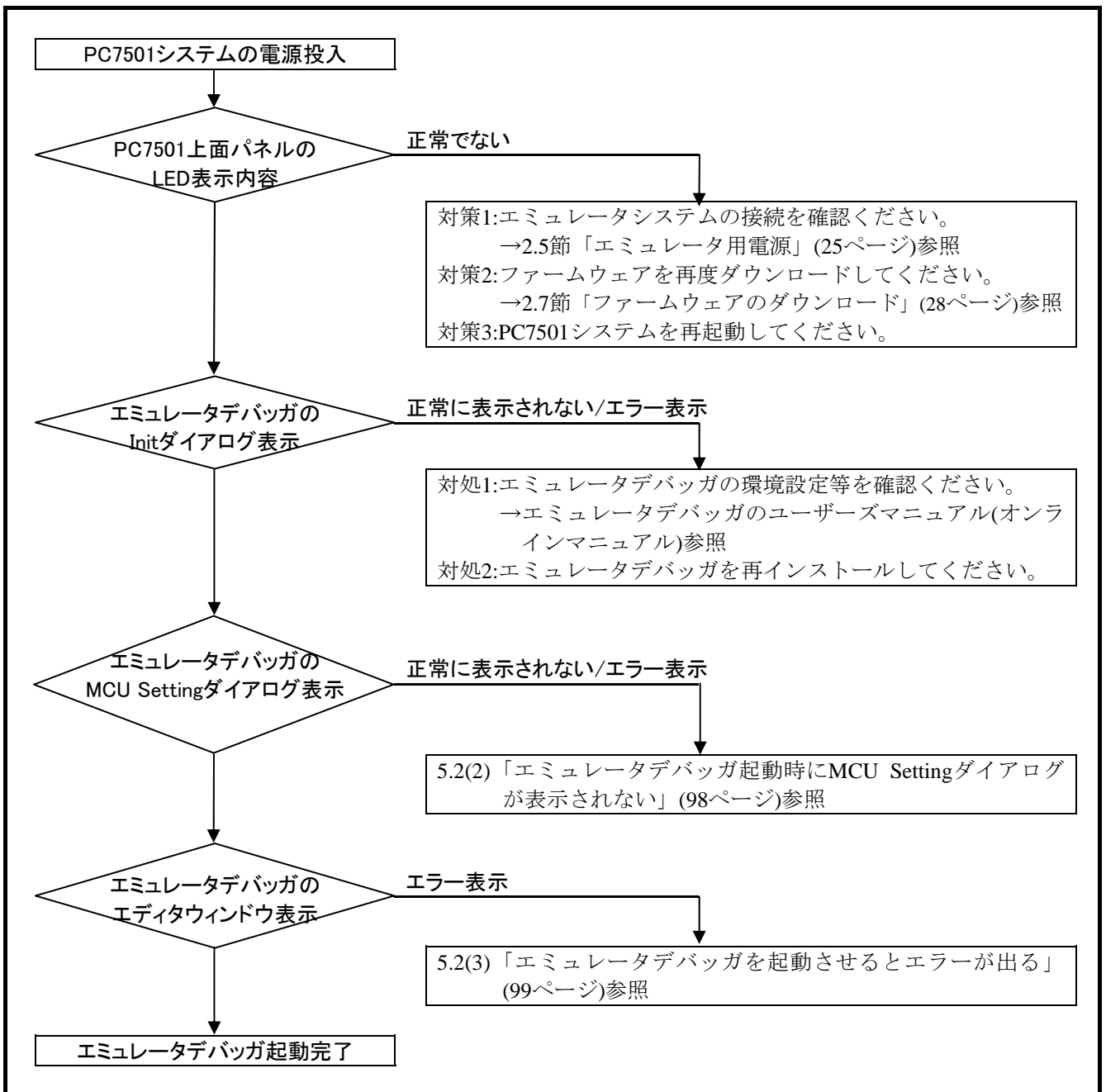


図5.1 トラブル時の解決フロー

5.2 エミュレータデバグが起動しない

(1) PC7501のLEDが正常表示されない

表 5.1 エミュレータのLED表示異常時の確認事項

エラー内容	ユーザシステム の接続	確認内容
LEDが点灯しない	—	電源ケーブルの接続を再度確認してください。 →2.5節「エミュレータ用電源」(25ページ)、PC7501ユーザーズマニュアル参照
LEDが全点灯したままである。	—	PC7501と本製品との接続を再度ご確認ください。 →2.4節「PC7501への接続」(24ページ)参照
ターゲットステータスLEDのPOWER LEDが点灯しない	接 続	ユーザシステムに電源(VccおよびGND)が正しく供給されているかを確認してください。
ターゲットステータスLEDのCLOCK LEDが点灯しない	未接続	①エミュレータデバグのクロック選択でメイン/サブともEXT設定になっていないかを確認してください。 →エミュレータデバグのCLKコマンド参照 ②PC7501内部の発振回路基板が正しく取り付けられ、発振しているかを確認してください。 →2.11節「供給クロックの選択」42ページ参照
	接 続	クロックを外部から供給する設定にしている場合は、ユーザシステム上の発振回路が正しく発振しているかを確認してください。
ターゲットステータスLEDのRESET LEDが消灯しない	接 続	ユーザシステムのリセット端子が"H"レベルであるかを確認してください。

(2) エミュレータデバッガ起動時にMCU Settingダイアログが表示されない

表 5.2 エミュレータデバッガ起動時エラー確認事項

エラー内容	確認内容
ERROR 16005: 通信エラーが発生しました。ターゲットにデータを転送できません。	エミュレータデバッガの設定、インタフェースケーブルの接続、PC7501の背面スイッチ設定がすべて一致しているかを確認してください。 →PC7501およびエミュレータデバッガのユーザーズマニュアル参照
ERROR 16207: ユーザシステムが正しく構成されていません。	①正しいファームウェアをダウンロードしてください。 →2.7節「ファームウェアのダウンロード」(28ページ)参照 ②PC7501と本製品との接続を再度確認してください。 →2.4節「PC7501への接続」(24ページ)参照
ERROR 16211: PD30Fのバージョンとターゲットに搭載しているファームウェアのバージョンが対応していません。	正しいファームウェアをダウンロードしてください。 →2.7節「ファームウェアのダウンロード」(28ページ)参照
ERROR 16614: 現在ターゲットMCUはリセット状態です。ターゲットシステムをリセットしてください。	①ユーザシステムのリセット端子が"H"レベルであることを確認してください。 ②ユーザシステム上のリセット端子が"L"→"H"に変化しているかを確認してください。
ERROR 16615: 現在ターゲットMCUはリセット不可状態です。ターゲットシステムをリセットしてください。	①NMI#端子のレベルが"H"であることを確認してください。 ②メモリ拡張モードやマイクロプロセッサモード時においてRDY#端子やHOLD#端子が"H"レベルであることを確認してください。 ③ユーザシステム上でウォッチドッグ機能付きのリセット回路を使用している場合は、ウォッチドッグ機能を禁止してください。 ④ユーザシステム上に電源、GNDが正しく供給されているかを確認してください。
ERROR 16616: 現在ターゲットMCUはHOLD状態です。	①メモリ拡張モードやマイクロプロセッサモード時においてRDY#端子やHOLD#端子が"H"レベルであることを確認してください。 ②MCUがストップモードまたはウェイトモードになっていません。MCUをリセットするか割り込みにより解除してください。 →MCUの仕様書参照
ERROR 16617: 現在ターゲットクロックが停止状態です。	ユーザシステム上の発振回路が正しく発振しているかを確認してください。
ERROR 16618: 現在ターゲットMCUは電源未供給状態です。	ユーザシステム上に電源、GNDが正しく供給されているかを確認してください。

(3) エミュレータデバッガを起動させるとエラーが出る

表 5.3 エミュレータデバッガ起動時エラー確認事項

エラー内容	確認内容
ERROR 16224: ターゲットMCUが暴走しました。 RESETコマンドを実行してください。	① ユーザシステム上に実装されているNQPACK等が、正しく半田付けされていることを確認してください。 ② ユーザシステムとの接続コネクタが、正しく嵌合されていることを確認してください。 ③ メモリ拡張モードやマイクロプロセッサモード時において、RDY#端子やHOLD#端子が"H"のレベルであることをご確認ください。

5.3 サポート依頼方法

5章「トラブルシューティング」確認後、製品のサポートを依頼される場合は、以下URLの「技術サポート連絡書」フォームに従い必要事項を記入の上、コンタクトセンタ support_tool@renesas.comまで送信ください。

[技術サポート連絡書] <http://tool-support.renesas.com/jpn/toolnews/registration/support.txt>

なお、サポート依頼される際には、通信欄に以下情報の追記をお願いします。

①動作環境

- ・動作電圧 : _____[V]
- ・動作周波数 : _____[MHz]
- ・MCUへのクロック供給源 : エミュレータ内蔵回路使用／ユーザシステム上の発振回路使用

②発生状況

- ・エミュレータデバッグは起動する／しない
- ・セルフチェック時にエラーが発生する／しない
- ・発生頻度 常時／頻度 ()

③サポート依頼内容

6. 保守と保証

この章では、本製品の保守方法と保証内容、修理規定と修理の依頼方法を説明しています。

6.1 ユーザ登録

ご購入頂いた際には、必ずユーザ登録をお願い致します。ユーザ登録については、本ユーザーズマニュアルの「ユーザ登録」(11ページ)を参照ください。

6.2 保守

- (1) 本製品に埃や汚れが付着した場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。シンナーなどの溶剤を使用した場合には、塗料が剥げたりしますので使用しないでください。
- (2) 長時間使用しない時は、安全のため電源プラグをコンセント等から抜いて保管してください。

6.3 保証内容

本書の「重要事項」、「安全事項」を守った正常な使用状態のもとで、購入後1年以内に故障した場合は、無償修理または、無償交換いたします。

ただし、次の項目による故障の場合は、ご購入から1年以内でも有償修理または、有償交換といたします。

- ・製品の誤用、濫用または、その他異常な条件下での使用
- ・弊社以外による改造、修理、保守または、その他の行為
- ・ユーザシステムの不備または、誤使用
- ・火災、地震、または、その他の事故

修理を依頼される際は、購入された販売元の担当者へご連絡ください。

なお、レンタル中の製品は、レンタル会社または、貸し主とご相談ください。

6.4 修理規定

(1) 有償修理

ご購入後1年を超えて修理依頼される場合は、有償修理となります。

(2) 修理をお断りする場合

次の項目に該当する場合は、修理ではなく、ユニット交換または、新規購入いただく場合があります。

- ・機構部分の故障、破損
- ・塗装、メッキ部分の傷、剥がれ、錆
- ・樹脂部分の傷、割れなど
- ・使用上の誤り、不当な修理、改造による故障、破損
- ・電源ショートや過電圧、過電流のため電気回路が大きく破損した場合
- ・プリント基板の割れ、パターン焼失
- ・修理費用より交換の費用が安くなる場合
- ・不良箇所が特定できない場合

(3) 修理期間の終了

製品生産中止後、1年を経過した場合は修理不可能な場合があります。

(4) 修理依頼時の輸送料など

修理依頼時の輸送料などの費用は、お客様でご負担願います。

6.5 修理依頼方法

製品の故障と診断された場合には、添付の修理依頼書へ必要事項をご記入のうえ、修理依頼書と故障製品を販売元まで送付してください。修理依頼書は、迅速な修理を行うためにも詳しくご記入願います。

注意

製品の輸送方法に関して：

- 修理のために本製品を輸送される場合、本製品の梱包箱、クッション材を用いて精密機器扱いで発送してください。製品の梱包が不十分な場合、輸送中に損傷する恐れがあります。やむをえず他の手段で輸送する場合、精密機器として厳重に梱包してください。また製品を梱包する場合、必ず製品添付の導電性ポリ袋(通常青色の袋)をご使用ください。他の袋を使用した場合、静電気の発生などにより製品に別の故障を引き起こす恐れがあります。

M16C/6NグループM16C/6N4, /6N5, /6NK, /6NL, /6NM, /6NN用
エミュレーションプローブ
ユーザーズマニュアル
M306NKT-EPB

発行年月日 2006年10月16日 Rev.2.00

発行 株式会社 ルネサス テクノロジ 営業企画統括部
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-2

編集 株式会社 ルネサス ソリューションズ ツール開発部

© 2006. Renesas Technology Corp. and Renesas Solutions Corp., All rights reserved. Printed in Japan.

M306NKT-EPB
ユーザーズマニュアル



ルネサスエレクトロニクス株式会社
神奈川県川崎市中原区下沼部1753 〒211-8668

RJJ10J0681-0200(T)